

おおさか

# 経済の動き 別冊

“2024(令和6)年の大阪経済”

大阪府商工労働部

**orcie** 大阪産業経済リサーチセンター  
Osaka Research Center for Industry and the Economy

# おおさか 経済の動き別冊 2024（令和6）年の大阪経済

## 目次

|                                          |    |
|------------------------------------------|----|
| 要 約 .....                                | 2  |
| 第1章 大阪経済は、一進一退で推移 .....                  | 3  |
| 1. 実質経済は、プラスながら前年を下回る成長 .....            | 3  |
| 2. 大阪府の景気は弱い動きで推移 .....                  | 3  |
| 3. 需要は一部に弱い動きがみられるが、持ち直して推移 .....        | 4  |
| 4. 生産は、年後半に減速 .....                      | 6  |
| 5. 雇用は持ち直しの動きで推移 .....                   | 6  |
| 6. 企業業況は緩やかな持ち直しが続いた .....               | 7  |
| 第2章 2024年の経済動向 .....                     | 9  |
| 第1節 需要は一部に弱さがあるものの緩やかに持ち直して推移 .....      | 9  |
| 1. 個人消費は緩やかに持ち直して推移 .....                | 9  |
| 2. 住宅投資は横ばい .....                        | 17 |
| 3. 民間設備投資は堅調に推移 .....                    | 20 |
| 4. 近畿圏の輸出入額は、ともに2年ぶりのプラス .....           | 28 |
| 5. 日本人の観光需要は、年後半に伸び悩んだ .....             | 32 |
| 第2節 産業活動は、弱含みで推移 .....                   | 38 |
| 1. 生産活動は、3年連続の低下 .....                   | 38 |
| 2. 有効求人倍率は、年後半に下降基調が底打ち .....            | 42 |
| 3. 消費者物価は上昇、国内企業物価も上昇 .....              | 45 |
| 4. 大阪の企業倒産は件数、負債総額とも増加 .....             | 51 |
| 第3章 2024年の企業動向 .....                     | 54 |
| 第1節 企業の業況は弱含み傾向に .....                   | 54 |
| 1. 企業の業況は、概ね弱含みで推移 .....                 | 54 |
| 2. 営業利益は漸減傾向で推移、資金繰りは低下基調 .....          | 56 |
| 3. 雇用不足感は高水準も、雇用予定人員は弱含みで推移 .....        | 58 |
| 第2節 中小企業の業況は、弱含みで推移 .....                | 59 |
| 1. 出荷・売上高は弱含みで推移、営業利益判断はわずかに改善の兆し .....  | 59 |
| 2. 業況は低下傾向で推移し、原材料価格や仕入単価の上昇が大きな課題 ..... | 61 |
| 主要経済指標 .....                             | 66 |

大阪府商工労働部商工労働総務課（大阪産業経済リサーチセンター）ホームページアドレス  
<https://www.pref.osaka.lg.jp/aid/sangyou/index.html>

二次元バーコードからホームページに移行できます。



# 2024（令和6）年の大阪経済

## 要 約

### （大阪経済は、一進一退で推移）

消費は、年初は減少傾向となったが、年の後半は持ち直して推移し、設備投資は前年から概ね横ばいで堅調に推移した。外需も力強さを欠くが持ち直して推移した。一方、生産は減速基調が続き低下した。雇用は就業者数が増加し完全失業率が横ばいなど持ち直しの動きで推移した。企業の業況は緩やかな持ち直しが続いたが、業況のプラス水準は製造業よりも非製造業の方が高かった。

### （個人消費は緩やかに持ち直して推移）

大型小売店の販売額は前年比 8.7%増、百貨店は同 13.7%増、スーパーは同 3.1%増と前年の実績を上回った。家電大型専門店、ドラッグストア及びホームセンターの販売額も年間を通じて前年比で増加した。乗用車新車販売台数は、1 月以降、前年同月を下回り、7 月と 9～11 月は前年同月を上回ったが、12 月に大きく下回った。勤労者の収入は、賃上げ率、夏季一時金及び年末一時金のいずれも増加した。

### （住宅投資は横ばい）

人口の転入超過を背景に需要は底堅かったものの、建築コスト等の高止まりや住宅ローン金利の上昇が影響し投資を控える動きもみられ、新設住宅着工戸数は前年比 0.1%減と横ばいで推移した。分譲マンション供給戸数は、府の過半を占める大阪市地域のワンルームマンションの供給戸数が半減したことなどにより 2 年連続で減少した。

### （民間設備投資は堅調に推移）

府内の大企業・中堅企業の設備投資計画は増加を見込み、「非鉄金属」（能力増強）、「運輸」（新線・沿線開発）などが牽引している。近畿地区の資本金 1,000 万円以上の中小企業も 2024 年度は増加を見込み、府内の中小企業を中心とする設備投資計画は持ち直し傾向にあった。一方、非居住用建築物着工は減少した。

### （近畿圏の輸出入額は、ともに 2 年ぶりのプラス）

輸出入額はともに 2 年ぶりのプラスとなり、概ね前年同月比でプラスとなった月が多かった。輸出地域別では中国を含むアジア向けのプラス寄与が大きく、品目別では原料別製品や電気機器などのプラス寄与が影響した。輸入地域別では中東からはマイナス寄与となったものの、他の主要地域からはプラス寄与となり、品目別では、食料品、一般機械、化学製品などのプラス寄与が影響した。

### （日本人の観光需要は、年後半に伸び悩んだ）

社会経済活動の制約がなくなり、円安基調など

による訪日旅行の割安感から、外国人の観光需要が急伸した一方、日本人の観光需要は自然災害や猛暑、物価高などを背景に旅行意欲が減退したこともあり、全体の観光需要は年後半に伸び悩んだ。

### （生産活動は、3 年連続の低下）

生産指数は 3 年連続で低下した。四半期別では、前年後半からの低下基調が続き、年間を通じて低下した。在庫循環図の動きでは、意図せざる在庫減局面から在庫調整・在庫減らし局面へと移行した。業種別の動きでは、業種によって変動に違いはあるものの、年間を通じて低下した業種が多く見られたほか、化学工業や金属製品工業などの業種の変動が生産指数全体に大きな影響を与えた。

### （有効求人倍率は年後半に下降基調が底打ち）

完全失業率は一進一退を繰り返し、下降傾向で推移した有効求人倍率は、全国との差が拡大した。新規求人数は、1 年を通して前年同期比がマイナスとなったが、年後半はマイナス幅が縮小した。

### （消費者物価は上昇、国内企業物価も上昇）

消費者物価は上昇が続き、年末にかけて前年同月比が上昇した。輸入物価は落ち着きつつも、賃金上昇等で継続して消費者物価に上昇圧力がかかっている。国内企業物価も 12 月に落ち着きをみせたものの上昇した。上昇要因は、賃金上昇が続くなかで、人件費や物流費等の上昇を販売価格に反映する動きも広がってきていることなどである。輸出物価と輸入物価も上昇したが、円高の進行を主要因として、8 月には鈍化している。

### （大阪の企業倒産は件数、負債総額とも大幅増加）

府における企業倒産は、不況型倒産を中心に件数、負債総額とも前年を上回り、負債額 10 億円以上の大型倒産件数は前年を上回る 24 件となった。

### （企業の業況は弱含み傾向に）

府内企業の業況判断は、2023 年前半の堅調さから後半の失速に転じた流れを受けて、2024 年も概ね弱含みで推移した。業種別では前年と同じように、ほとんどすべての期で製造業が非製造業を上回り、前年に比べるとその差が拡大し、非製造業においては年間を通して弱含みの動きを示したことから、全体の業況を下押しした。

### （中小企業の業況は、弱含みで推移）

業況は低下傾向で推移し、製造業、非製造業とも景況は下降した。「原材料価格の上昇」や「材料価格の上昇」が大きな課題となったほか、「従業員の確保難」も課題であり、「人件費の増加」が課題である割合が微増となる業界もみられた。

# 第1章 大阪経済は、一進一退で推移

## 大阪経済は、一進一退で推移

2024年の大阪経済は、一進一退で推移した。需要面では、消費は、年初は減少傾向となったが、年の後半は持ち直して推移し、設備投資は前年から概ね横ばいの水準で堅調に推移した。外需も力強さを欠くものの持ち直して推移した。一方、生産は、昨年後半からの減速基調が続き低下した。雇用は、就業者数の増加や完全失業率が横ばいであるなど持ち直しの動きで推移した。企業の業況は、緩やかな持ち直しが続いたが、業況のプラス水準は、製造業よりも非製造業の方が高い傾向であった。

### 1. 実質経済は、プラスながら前年を下回る成長

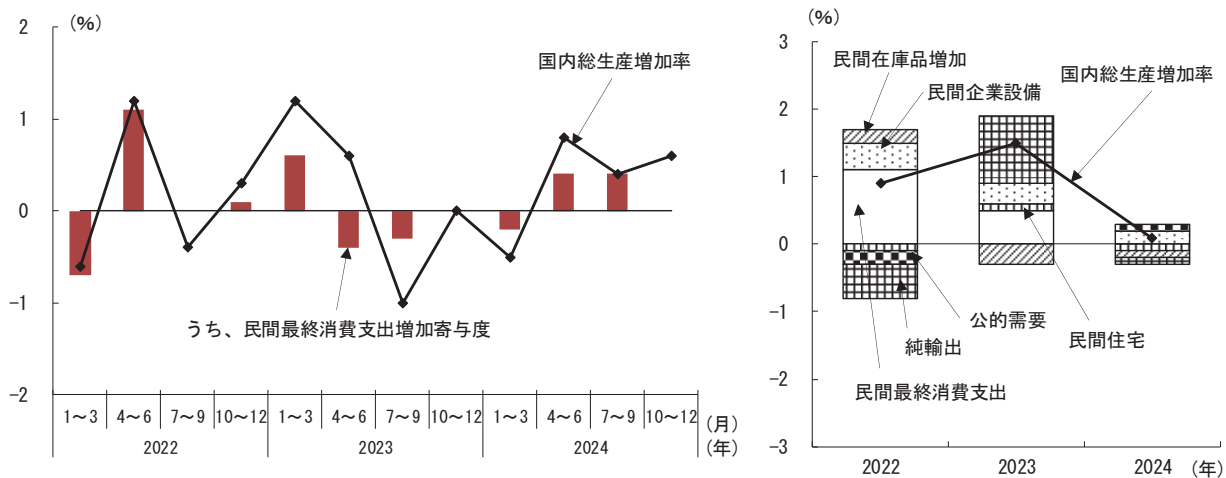
わが国経済の実質経済成長率（前期比、年率換算）は、2023年前半のプラス成長から同年の後半は弱い動きとなり、2024年1～3月期はマイナス成長であったが、4～6月期は0.8%増、7～9月期は0.4%増、10～12月期は0.6%増のプラス成長で推移した（図表1-1）。

支出項目別の増加寄与度をみると、最も大きな構成比を占める「民間最終消費支出」は、1～3月期は0.2ポイント減であったが、4～6月期は0.4ポイント増、7～9月期も0.4ポイント増となった。しかし、10～12

月期は0.0ポイントとなり年末に減速した。また、年後半は「民間在庫変動」がマイナスに寄与した。

年間でみると、2024年の実質経済成長率は、2023年の1.5%増を下回る対前年比0.1%増となり、暦年では弱い動きとなった。寄与度では、「民間企業設備」が0.2ポイント増、「公的需要」が0.1ポイント増であった一方、「民間住宅」、「民間在庫変動」、「純輸出」がそれぞれ0.1ポイント減であったことが、プラスながらも前年を下回る成長に寄与した。

図表1-1 実質経済成長率と寄与度（全国）



資料：内閣府「国民経済計算」。

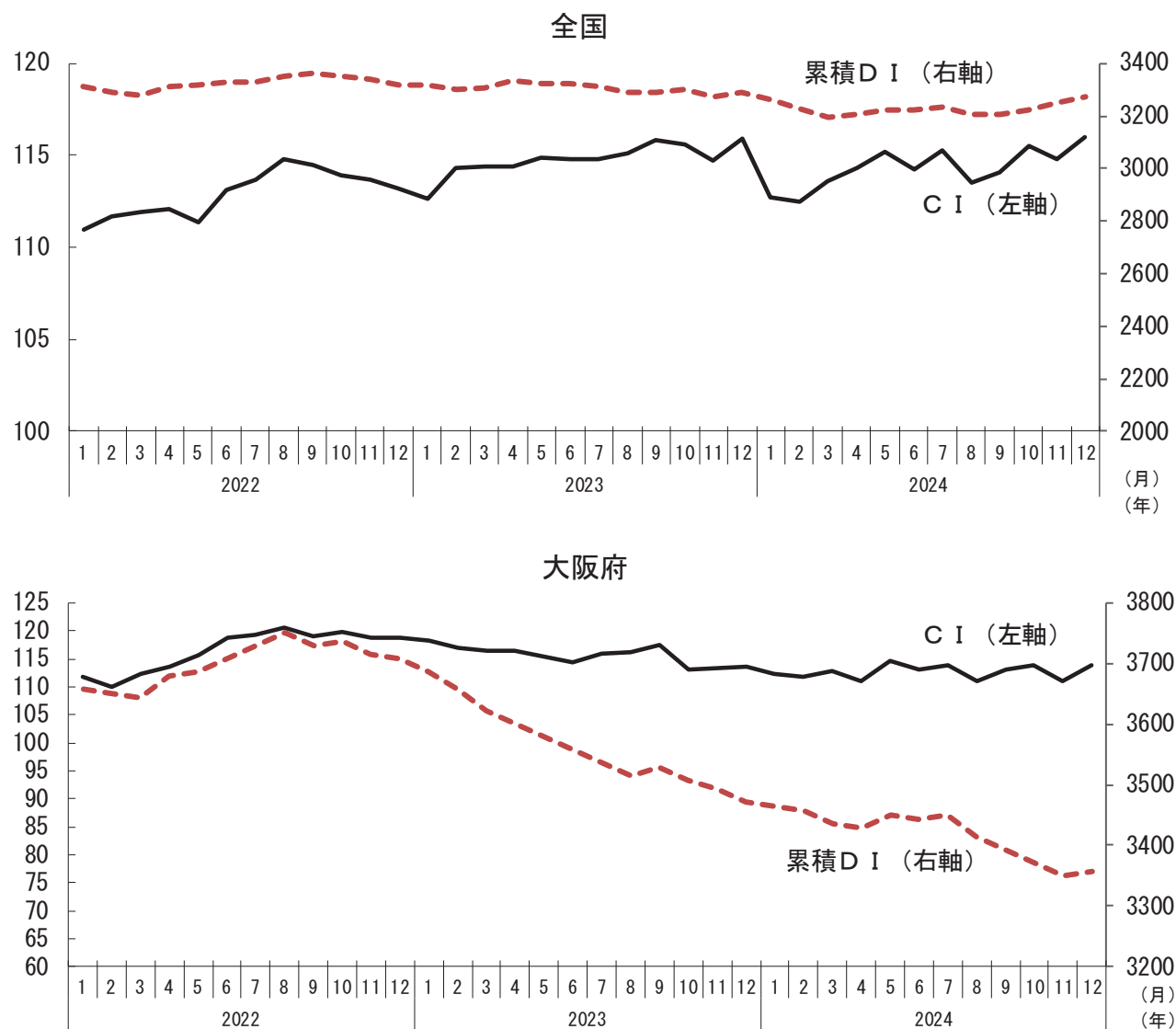
（注）季節調整済実質値の前期比年率換算（前年比）成長率と寄与度。公的需要は、政府最終消費支出、公的固定資本形成、公的在庫品増加の合計。

全国の景気動向指数の累積D I（ディフュージョン・インデックス/景気局面や景気転換点の循環を把握）の一致指数は、2020年6月を底に2022年の半ばまで持ち直しの基調で推移してきたが、2024年は2023年と同様に足踏みの状態となった（図表1-2）。また、C I（コンポジット・インデックス/景気変動の大きさやテンポを測定）は、2020年5月を底に上昇傾向に転じ、2024年の第一四半期はやや低い水準となったが、第二四半期以降は持ち直しの動きで推移した。

### 2. 大阪府の景気は弱い動きで推移

大阪府は、景気の山を2019年6月に、景気の谷を2020年5月に暫定的に設定している（2023年4月）。大阪府の累積D Iをみると、2020年7月を底に持ち直しの基調で推移してきたが、2024年は2023年当初からの低下傾向が続き、前年より低い水準となり、年後半にかけて低下傾向で推移した。また、大阪府のC Iは、2020年6月を底に持ち直しの基調で推移してきたが、2024年は2023年後半からの足踏み状態が続く弱い動きで推移した（図表1-2）。

図表 1-2 景気動向指数（一致指数）の推移



資料：大阪府は大阪産業経済リサーチセンターが作成、全国は内閣府が作成。

(注) 景気動向指数(CI、DI)は、消費、投資、生産、雇用などの景気に敏感に反応する指標の動きを統合した景気指標である。

DI (ディフュージョン・インデックス)は、景気局面の判断や景気転換点の判定に用いられる。

$DI = \{ (\text{拡張系列数} + \text{保合い系列数} \times 0.5) / (\text{採用系列数}) \} \times 100$

累積DI<sub>t</sub> = 累積DI<sub>t-1</sub> + (DI<sub>t</sub> - 50) 大阪府の累積DIには2000を加えている。

CI (コンポジット・インデックス)は、景気変動の大きさやテンポを測定するものである。CIは、基準時点の2020年を100とした相対的な水準を示す。

### 3. 需要は一部に弱い動きがみられるが、持ち直して推移

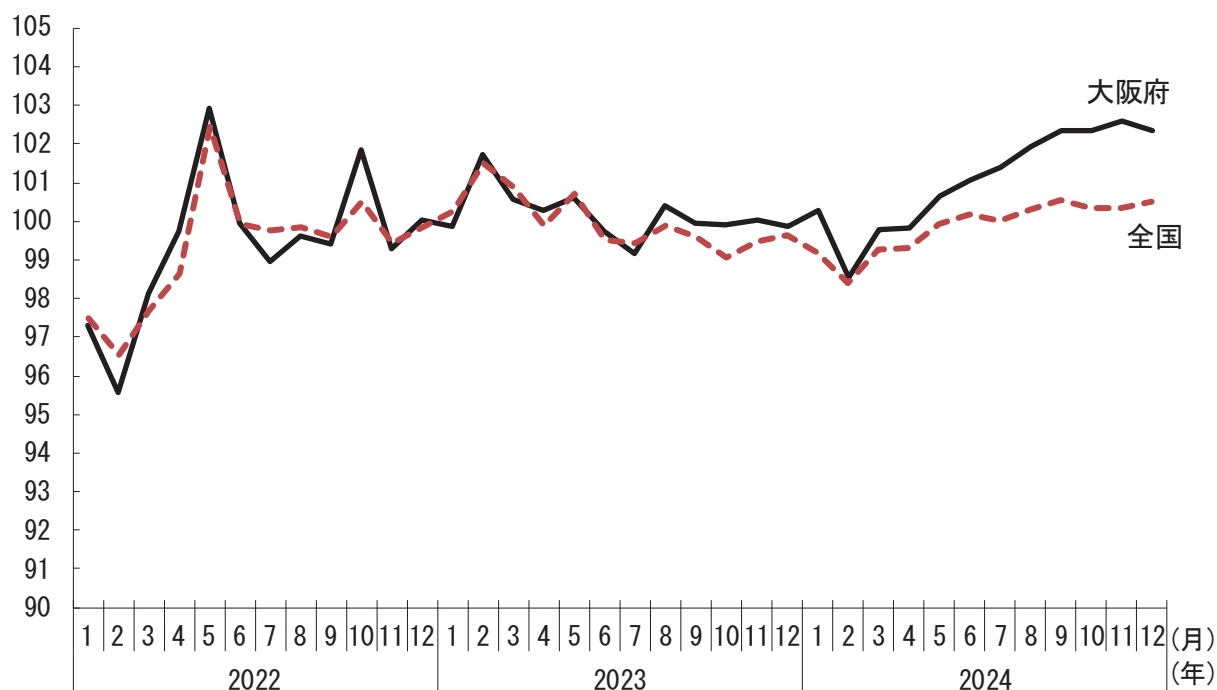
大阪の需要（支出の動向）について、内閣府の「地域別支出総合指数」（都道府県は参考値）からみると、消費は、2023年後半の服感から2024年の年初は減少傾向となったが、年の後半は持ち直して推移した（図表1-3）。

上記の消費以外の指数については、民間住宅投資は、2023年の後半に弱い動きとなり、2024年はわずかに持ち直した。また、民間設備投資は、前年を下回って推移した2022年に比べると、2023年は前年を上回って推移したが、年後半はやや弱

い動きとなった。

これらに関連して、府内企業の設備投資計画の推移を「大阪府景気観測調査」からみると、「増加」は14.8%と前年より1.0ポイント下降し、「減少」は10.7%と前年より1.4ポイント上昇した。一方、設備投資が「なし」の割合は、コロナ禍後の2020年度以降は40%を超える高止まりで推移しておりコロナ禍前の2019年の水準には戻っておらず、2024年は2023年を0.3ポイント上回る42.3%となった。また、公共投資（大阪府内の公共工事請負金額）は、前年比で横ばいであった（25頁参照）。

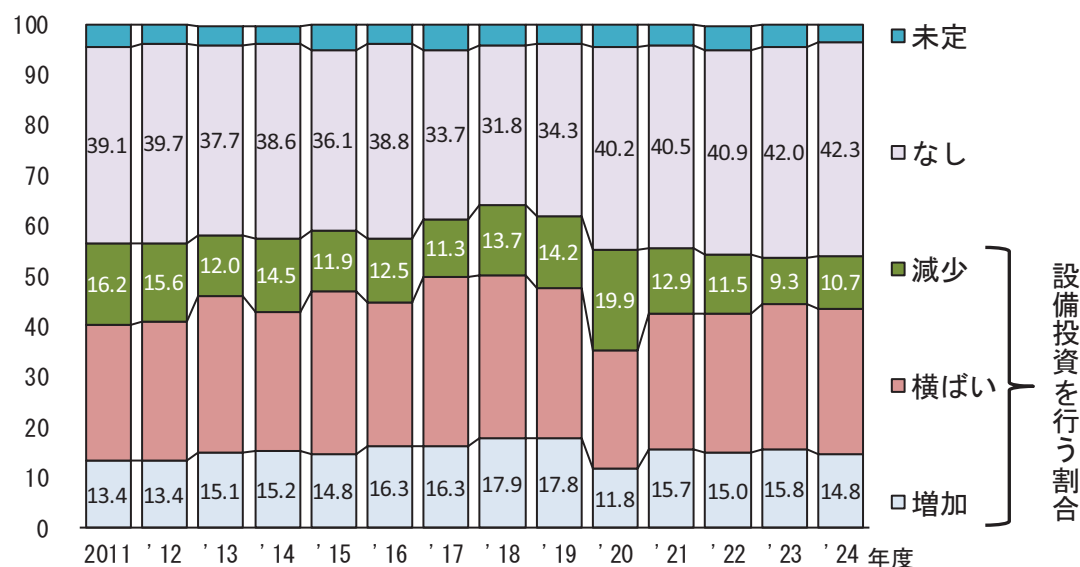
図表 1-3 消費総合指数の推移



資料：内閣府「地域別支出総合指数（RDEI）」

（注）地域別支出総合指数は、域内支出の動向を迅速かつ総合的に把握するための指標として算出されたもので、消費総合指数は、2012年＝100とした相対的な水準を示す。季節調整値。

図表 1-4 大阪府内企業の設備投資計画の前年度実績比



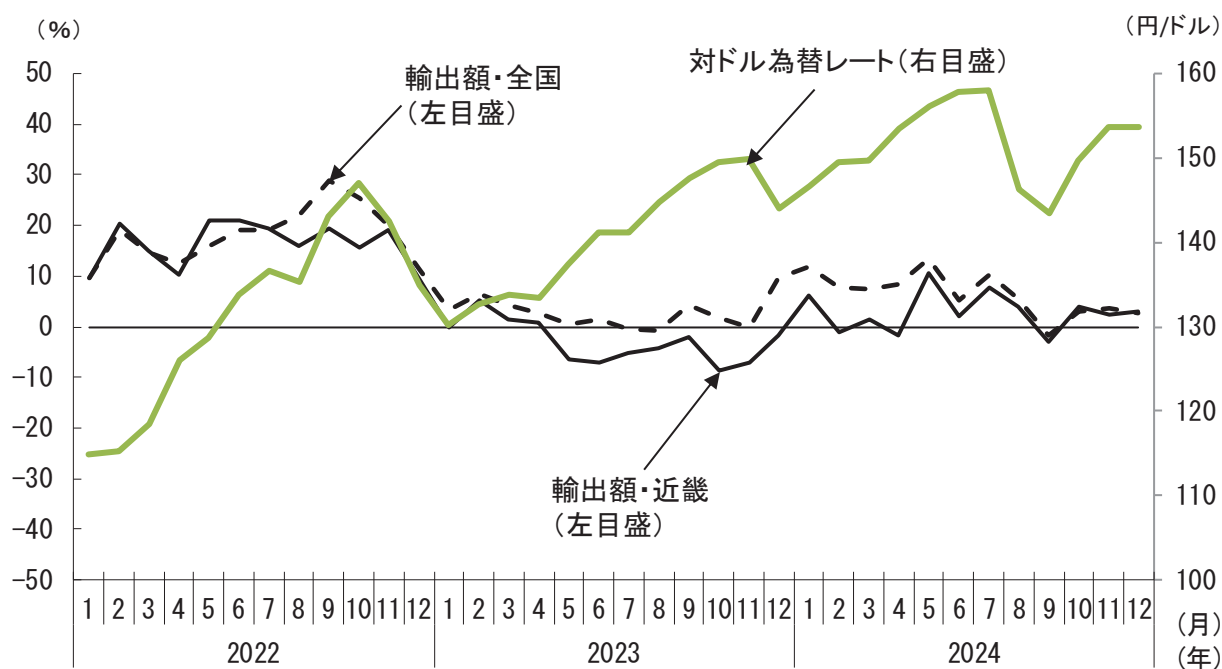
資料：大阪産業経済リサーチセンター「大阪府景気観測調査」

（注）各10～12月期における当該年度の設備投資計画の前年度実績比。

外需について、近畿の輸出額は、2020年5月の底から持ち直して2022年に過去最高額となっている。2024年は、2022年の輸出額には及ばないものの、2年ぶりに前年比で2.8ポイント上昇した。2024年の対ドル為替レートは円安ドル高で推移し、2024年の各月の対前年同月比は、中国経済の減速の影響などがみられた前年各月を概ね上

回り、中国を含む対アジアや対ASEANへの輸出が増加した。台湾向けの半導体等電子部品や中国向けの半導体等製造装置が2年ぶりに増加し、ASEAN向けの、非鉄金属や半導体等電子部品を含む輸出が過去最高額となったことなどがプラスに影響した。2024年は力強さを欠くものの、やや持ち直して推移した（図表1-5）。

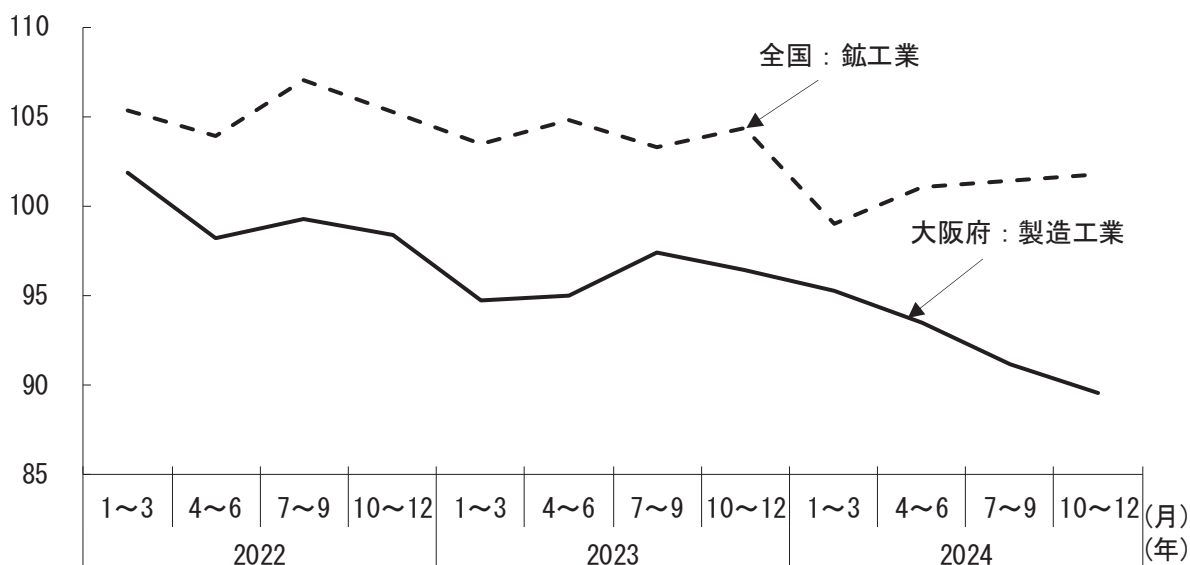
図表 1-5 輸出額増減率の推移（近畿、全国）



資料：大阪税関「貿易統計」、日本銀行「主要時系列統計」

(注) 輸出額は前年同月比。2022 年以前は確定値、2023 年は確々報値による。対ドル為替レートは、東京インターバンク相場、ドル・円、スポット、中心相場/月中平均。

図表 1-6 生産指数の推移



資料：大阪府「製造工業指数」、経済産業省「鋳工業指数」。

(注) 季節調整済指数。2020 年=100。

#### 4. 生産は、年後半に減速

全国の鋳工業生産指数は、2024 年 1~3 月期に大きく落ち込み、4~6 月期以降はやや持ち直したものの、10~12 月期まで前年を下回る低い水準で推移し、足踏みの状態となった（図表 1-6）。

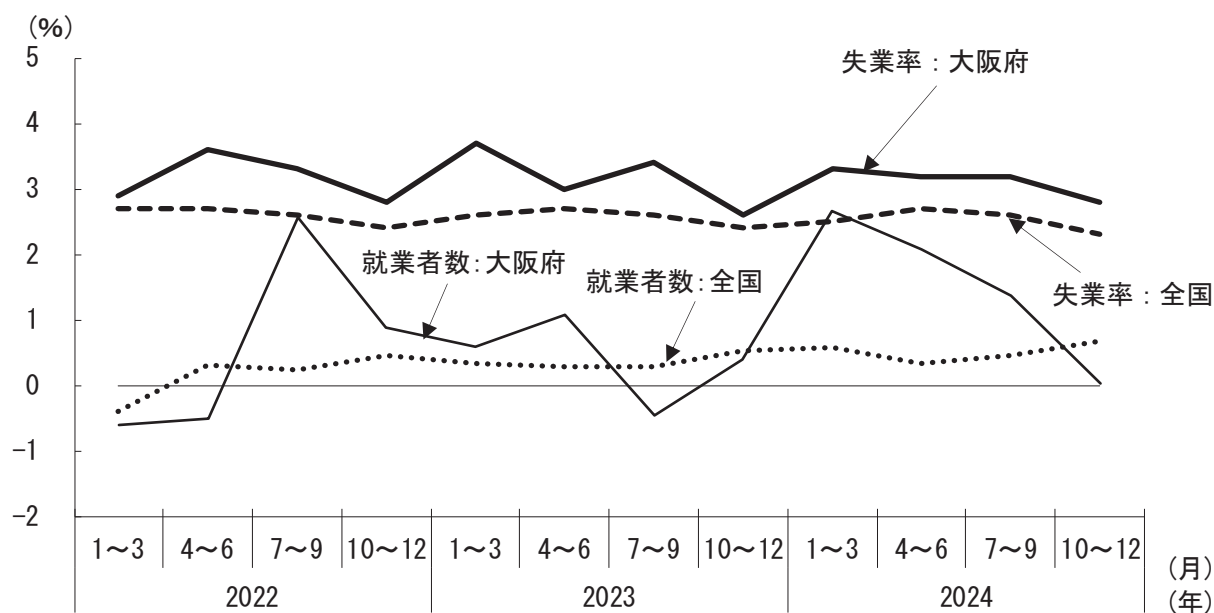
大阪府の製造工業生産指数は、2023 年後半からの減速基調が 2024 年に入ってから続き、年間を通じて低下する推移となった。

#### 5. 雇用は持ち直しの動きで推移

府内の雇用動向は、緩やかな持ち直しの動きで推移した。

2024 年の就業者数を前年同期比で見ると全国は前年をわずかに上回る水準で推移し、大阪府は、1~3 月期と 4~6 月期は 2%超増、7~9 月期は 1.4%増、10~12 月期は横ばいとなり増加の傾向で推移した。完全失業率は、全国、大阪府とも、概ね前年と横ばいの傾向で推移した（図表 1-7）。

図表 1-7 完全失業率と就業者数対前年増加率の推移



資料：総務省「労働力調査」。

(注) 原数値。大阪府はモデル推計値。

## 6. 企業業況は緩やかな持ち直しが続いた

日銀短観の業況判断DIは、全国、近畿地区とも、2024年の3月期は前年の12月期から下降したが、6月期以降は緩やかに持ち直した(図表1-8)。全国、近畿地区とも、業況が「良い」企業の割合が「悪い」企業の割合を上回り、2022年以降は一貫してプラスの水準で上昇する基調で推移した。

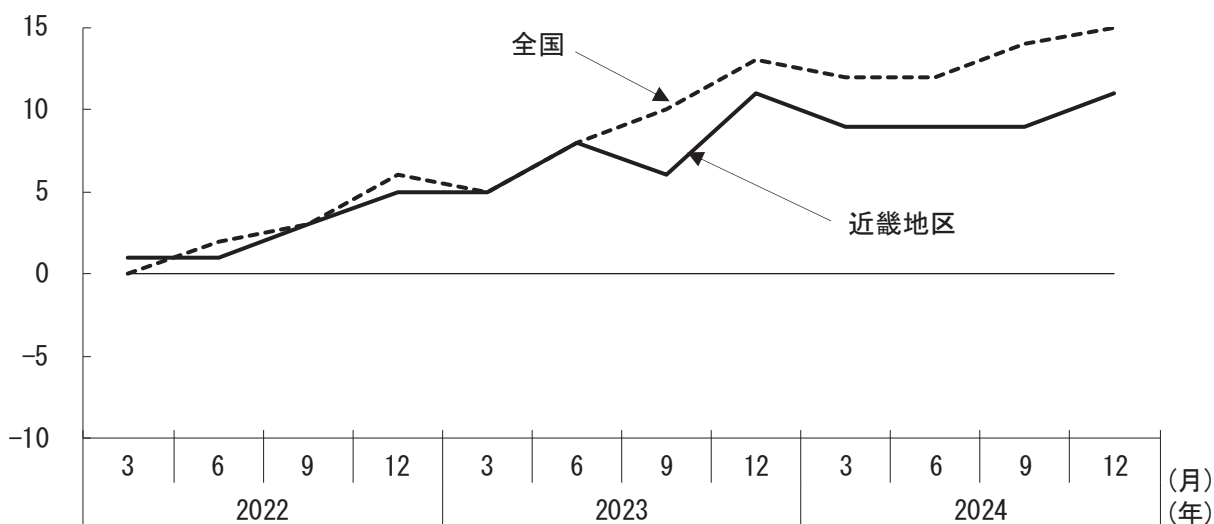
近畿地区の2024年12月期の業況判断DIを業種別にみると、前年と同様、製造業より非製造業の業況が良い傾向がみられ、非製造業の全産業は、業況が「良い」企業の割合が「悪い」企業の割合を上回っている。製造業全体の業況も概ね良い傾

向だが、加工業種に比べると素材業種の業況は悪く、「木材・木製品」「紙・パルプ」「非鉄金属」は「良い」と「悪い」が拮抗し、「鉄鋼」「繊維」はマイナスの水準であった(図表1-9)。加工業種では、「輸送用機械」がマイナスの水準であった。

非製造業では、「物品賃貸」「建設」のプラスの水準が大きかったが、「対個人サービス」はプラスの水準がやや小さかった。

2024年の企業業況は、緩やかな持ち直しが続く動きで推移したが、その傾向は、製造業よりも非製造業でみられた。また、近畿地区はプラス水準ながら、年間を通して全国の水準を下回った。

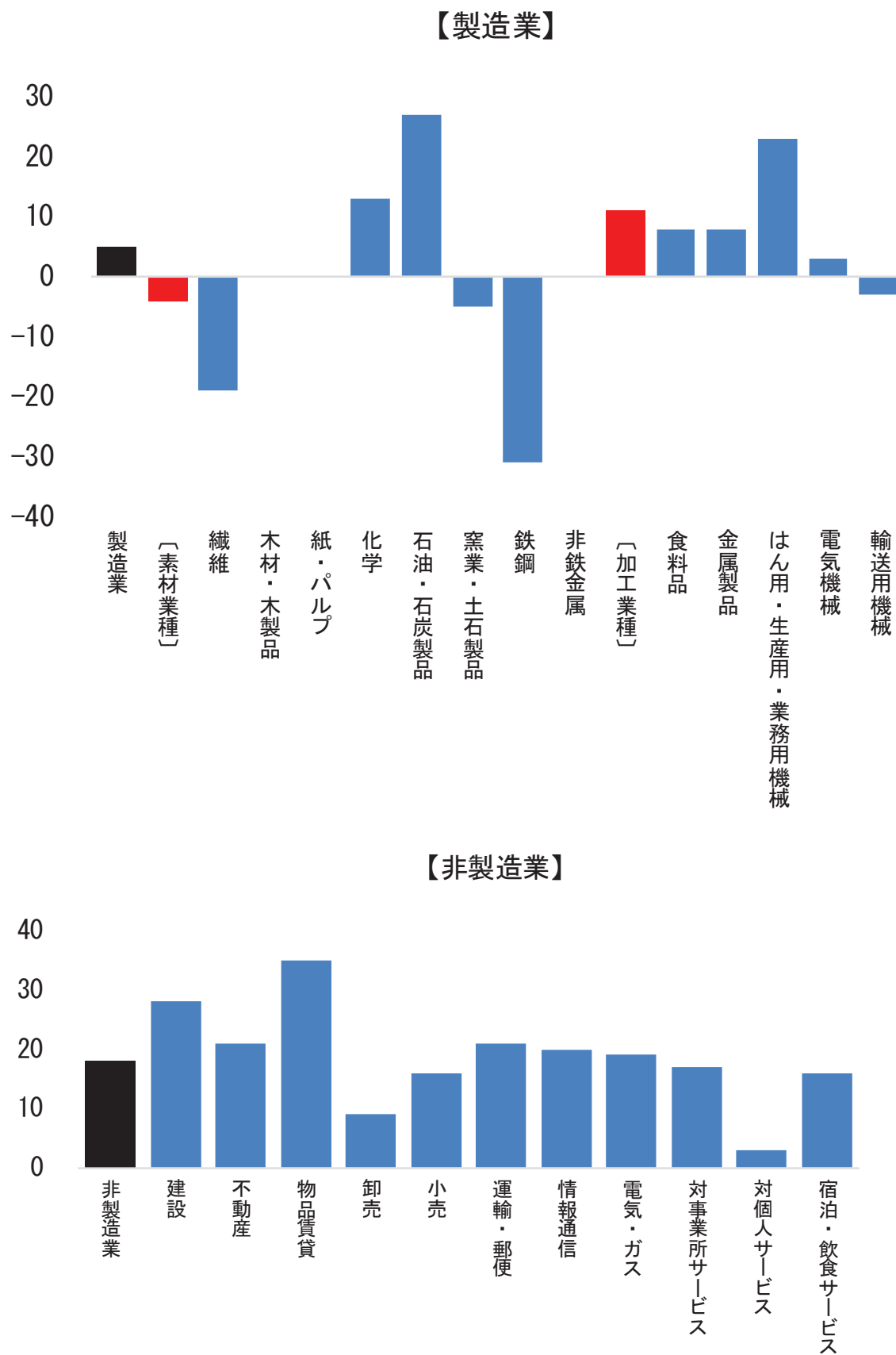
図表 1-8 業況判断DI（全産業）の推移



資料：日本銀行大阪支店「全国企業短期経済観測調査」。

(注) 業況判断DI=「良い」企業割合-「悪い」企業割合。

図表 1－9 業況判断 D I（2024 年 12 月、近畿地区）



資料：日本銀行大阪支店「全国企業短期経済観測調査（近畿地区）」。

（注）業況判断 DI＝「良い」企業割合－「悪い」企業割合。

## 第2章 2024年の経済動向

### 第1節 需要は一部に弱い動きが見られるものの緩やかに持ち直して推移

#### 1. 個人消費は緩やかに持ち直して推移

2024年の個人消費は、緩やかに持ち直して推移した。2024年の大阪府の大型小売店販売額は、前年比8.7%増であった。百貨店は同13.7%増、スーパーは同3.1%増と前年の実績を上回った。家電大型専門店、ドラッグストア及びホームセンターの販売額も年間を通じて前年比で増加した。乗用車新車販売台数は、2024年1月以降、前年同月を下回り、7月と9～11月は前年同月を上回ったが、12月に大きく下回った。

勤労者の収入は、賃上げ率、夏季一時金及び年末一時金のいずれも増加した。

#### (大型小売店の販売額は好調に推移)

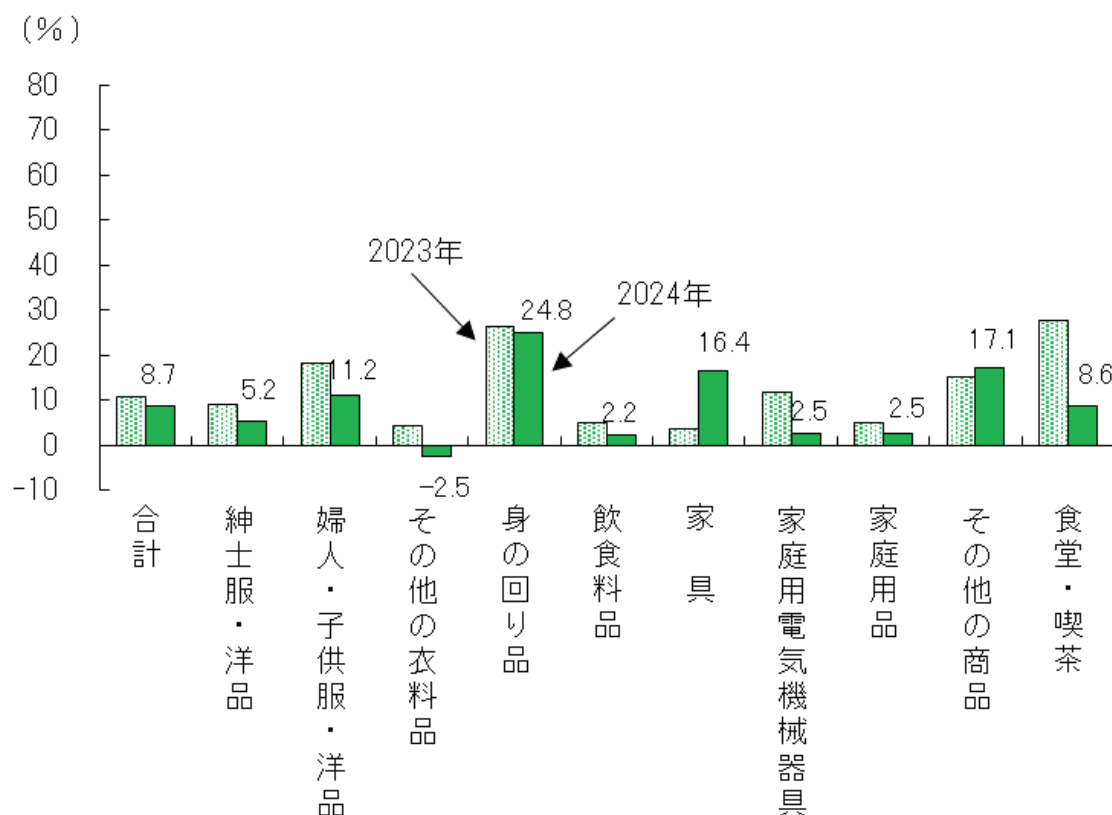
大阪府内の2024年の大型小売店の年間販売額(全店ベース)は、前年比8.7%の増加となった。全国や近畿と比較すると、全国の3.7%増、近畿の5.7%増よりも増加率は大きかった。

業態別にみると、百貨店は、大阪府では13.7%増の大幅増となり、全国の6.2%増、近畿の11.4%増を上回った。スーパーも、大阪府では3.1%増

となり、全国の2.7%増、近畿の1.9%増を上回った。

大阪府の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額の前年比をみると、前年の10.6%を下回ったものの、全体的に好調に推移した。なお、百貨店、スーパーともに2023年の増加率(百貨店16.8%、スーパー4.3%)を下回った(図表2-1-1)。

図表2-1-1 大型小売店の商品別販売額の推移(大阪府：全店ベース、前年比)



資料：近畿経済産業局「百貨店・スーパー販売状況(近畿地域)」。

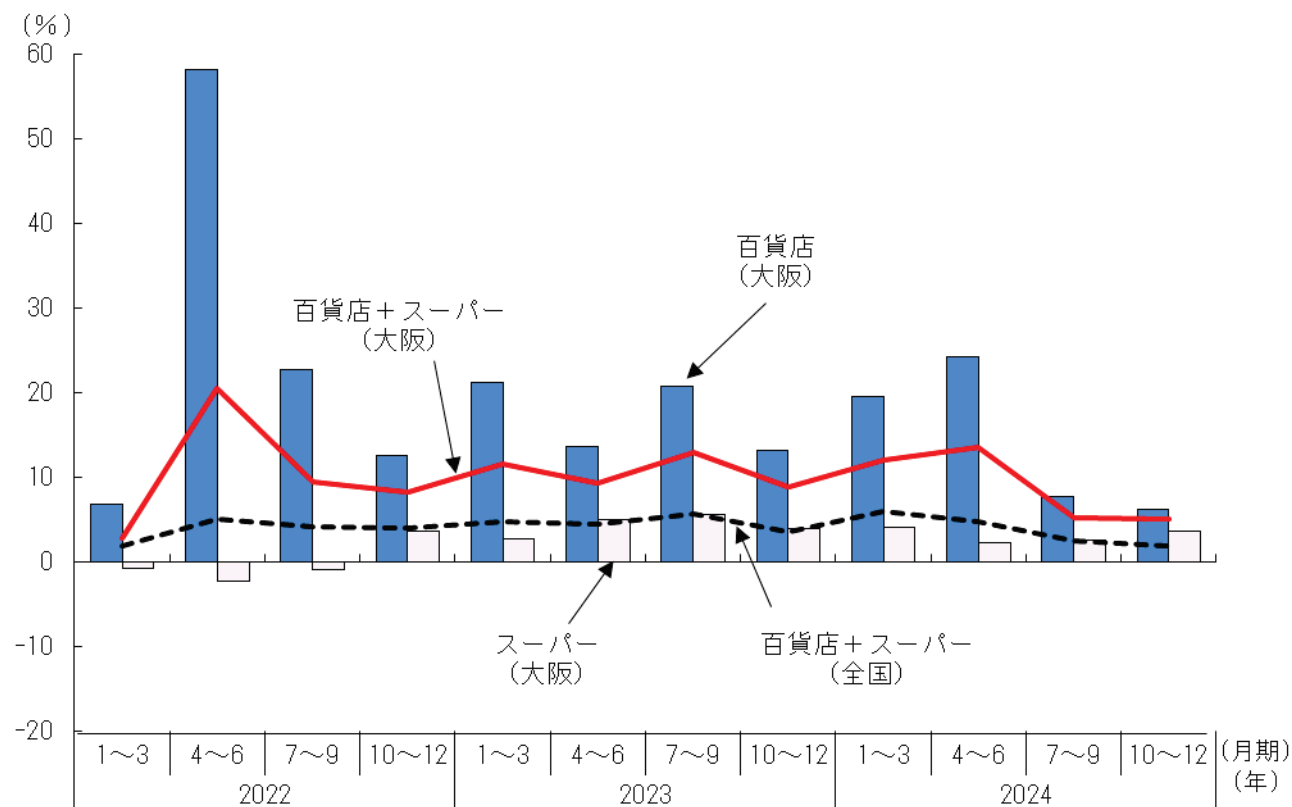
大阪府の 2024 年の大型小売店（百貨店・スーパー）の販売額の前年同期比は、四半期を通じて前年同期を上回った（図表 2-1-2）。1～3 月期は、インバウンドの増加、卒業・入学などのセレモニー関連の需要もあり、前年同期比 12.1%増であった。4～6 月期は、インバウンドによる押し上げ効果や、梅雨入りが遅れて真夏日が前年より多くなり盛夏ファッションが活況であったことなどから、13.5%増であった。7～9 月期は、猛暑で動きの遅かった秋冬物が後半にかけて回復し、5.3%増となった。10～12 月期も、クリスマスギフトや気温の低下に伴い冬物衣料が好調だった

ほか、内食需要から外食需要への移行などもあり 5.1%増で推移した、消費は通年で前年の実績を上回り、回復基調で推移した。

回復の基調は全国においても同様にみられるが、2021 年 10～12 月期以降、大阪府は全国を上回る増加率で推移した。

業態別では、百貨店は、インバウンドの回復や高額商品の売り上げが堅調なことから、前年に続いて好調を維持した。スーパーは、値上げに伴って買い上げ点数の減少が見られたものの、商品単価の上昇により、販売額は前年比増で推移した。

図表 2-1-2 大型小売店の業態別販売額の推移（大阪府、全国：全店ベース、前年同期比）



資料：近畿経済産業局「百貨店・スーパー販売状況（近畿地域）」。

### （コンビニエンスストアの販売額は弱い動きで推移）

大阪府の 2024 年のコンビニエンスストアの販売額は、9,429 億円で前年比 1.1%の減少となった。全国の販売額は 12.9 兆円で、前年比 1.2%増であったことから、大阪の増加率が全国を下回る対照的な動きとなった。

四半期別では、2021 年 4～6 月期以降、前年同期を上回って推移してきたが、2024 年 10～12 月期に大きく下回った（図表 2-1-3）。主に、2022 年は 11 月、2023 年は 12 月からの利用で特需となったプレミアム付き商品券のチケット売上の反動により、12 月の売上高が前年を大きく下回った

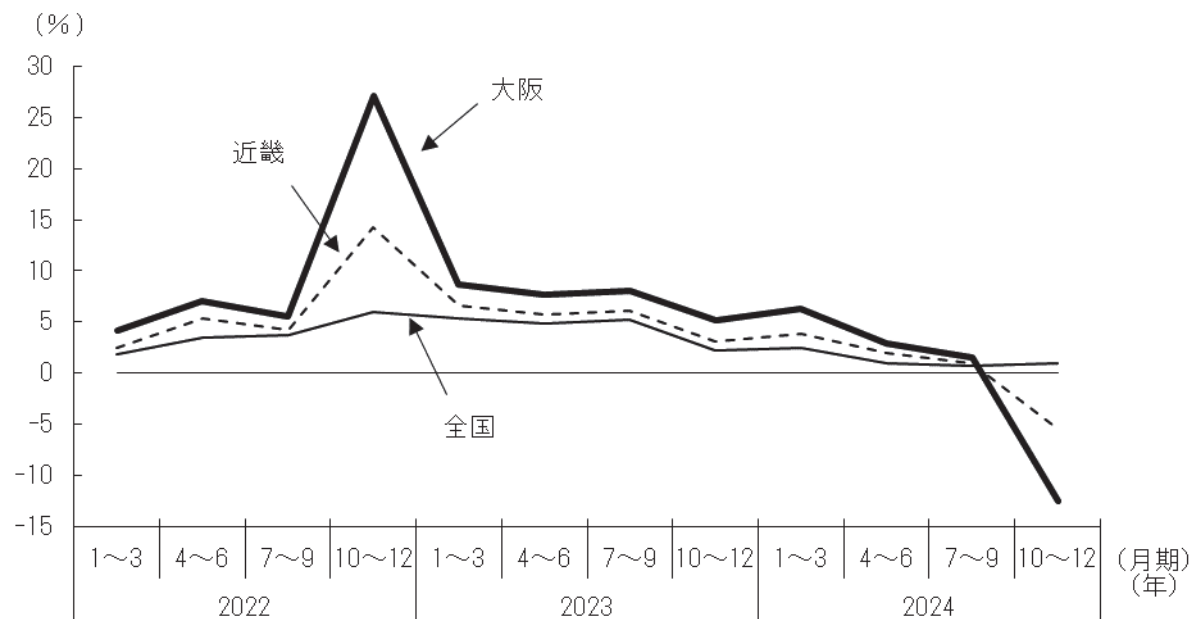
ためである。全国、大阪府ともに、年間を通じて販売額は前年比増加で推移してきたが、全国を上回っていた大阪府の増加率は、2024 年 10～12 月期に下回り、2024 年は前年比マイナスとなった。

### （家電製品の販売額は堅調に推移）

大阪府の 2024 年の家電製品販売額は、4,917 億円で前年比 1.6%増となり、全国の前年比 2.1%を下回った。

四半期別では、全国、近畿及び大阪府の動きは、概ね同様の傾向であったが、2021 年 7～9 月期から、大阪府の前年同期比は、全国と近畿を概ね上回って推移したが、2024 年の 7～9 月期と 10～12 月期は全国を下回った（図表 2-1-4）。

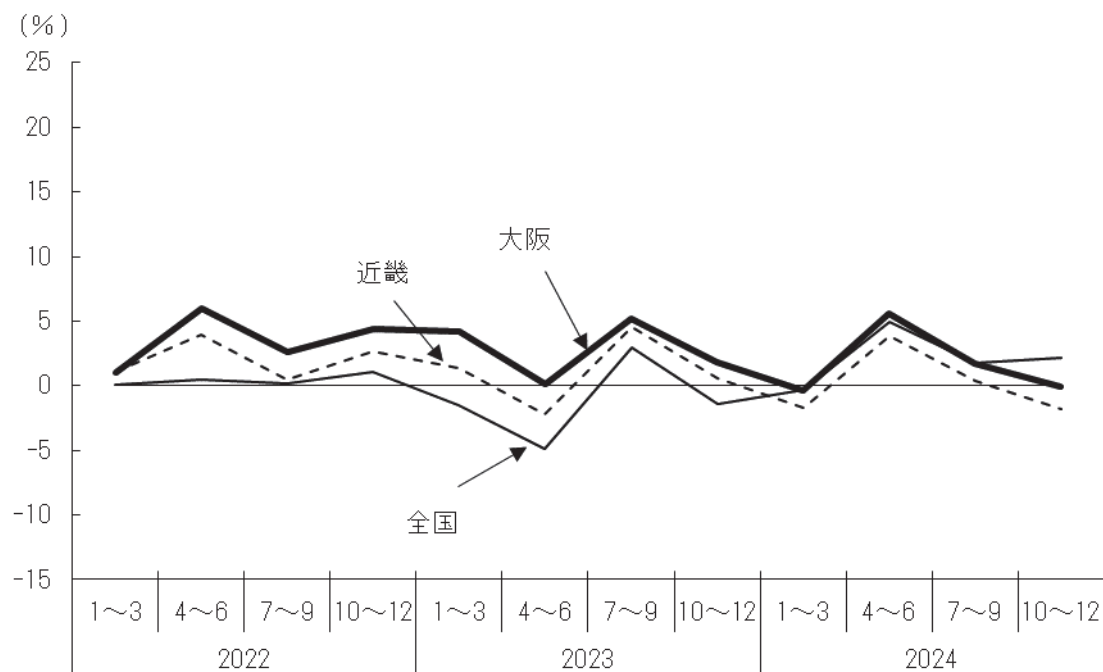
図表 2-1-3 コンビニエンスストア販売額の推移（大阪府、近畿、全国：全店ベース、前年同期比）



資料：経済産業省「商業動態統計」。

（注）商業動態統計における「近畿」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山に福井を含んだ2府5県。

図表 2-1-4 家電大型専門店販売額の推移（大阪府、近畿、全国：全店ベース、前年同期比）



資料：経済産業省「商業動態統計」。

（注）商業動態統計における「近畿」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山に福井を含んだ2府5県。

### （ドラッグストアの販売額は堅調に推移）

大阪府の2024年のドラッグストアの販売額は、5,133億円で、前年比9.1%増となり、全国の6.9%増及び近畿の8.3%増を上回った。

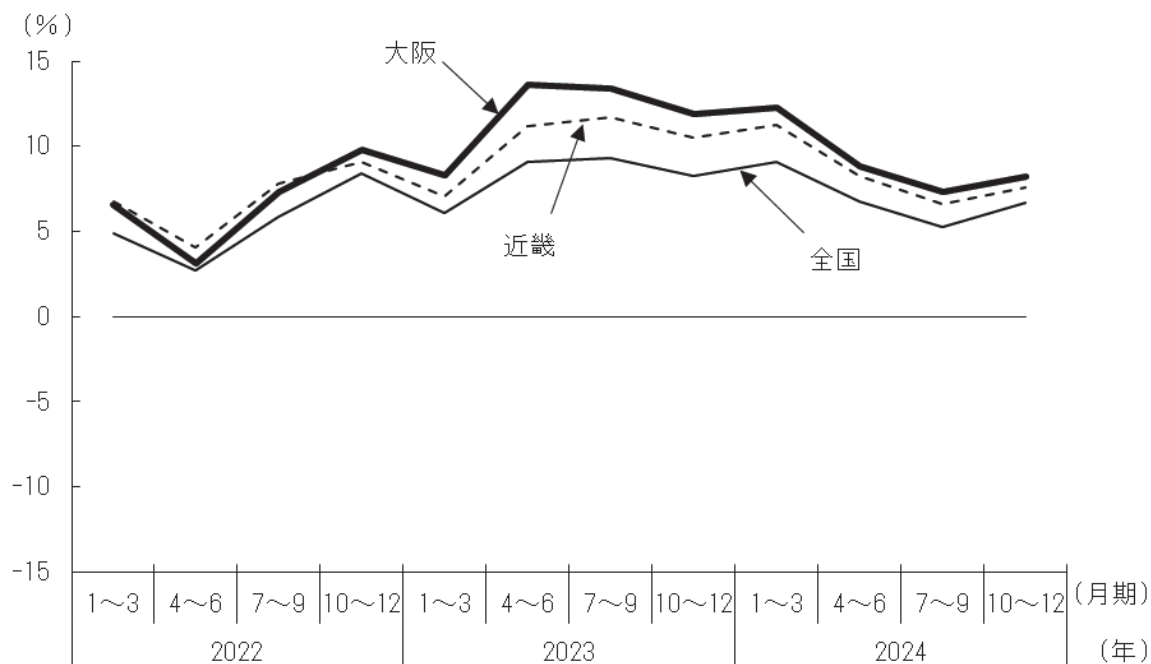
四半期別にみると、大阪府の販売額は、2021年4～6月期以降、全国及び近畿と同様に増加基調で推移したが、2024年の前年比は2023年に比べると低い水準で推移した（図表2-1-5）。

### （ホームセンターの販売額は堅調に推移）

大阪府の2024年のホームセンターの販売額は、1,946億円で、前年比3.6%増となり、全国の1.7%増及び近畿の2.8%増を上回った。

四半期別では、全国や近畿と同様の推移となったが、大阪府は、2023年の4～6月期以降、全国と近畿を上回って推移していたが、10～12月期は一転して下回った（図表2-1-6）。

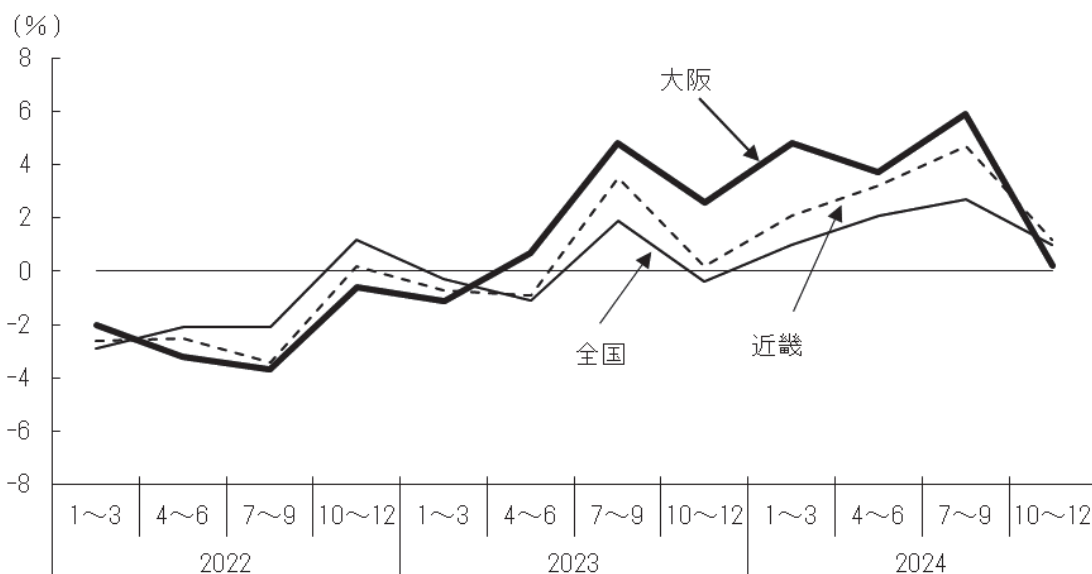
図表2-1-5 ドラッグストア販売額の推移（大阪府、近畿、全国：全店ベース、前年同期比）



資料：経済産業省「商業動態統計」。

（注）商業動態統計における「近畿」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山に福井を含んだ2府5県。

表2-1-6 ホームセンター販売額の推移（大阪府、近畿、全国：全店ベース、前年同期比）



資料：経済産業省「商業動態統計」。

（注）商業動態統計における「近畿」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山に福井を含んだ2府5県。

### （新車販売は出荷停止の影響で弱い動き）

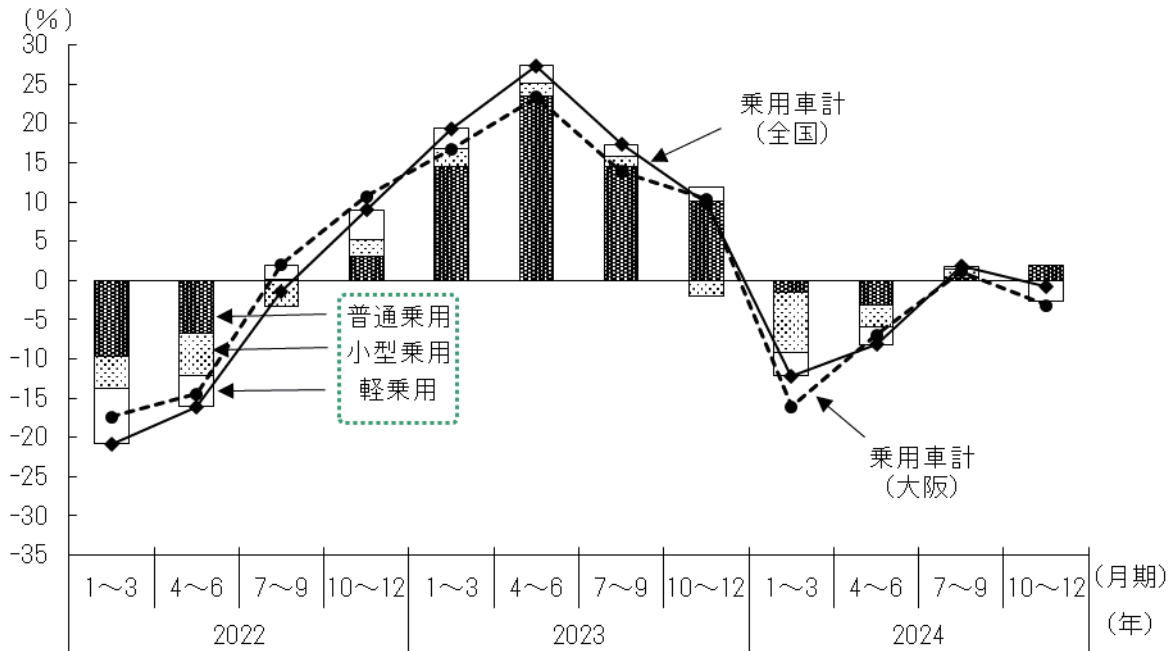
2024 年の乗用車新車販売台数（普通乗用車＋小型乗用車＋軽乗用車）は、メーカーによる大規模な認証不正問題による出荷停止の影響もあり、大阪府は前年比 5.0%減となった。なお、全国は 6.7%減であった。

四半期別では、1～3 月期は前年同期比 12.1%

減、4～6 月期は 8.1%減と前半は高い減少率で推移した。7～9 月期は 1.8%増、10～12 月期は 0.7%減とやや持ち直したものの、前年に比べると弱い動きで終始した（図表 2-1-7）。

車種別では、普通乗用車が前年比 1.2%減、小型乗用車 11.3%減、軽乗用車は 7.4%減となり、全ての車種で前年度を下回った。

図表 2-1-7 乗用車新車販売台数の推移（大阪府、全国：前年同期比）



資料：（一社）日本自動車販売協会連合会「自動車登録統計情報」、（一社）全国軽自動車協会連合会調べ。

（注）棒グラフは内訳別寄与度

### （大阪の現金給与総額は年間を通して増加）

消費の増減に影響を与える勤労者の収入の状況を見ると、大阪府における 2024 年の常用労働者の月間現金給与総額（事業所規模 30 人以上）は、40 万 5,722 円であり、前年比 4.5%増（名目賃金指数で比較）となった。

前年同期比の増加率を四半期別でみると、1～3 月期は 2.4%増、4～6 月期は 5.1%増、7～9 月期は 3.8%増、10～12 月期は 6.0%増と、年間を通して前年比増で推移した（図表 2-1-8）。大阪府の増加率は、1～3 月期から 10～12 月期の全ての期で全国を上回った。

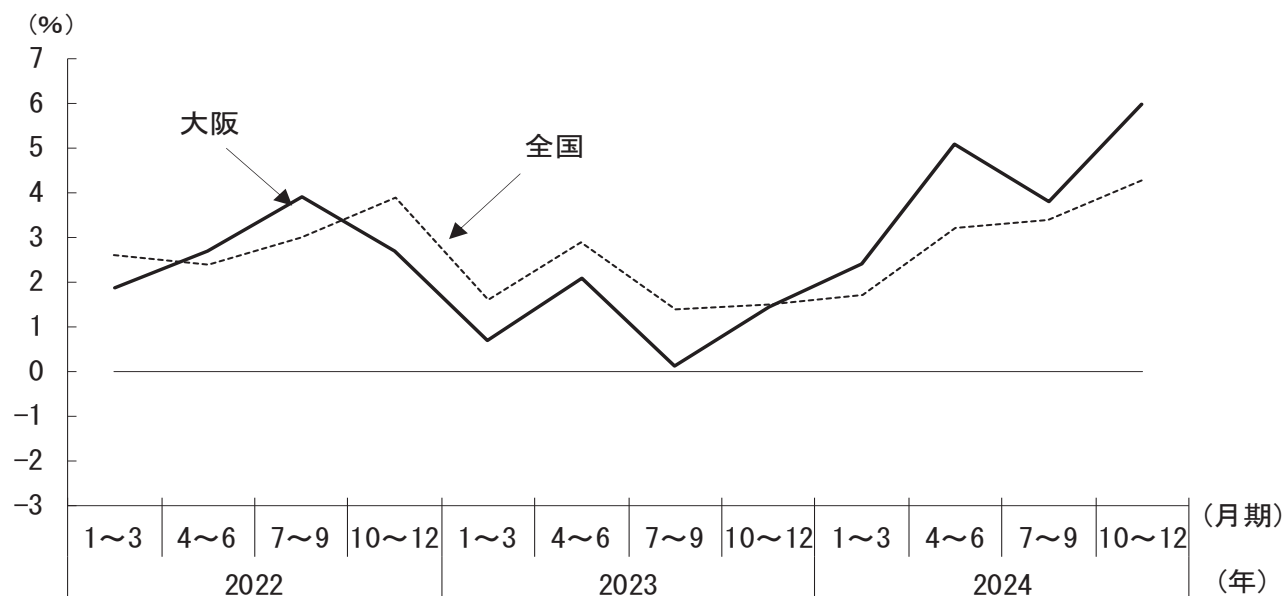
### （賃上げ率・一時金ともに回復基調）

府内労働組合の春闘妥結状況を見ると、2024 年は賃上げ率 4.82%、妥結額 14,578 円で、2023 年の 3.62%、10,792 円と比べて、賃上げ率・妥結額ともに増加した（図表 2-1-9）。

夏季一時金についても、支給月数 2.40 か月、妥結額 76 万 8,153 円となり、2023 年の 2.39 か月、73 万 664 円と比べて支給月数、妥結額ともに増加し 3 年連続で前年を上回り、妥結額は 2022 年以降、70 万円を超えた。

年末一時金については、支給月数 2.45 か月、妥結額 78 万 9,834 円で、2023 年の支給月数 2.39 か月、妥結額 72 万 9,741 円と比べて、妥結額、支給月数ともに増加した。4 年連続で前年を上回り、夏季一時金と同様に、妥結額は 2022 年以降、70 万円を超えた。

図表 2-1-8 常用労働者現金給与総額の推移（大阪府、全国：前年同期比）

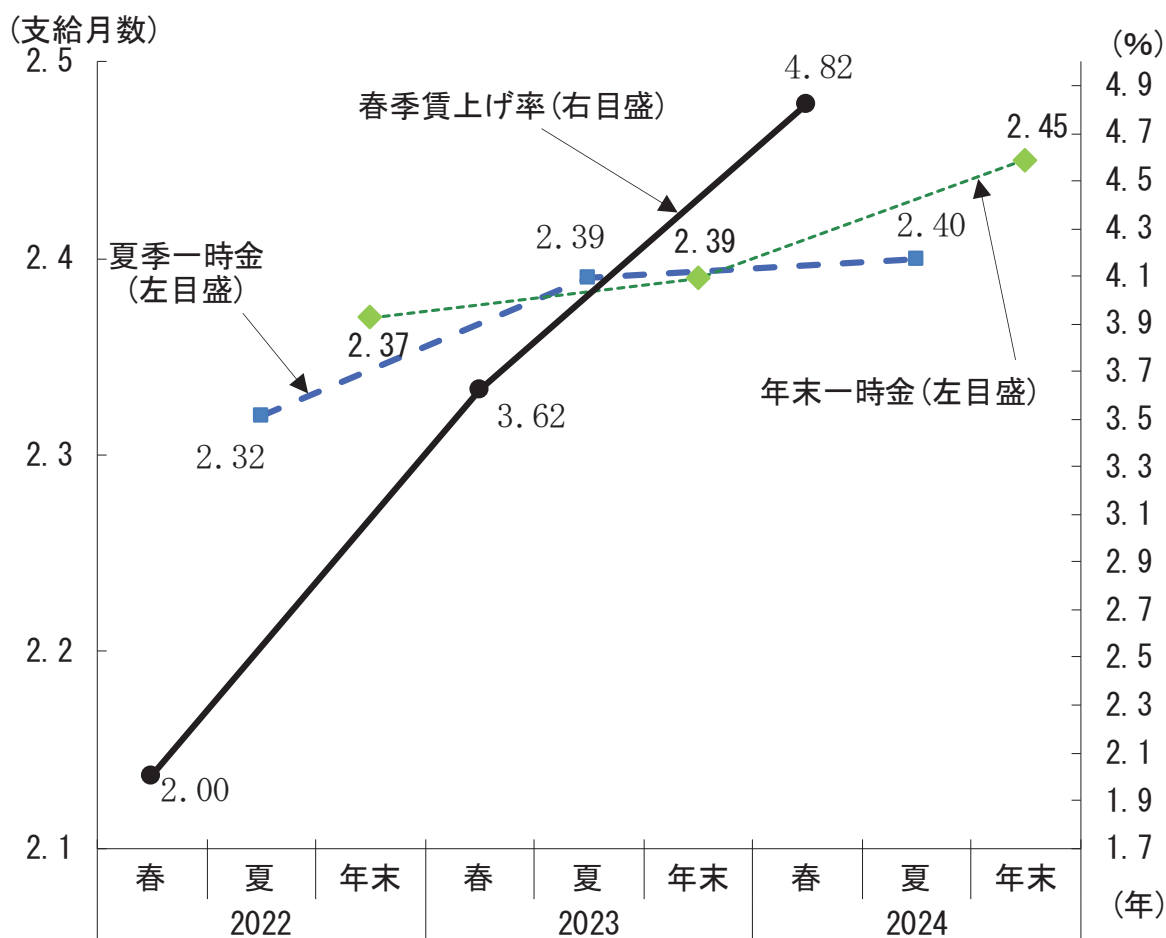


資料：大阪府統計課、厚生労働省「毎月勤労統計調査」

(注) 1. 調査産業計、事業所規模 30 人以上分。2020 年=100.

2. 名目賃金指数（大阪府は推計値）による前年同期比。

図表 2-1-9 勤労者収入関連指標の推移（大阪府）



資料：大阪府労働環境課調べ。

**（家計消費は名目で増加したが、実質では減少）**

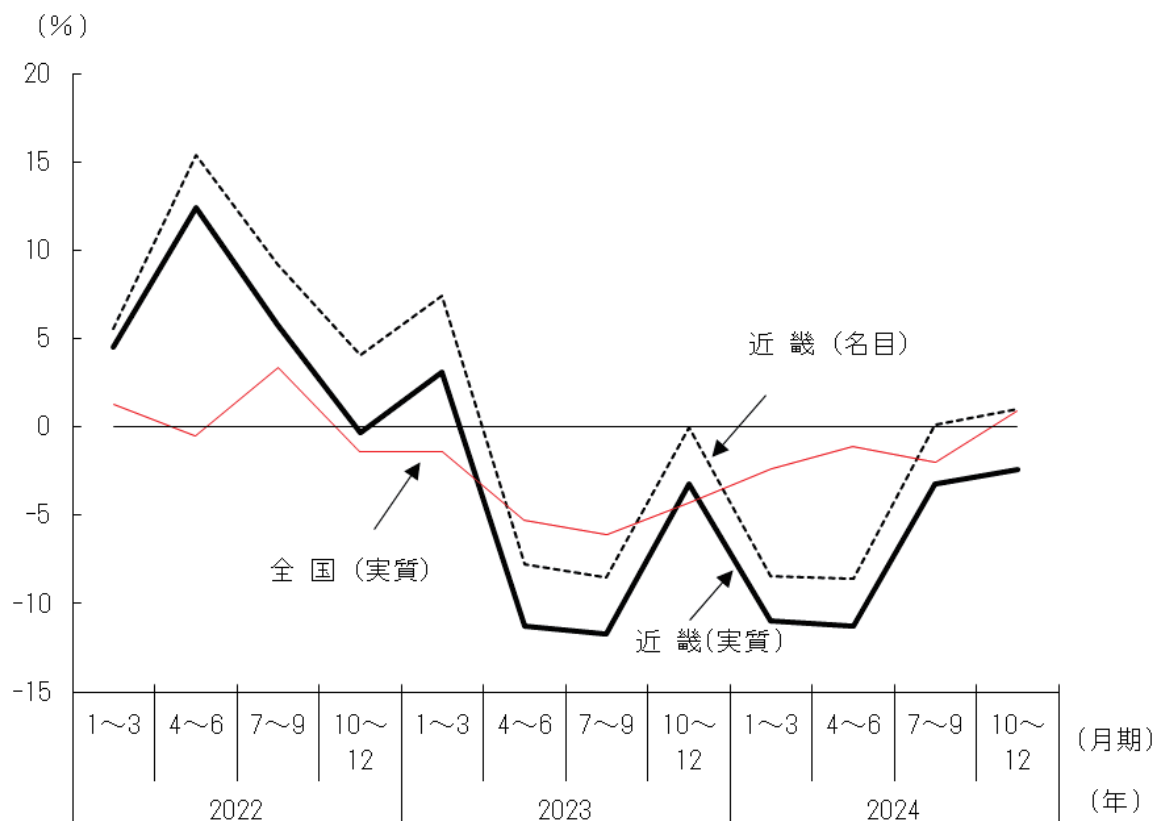
2024年における近畿地区の2人以上の世帯のうち、勤労者世帯の消費支出は、名目が前年比4.1%減となり、実質は物価上昇の影響を受け、前年比7.1%減となった。

全国は、名目が前年比で2.0%増、実質が前年比1.2%減であったことから、近畿の消費の増加

率は全国を下回った。

近畿の実質消費支出を四半期別にみると、1～3月期は前年同期比で11.0%減、4～6月期は11.3%減、7～9月期は3.2%減、10～12月期も2.4%減と全ての期で、マイナスで推移した（図表2-1-10）。

図表2-1-10 2人以上の世帯のうち勤労者世帯の消費支出（近畿地区、全国：前年同期比）



資料：近畿経済産業局「近畿経済の動向」、総務省「家計調査」。

家計消費の主な品目別の動向では、外食については、足下ではコロナ禍前のトレンドを上回るペースで緩やかな増加傾向にある。これは原材料の食料品価格と客単価の上昇も背景にある。なお、コロナ禍による生活様式の変化は、一部の居酒屋業態などではコロナ禍前の水準まで戻りきっていない（図表 2-1-11）。

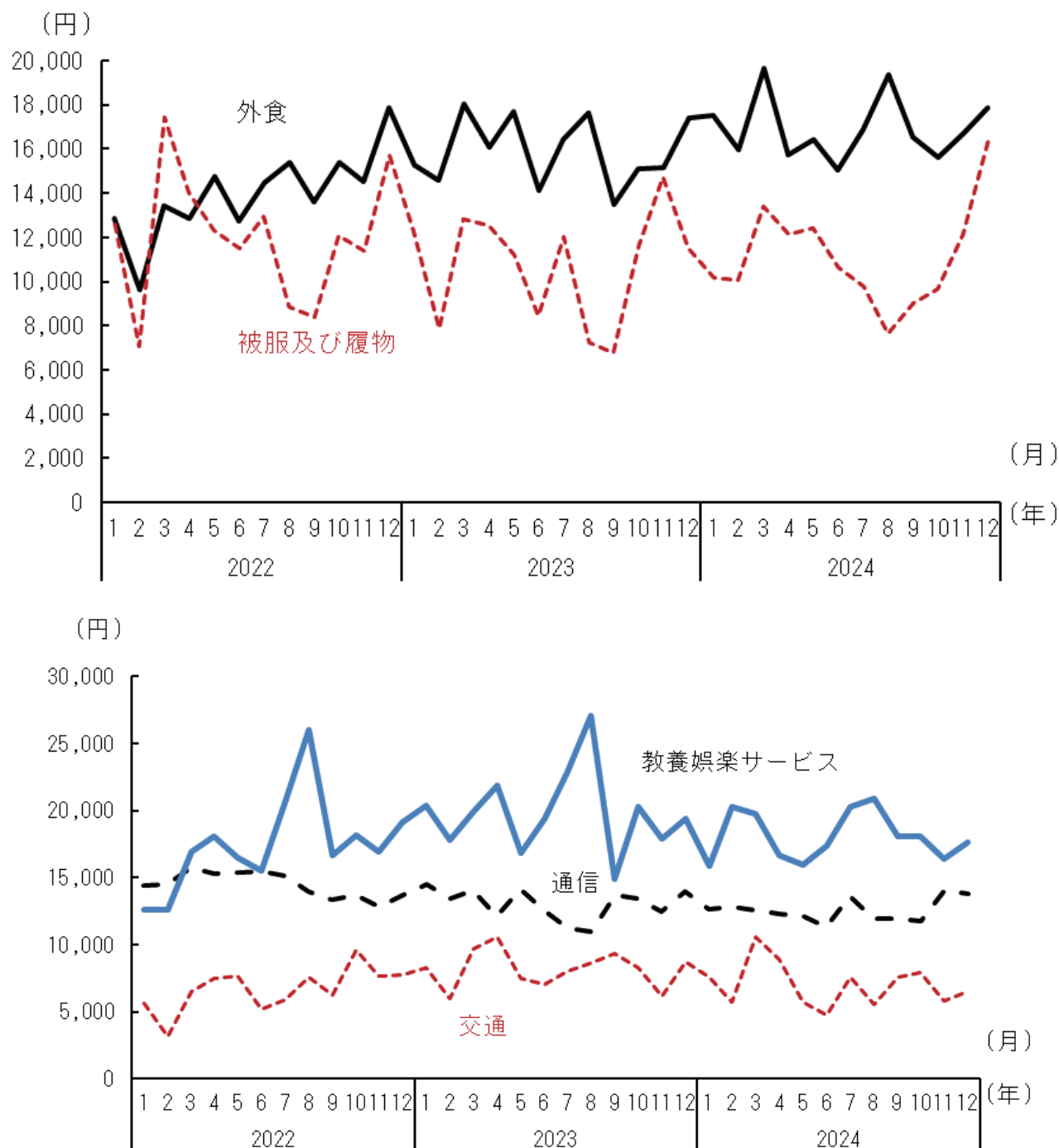
被服及び履物については、2022 年 3 月のピーク時を下回っているが、弱いながらも回復基調にある。例年、季節要因で 2、8、9 月期に支出が減少

する傾向にあるが、10～12 月期に急上昇している。

通信については、社会経済活動の正常化が進むにつれ（政策や通信各社の料金値下げの影響などに伴い）、支出額が通減する傾向がみられている。

一方、教養娯楽サービスは持ち直しの基調で推移しているが、例年 7、8 月に大きく伸びる支出傾向が 2024 年は顕著にはみられなかった。交通に関しても行動制限がなくなった 2023 年に外出機会が増加し、大きく伸びたが、2024 年は平準化して、横ばいまたはやや減少傾向となった。

図表 2-1-11 2人以上の世帯のうち勤労者世帯の品目別消費支出（近畿地区、前年同月比）



資料：総務省「家計調査」

## 2. 住宅投資は横ばい

2024 年の大阪の住宅投資は、人口の転入超過を背景に需要は底堅かったとみられるものの、建築コスト等が高止まりしていることや、住宅ローン金利の上昇が影響し、投資を控える動きもみられ、新設住宅着工戸数は前年比 0.1%減と横ばいで推移した。分譲マンション供給戸数は、大阪府全体の過半数を占める大阪市地域でワンルームマンションの供給戸数が半減したことなどにより 2 年連続の減少となった。

### （新設住宅着工戸数は 2 年続けてわずかに減少）

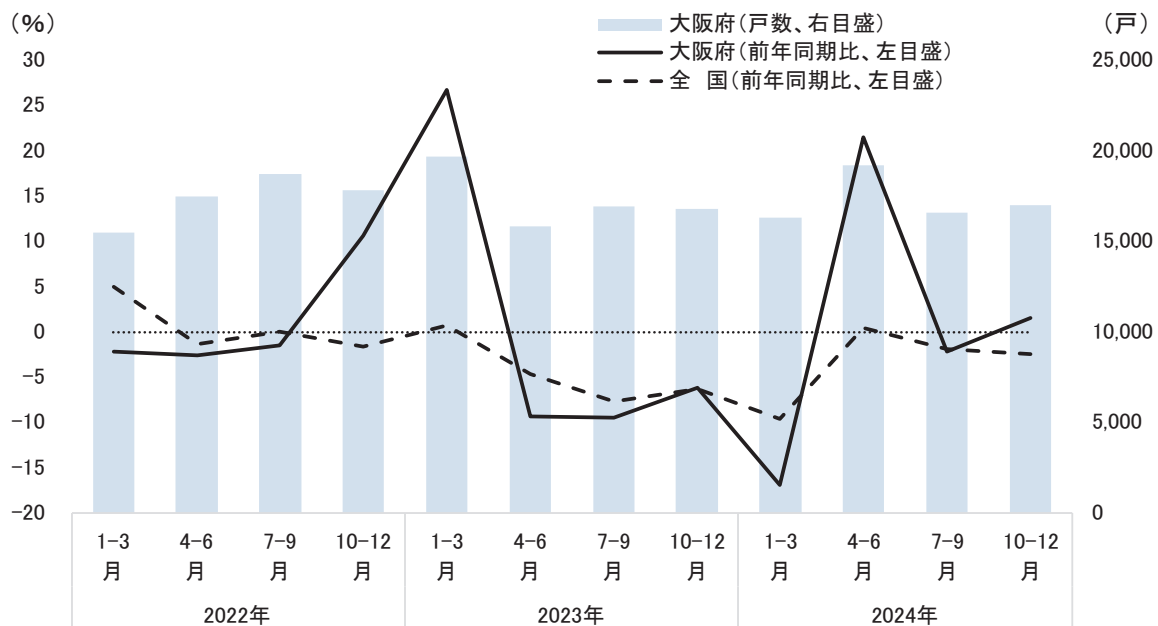
大阪府の 2024 年の新設住宅着工戸数は 6 万 9,213 戸で、前年比 0.1%減と小幅ではあるが 2 年続けて減少となった。年内の動きをみると 1～3 月期は前年同期比 17.0%減と 4 四半期連続の減少となったが、その後は、4～6 月期は同 21.6%増、7～9 月期は同 2.2%減、10～12 月期は同 1.5%増と、年末まで一進一退の状況が続いた（図表 2-1-12）。

全国でも 2024 年の新設住宅着工戸数は、前年比 3.4%減の 79 万 2,098 戸と 2 年連続の減少となった。四半期別では、1～3 月期は前年同期比 9.6%減と 4

四半期連続の減少となったのち、4～6 月期は同 0.5%増、7～9 月期は同 2.0%減、10～12 月期は同 2.4%減と年末まで弱い動きとなった。新設住宅着工戸数は、全国、大阪府ともに 2 年連続の減少となったが、全国に占める大阪府の占有率は、8.7%と前年から 0.2 ポイント上昇した。

2024 年の大阪府の住宅投資は、10 年連続となった人口の転入超過を背景に需要は底堅かったとみられるものの、資材・土地価格の高止まりに加え、住宅ローン金利の上昇の影響から投資を手控える動きもみられ、全体として横ばいとなった。

図表 2-1-12 新設住宅着工戸数の推移



資料：国土交通省「住宅着工統計」。

### （持家、分譲住宅は持ち直すも、貸家は弱い動き）

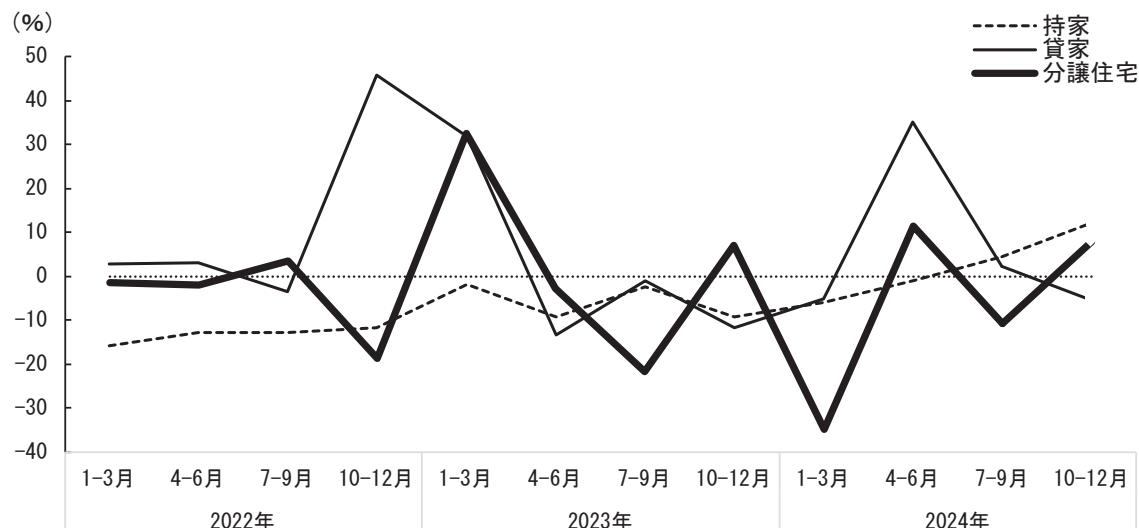
2024 年の大阪府の利用関係別新設住宅着工戸数は、分譲住宅は前年比 9.3%減と 2 年ぶりに減少となったが、貸家は同 5.7%増と 2 年ぶりに、持家は同 2.5%増と 3 年ぶりにそれぞれ増加に転じた。

年内の動きをみると、分譲住宅は 1～3 月期に前年同期比 34.8%減と大幅に減少したのち、4～6 月期は同 11.3%増、7～9 月期は同 10.7%減、10～12 月期は同 8.0%増と一進一退を繰り返した（図表 2-1-13）。持家は、1～3 月期は同 5.9%減、4～6 月期は

同 1.0%減と 10 四半期連続で減少となったが、7～9 月期は同 4.3%増、10～12 月期は同 12.2%増と、年後半は持ち直しの動きをみせた。貸家は、1～3 月期は同 5.1%減と 4 四半期連続で減少となったが、4～6 月期は同 35.0%増、7～9 月期は同 2.4%増と持ち直したものの、10～12 月期は同 5.5%減と年末は弱い動きとなった。

持家及び分譲住宅では、建設費の高止まり等による販売不振に伴う過剰在庫の調整が進んだとみられ、年末は持ち直しの動きとなった。

図表 2-1-13 利用関係別新設住宅着工戸数の推移（大阪府、前年同期比）



資料：国土交通省「住宅着工統計」。

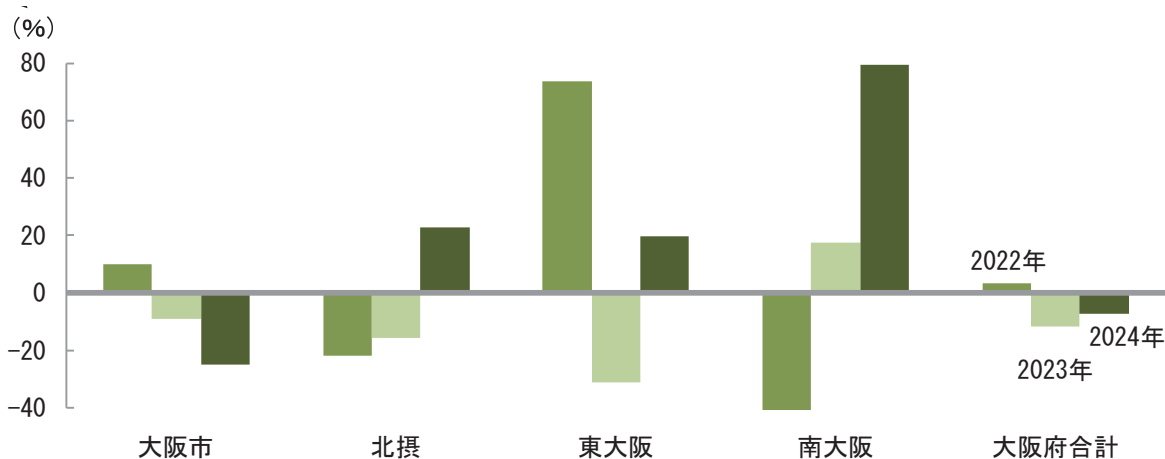
#### （分譲マンションの供給は2年連続で減少）

長谷工総合研究所「CRI」をもとに主要分譲マンションの動向をみると、2024年の大阪府の新規供給戸数（該当期間に新たに発売された戸数）は8,800戸で前年比7.4%減と2年続けて前年を下回った。地域別では、南大阪地域が同79.3%増と2年連続で増加になったほか、北摂地域は同22.6%増と3年ぶり、東大阪地域は同19.7%増と2年ぶりにそれぞれ増加に転じた（図表2-1-14）。一方で、大阪府の供給数の過半数を占める大阪市地域は同25.1%減と2年連続で減少となった。

供給された分譲マンションの1戸当たり平均面積は58.51㎡（同7.9%増）と3年ぶりに増加に転じた（図表2-1-15）。同様に、近畿圏では59.10㎡（同0.1%増）と、わずかながらも3年ぶりに増加に転じた。また大阪府の1㎡当たり分譲価格は、前年比94.8万円で同15.9%増となった。一方近畿圏は、90.7万円（同14.8%増）と12年連続の増加となった。

CRIでは、大阪市ではワンルームマンションの供給が前年から半数近く減少したため、供給戸数は減少したが、大規模超高層物件が供給された影響で、平均面積や分譲価格が上昇したとみている。

図表 2-1-14 分譲マンション新規供給戸数の推移（前年比）



資料：(株)長谷工総合研究所『CRI』。

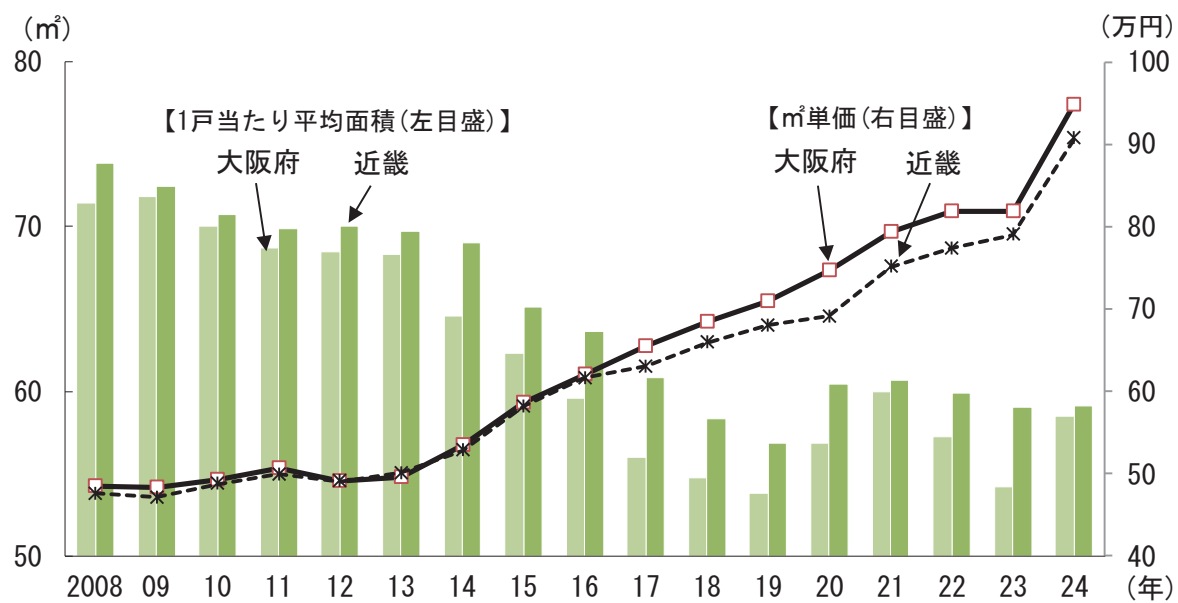
（注）地域区分は以下のとおり。

北 摂：吹田市、豊中市、茨木市、高槻市、池田市、箕面市、摂津市、島本町、能勢町、豊能町

東大阪：東大阪市、枚方市、守口市、寝屋川市、門真市、八尾市、大東市、四條畷市、柏原市、交野市

南大阪：堺市、高石市、岸和田市、貝塚市、泉佐野市、松原市、藤井寺市、大阪狭山市、他7市6町1村

図表 2-1-15 分譲マンション1戸当たり平均面積及び㎡単価の推移



資料：(株) 長谷工総合研究所『CRI』。

### 3. 民間設備投資は堅調に推移

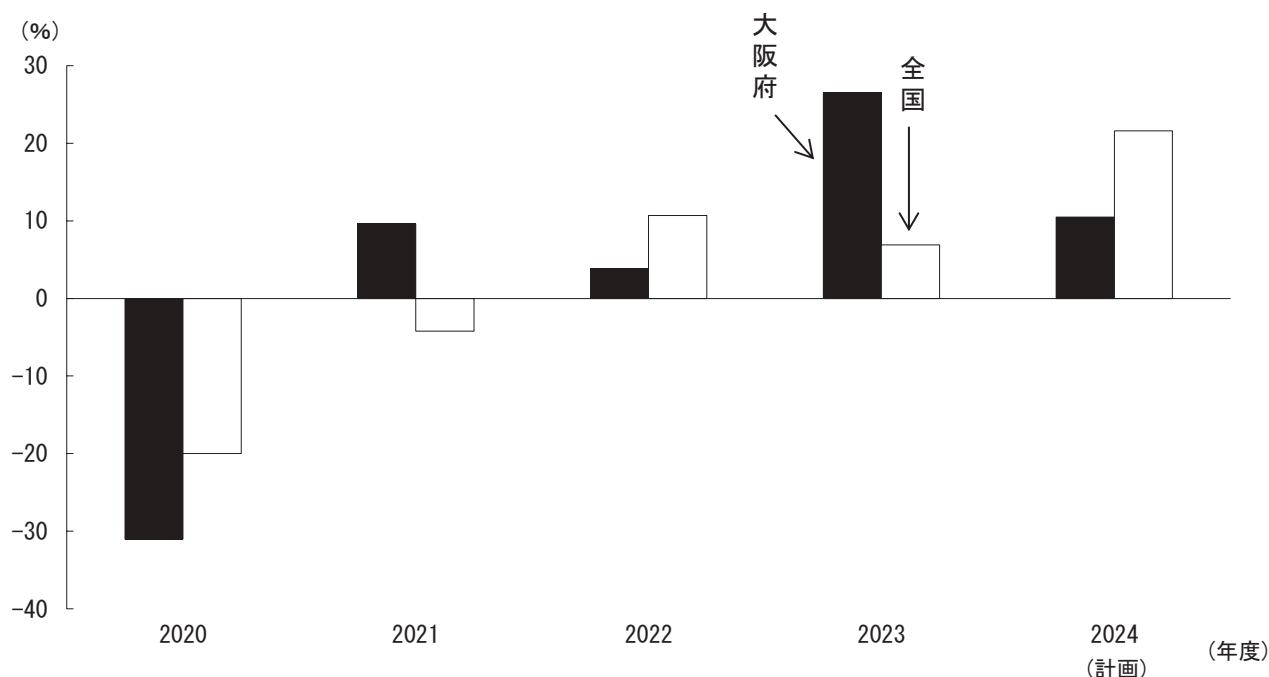
2024 年の民間設備投資は、堅調に推移した。2024 年度の大阪府の大企業・中堅企業の設備投資計画は増加を見込んでいる。能力増強をおこなう「非鉄金属」、新線・沿線開発をおこなう「運輸」などが牽引している。近畿地区の資本金1,000 万円以上の中小企業の設備投資は、2024 年度は増加の見込みである。大阪府内の中小企業を中心とする設備投資計画は、持ち直し傾向にあった。一方、非居住用建築物着工は減少した。中小企業を中心とする設備投資で、消極的な理由は、設備投資の一巡である。

#### (大企業と中堅企業の設備投資は 2024 年度に増加の見通し)

「2023・2024 年度関西地域設備投資計画調査」から大企業と中堅企業(資本金1 億円以上の民間法人企業、金融保険業等は除く)の大阪府内への設備投資額(工事ベース)をみると、2023 年度の実績は前年度比26.5%の大幅増加で、全国は6.9%の増加であった。大阪府における2024 年度の計画は10.5%の増加で、全国は21.6%と大幅増の見込みである(図表2-1-16)。

上記調査の「関西地域の府県別 2023・2024 年度設備投資動向」より、大阪府の設備投資動向を製造・非製造業別にみると、製造業の2024 年度の計画は18.5%増の見込みで、非製造業については8.7%増の見込みである。同調査によれば、大阪府における製造業・非製造業の2024 年度の計画の要因は、『大型投資剥落で「不動産」が減少するものの、能力増強をおこなう「非鉄金属」、新線・沿線開発をおこなう「運輸」などが増加」することで、4 年連続増加する』計画だとしている。

図表2-1-16 大企業・中堅企業の設備投資額の推移(前年度比)



資料：日本政策投資銀行関西支店「2023・2024 年度関西地域設備投資計画調査」(2024 年 6 月調査) (「関西地域の府県別 2023・2024 年度設備投資動向」)、日本政策投資銀行「2024 年度設備投資計画調査」(2024 年 6 月調査)。

(注) 1. 大企業は、原則として資本金1 億円以上の民間企業(ただし、金融保険業等は除く)。

2. 単独決算・国内投資・工事ベース。原則として建設仮勘定を含む有形固定資産の新規計上額。

3. 2023 年度は実績、2024 年度は計画。

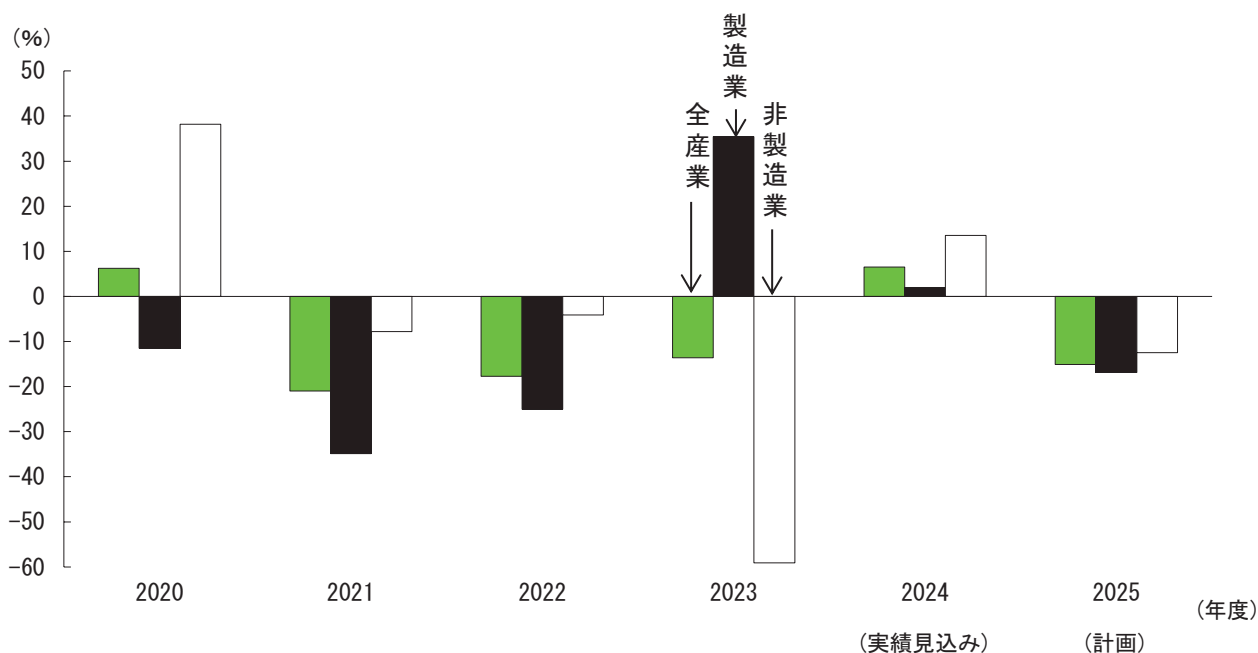
**（資本金 1,000 万円以上の中小企業の設備投資は、2024 年度は増加の見込み）**

近畿地区の中小企業（資本金 1 千万円以上 1 億円未満）の設備投資額をみると（ただし、資本金 1 千万円以上なので、中小企業の中でも規模が小さい企業を除く）、2024 年度の実績は 6.5%増加する見込みである（図表 2-1-17）。一方、2025 年度の計画は-15.1%

と大幅に減少する見通しである。

産業別に前年度比でみると、製造業は、2024 年度に 2.0%増加する見込みである。2025 年度の計画は-16.9%と大幅に減少する見通しである。非製造業は、2024 年度は 13.5%と大幅に増加する見込みであるが、2025 年度の計画は 12.5%減少する見通しである。

図表 2-1-17 中小企業の設備投資額の推移（近畿地区、前年度比）



資料：財務省近畿財務局「法人企業景気予測調査」2025 年 2 月調査。

（注）1. 中小企業は、資本金 1 千万円以上 1 億円未満の企業。

2. 除く土地、含むソフトウェア投資。

3. 2024 年度は実績見込み、2025 年度は計画。

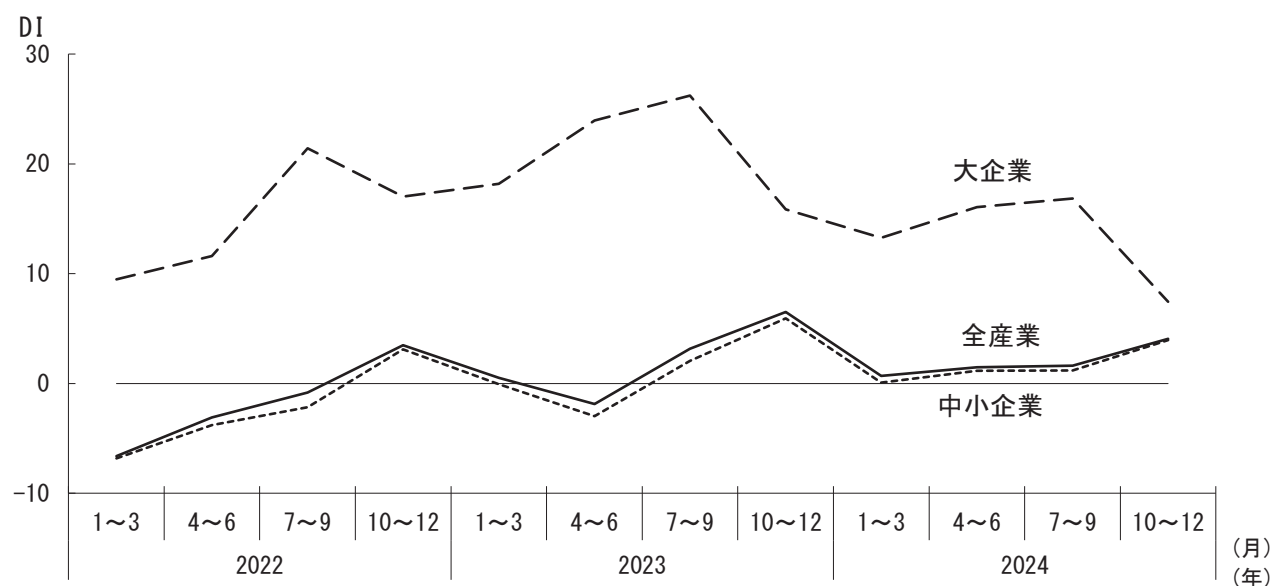
**（中小企業を中心とする設備投資 D I は持ち直し）**

大阪府景気観測調査から大阪府内の中小企業を中心とする設備投資 D I（「増加」企業割合－「減少」企業割合、設備投資の増減は、前年度実績と比較した各年度計画）をみると、2024 年 1～3 月期は 0.7 であったが、4～6 月期は 1.5、7～9 月期は 1.6、10～12 月期は 4.1 と上昇傾向で推移した。一方、前年同期比で D I 値の増減幅を確認すると、1～3 月期は 0.2、4～6 月期は 3.4 の増加で、7～9 月期は 1.5、10～12 月期は 2.4 の減少であった（図表 2-1-18）。

企業規模別で D I をみると、大企業（回答企業全体

のうち、約 5%の構成比）は、1～3 月期は 13.3、4～6 月期は 16.0、7～9 月期は 16.9、10～12 月期には 7.4 と、プラスであったものの、すべての四半期で前年より水準を落としている。一方、中小企業（回答企業全体のうち、約 95%の構成比）は、1～3 月期は 0.1、4～6 月期は 1.2、7～9 月期は 1.2、10～12 月期は 4.0 で、こちらもプラスで推移したが、1～3 月期と 4～6 月期は前年よりも高い水準となったが、7～9 月期と 10～12 月期は前年よりも水準を落とした。

図表 2-1-18 設備投資D Iの推移（大阪府内企業）



資料：大阪産業経済リサーチセンター「大阪府景気観測調査」。

(注) 1. 設備投資D I = 「増加」企業割合 - 「減少」企業割合（前年度実績と比較した今年度の設備投資計画）。

2. 回答企業の約95%は中小企業（従業者数300人未満の企業。なお、卸売業とサービス業の企業は100人未満、小売業と飲食店・宿泊業の企業は50人未満）

### （「能力増強」が低下）

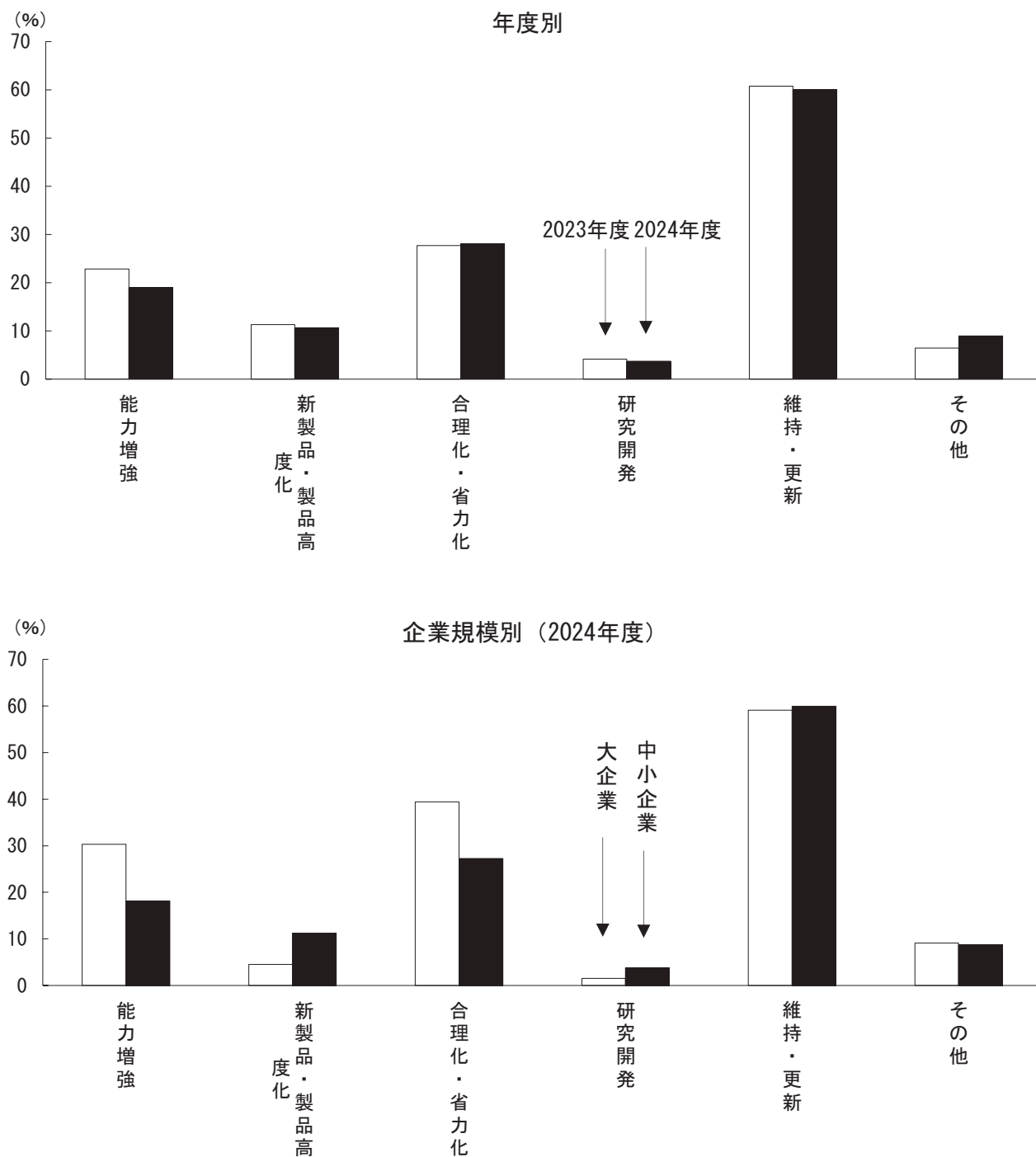
引き続き「大阪府景気観測調査（2024年10～12月期）」から府内企業の2024年度設備投資の主な目的をみると、「維持・更新」が60.0%と最も高く、「合理化・省力化」が28.0%、「能力増強」が19.0%であった（図表2-1-19）。2023年度と比較すると、「能力増強」は3.9%ポイント低下し、「その他」が2.5%ポイント上昇した。

企業規模別にみると、「能力増強」、「合理化・省力化」は、大企業が中小企業より高く、それぞれ12.2%ポイント、12.1%ポイント上回る。2023年度と比較し、大きく変化した項目をみると、大企業では、「新製品・

製品高度化」が6.6%ポイント低下し、「能力増強」も4.9%ポイント低下した。一方で、「その他」は3.5%ポイント上昇した。中小企業は、「能力増強」が3.8%ポイント低下した。

業種別で、前年に比べて回答割合が増加した項目をみていくと、小売業、サービス業では「新製品・製品高度化」が、情報通信業、運輸業、卸売業、不動産業では「合理化・省力化」が高まった。同調査によると、「物流の2024年問題による人手不足の深刻化への対応から、様々な合理化・省力化（共同配送システム、倉庫の自動化など）が進んだものと考えられる」とみている。

図表 2-1-19 設備投資の主な目的（大阪府内企業）



資料：大阪産業経済リサーチセンター「大阪府景気観測調査（2024年10～12月期）」。

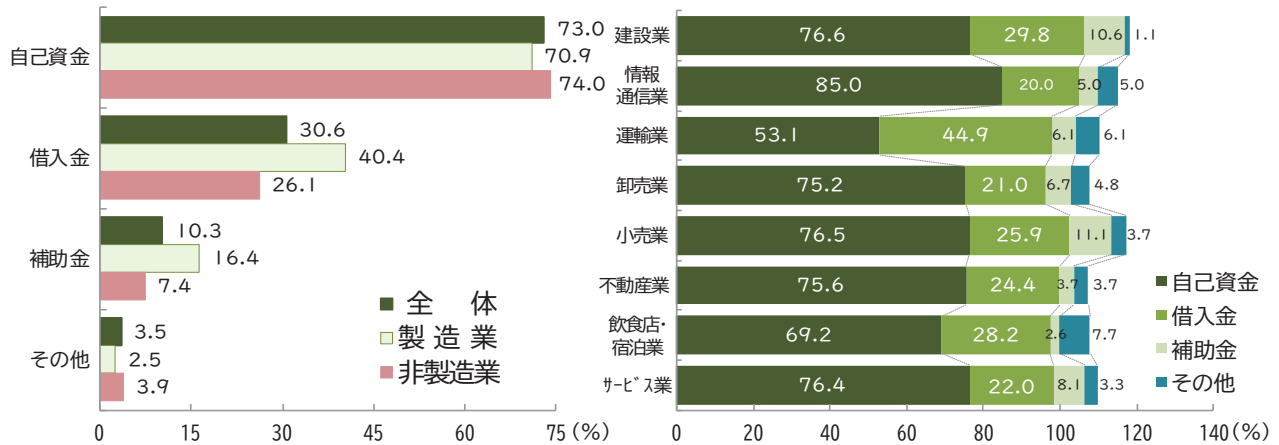
### （設備投資資金の調達方法は、自己資金が最も多い）

引き続き「大阪府景気観測調査（2024年10～12月期）」より、設備投資資金の調達方法をみていく（図表2-1-20）。調達方法の内訳は、「自己資金」が73.0%と最も多く、「借入金」「補助金」が続く。業種別で調達方法に大きな差はないが、製造業では「借入金」を

利用したとする割合が、非製造業よりも14.2ポイント上回っている。

業種別でみると、非製造業の中では、建設業、情報通信業、卸売業、小売業、不動産業、サービス業において、「自己資金」が70%を超えているのに対して、運輸業では「借入金」が他の業種よりも高く（44.9%）、外部資金への依存度が高いことがうかがえる。

図表 2-1-20 設備投資資金の調達方法（複数回答）



資料：大阪産業経済リサーチセンター「大阪府景観観測調査（2024年10～12月期）」図17を転載。

（注）回答企業の約95%は中小企業

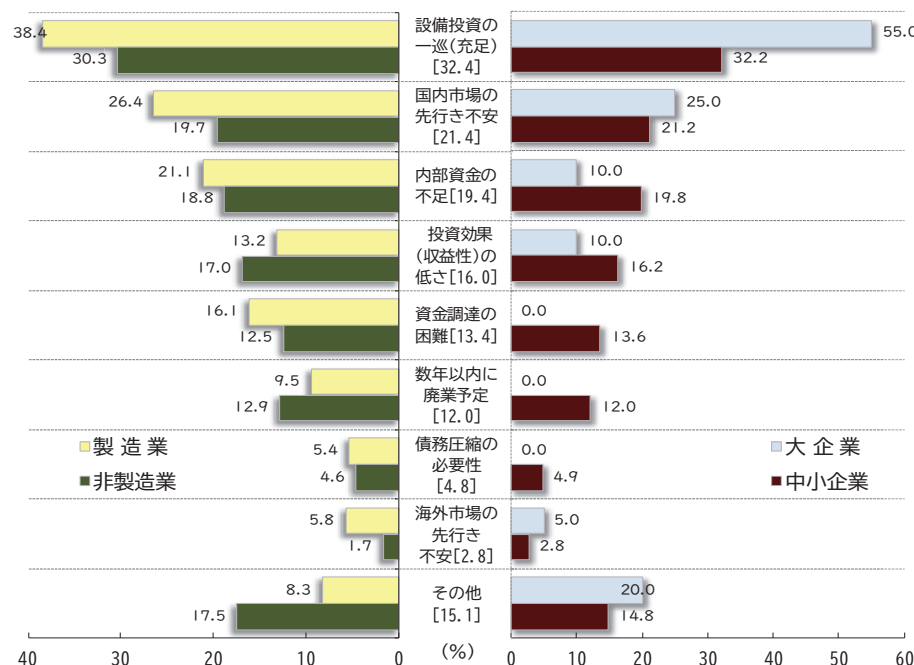
### （設備投資に消極的なのは、設備投資の一巡から）

引き続き、2023年度実績と比べて、2024年度の設備投資計画が「減少」または「なし」と回答した企業にその理由を尋ねた結果をみると（図表2-1-21）、「設備投資の一巡（充足）」が約32%と最も多く、「国内市場の先行き不安」「内部資金の不足」などが続く。業種別では、製造業は、全体の傾向と同じく「設備投資の一巡（充足）」や、「国内市場の先行き不安」が多

い。非製造業では「設備投資の一巡（充足）」が多いほか、製造業に比べて投資効果（収益性）の低さや数年以内の廃業を予定している企業が多かったことが特徴である。

規模別では、中小企業は全体と同じような傾向であり、大企業は、「設備投資の一巡」が55%と割合が特に高い。一方、中小企業は大企業に比べて、資金繰りの難しさや数年以内の廃業といった問題が目立つ。

図表 2-1-21 設備投資に消極的な理由（複数回答）



資料：大阪産業経済リサーチセンター「大阪府景観観測調査（2024年10～12月期）」図18を転載。

（注）回答企業の約95%は中小企業

### （非居住用建築物着工は減少）

大阪府内の建設投資の動きを、非居住用建築物着工床面積を用いて四半期別にみると、2024 年 1～3 月期の前年同期比で 21.6%の大幅減少の後、4～6 月期は 16.5%の増加に転じた。7～9 月期は、1.4%と引き続き増加であったが、10～12 月期には 36.2%の大幅減少に転じた（図表 2-1-22）。

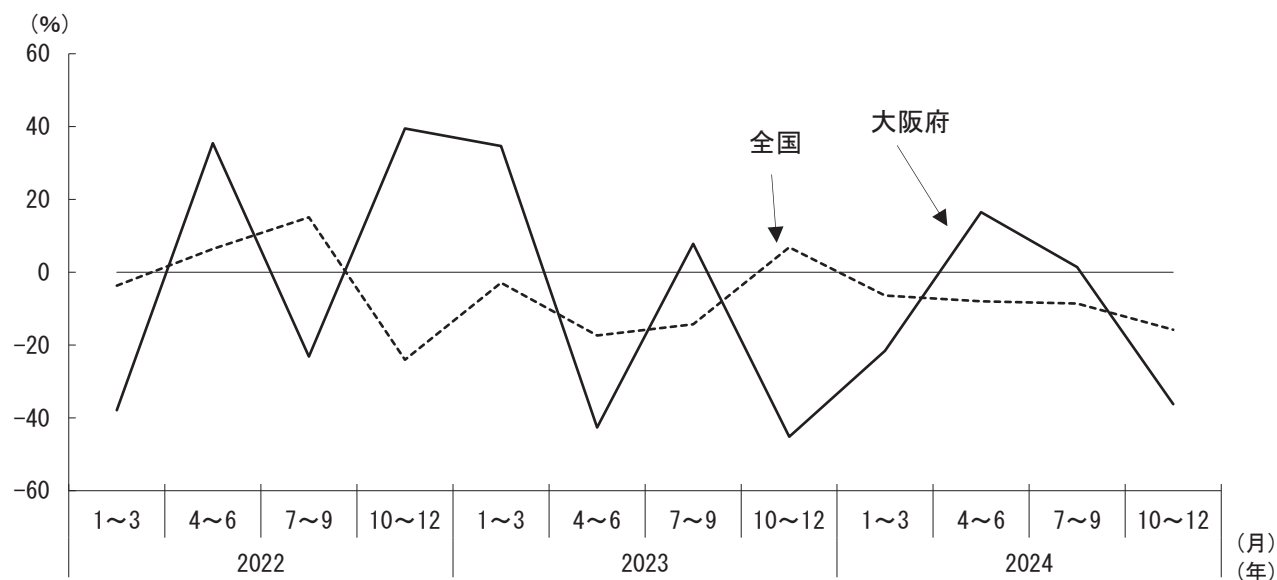
図表 2-1-23 の業種別の前年同期差をみると、1～3 月期の大幅減は、主に「卸売業、小売業」「運輸業」「教育、学習支援業」などによる。4～6 月期の増加は、「運輸業」の大幅増加など、7～9 月期の増加は、「運輸業」「卸売業、小売業」などによる。一方、10～12 月期の大幅減少は、「運輸業」「医療、福祉」「卸売業、小売業」などによる。

年別では、大阪府は、2024 年は前年比 11.6%の減少となり、全国は 9.8%の減少であった。大阪府における業種別の増減幅を前年差で見ると（図表 2-1-23）、「医療、福祉」「卸売業、小売業」「その他のサービス業」「不動産業」などで大幅に減少した一方、「運輸業」などで増加した。

### （公共投資は横ばい）

2024 年の大阪府内の公共工事請負金額（契約時の受注金額）は前年比で横ばいであった。四半期ごとにみると、2024 年 1～3 月期は 28.0%減、4～6 月期は 22.4%増、7～9 月期は 3.7%減、10～12 月期は 23.6%減であった（図表 2-1-24）。全国では、前年比で 5.0%増加であった。

図表 2-1-22 非居住用建築物着工床面積の推移（前年同期比）



資料：国土交通省「建築着工統計」。

（注）非居住用建築物は、農林水産業用、鉱業、採石業、砂利採取業、建設業用、製造業用、電気・ガス・熱供給、水道業用、情報通信業用、運輸業用、卸売業、小売業用、金融業、保険業用、不動産業用、宿泊業、飲食サービス業用、教育、学習支援業用、医療、福祉用、その他のサービス業用、公務用、他に分類されない建築物の合計。

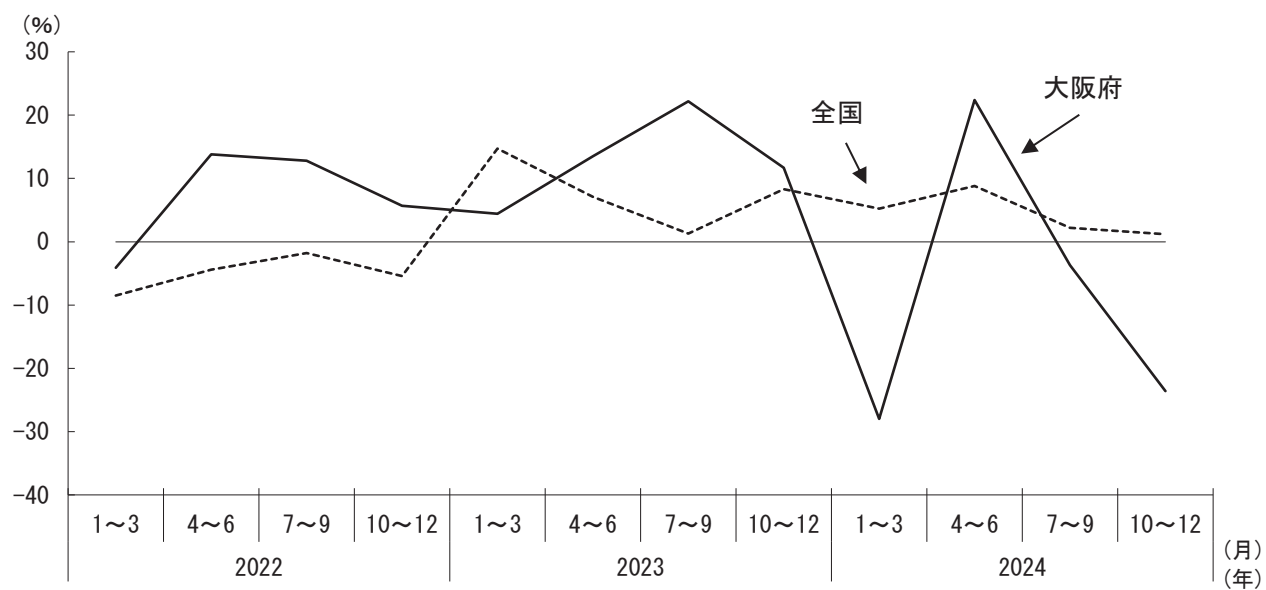
図表 2-1-23 非居住用建築物着工床面積の推移（大阪府、用途別（大分類））

|           |        | 用途別（大分類） |                  |          |               |           |        |          |         |
|-----------|--------|----------|------------------|----------|---------------|-----------|--------|----------|---------|
|           |        | 農林水産業    | 鉱業、採石業、砂利採取業、建設業 | 製造業      | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 情報通信業     | 運輸業    | 卸売業、小売業  | 金融業、保険業 |
| 面積（千㎡）    | 1～3月   | 0.6      | 14.0             | 69.0     | 9.0           | 23.5      | 120.4  | 59.6     | 2.7     |
|           | 4～6月   | 0.8      | 11.6             | 64.0     | 17.9          | 0.9       | 258.7  | 67.8     | 1.4     |
|           | 7～9月   | 0.1      | 7.5              | 82.4     | 4.5           | 0.0       | 167.5  | 107.5    | 3.3     |
|           | 10～12月 | 2.8      | 5.2              | 64.4     | 0.7           | 0.3       | 68.0   | 44.4     | 5.8     |
|           | 年計     | 4.3      | 38.3             | 279.8    | 32.1          | 24.7      | 614.6  | 279.3    | 13.3    |
| 前年同期比（%）  | 1～3月   | -16.2    | 119.1            | 3.5      | 835.2         | 2311.6    | -32.3  | -58.5    | 189.9   |
|           | 4～6月   | 43.8     | 76.5             | 23.4     | 38.5          | -87.4     | 330.8  | -5.0     | -86.8   |
|           | 7～9月   | -75.9    | 35.0             | -33.3    | -72.4         | -100.0    | 58.9   | 81.7     | -33.2   |
|           | 10～12月 | 172.3    | 1.8              | -28.3    | -91.5         | -98.0     | -71.2  | -47.1    | -9.8    |
|           | 年計     | 60.7     | 62.2             | -15.7    | -16.7         | -12.6     | 6.1    | -22.1    | -42.8   |
| 前年同期差（千㎡） | 1～3月   | -0.1     | 7.6              | 2.4      | 8.0           | 22.5      | -57.4  | -84.2    | 1.8     |
|           | 4～6月   | 0.3      | 5.0              | 12.1     | 5.0           | -6.0      | 198.7  | -3.6     | -9.4    |
|           | 7～9月   | -0.3     | 2.0              | -41.1    | -11.8         | -4.0      | 62.1   | 48.3     | -1.7    |
|           | 10～12月 | 1.8      | 0.1              | -25.4    | -7.7          | -16.1     | -168.3 | -39.6    | -0.6    |
|           | 年計     | 1.6      | 14.7             | -52.1    | -6.4          | -3.6      | 35.1   | -79.0    | -9.9    |
|           |        | 用途別（中分類） |                  |          |               |           |        |          | 非居住用計   |
|           |        | 不動産業     | 宿泊業、飲食サービス業      | 教育、学習支援業 | 医療、福祉         | その他のサービス業 | 公務     | 他に分類されない |         |
| 面積（千㎡）    | 1～3月   | 29.1     | 21.8             | 14.2     | 66.1          | 88.1      | 10.1   | 19.4     | 547.8   |
|           | 4～6月   | 22.5     | 26.1             | 25.8     | 95.6          | 83.1      | 9.7    | 11.7     | 697.6   |
|           | 7～9月   | 16.0     | 12.5             | 81.9     | 81.8          | 69.1      | 11.6   | 11.4     | 657.3   |
|           | 10～12月 | 13.5     | 127.5            | 35.6     | 58.0          | 28.3      | 17.2   | 1.3      | 473.0   |
|           | 年計     | 81.1     | 187.9            | 157.6    | 301.5         | 268.6     | 48.7   | 43.9     | 2375.7  |
| 前年同期比（%）  | 1～3月   | -41.6    | -57.3            | -72.2    | -12.8         | 49.5      | 27.7   | 261.3    | -21.6   |
|           | 4～6月   | -57.3    | 18.2             | 20.4     | 3.7           | -45.9     | -64.1  | 31.6     | 16.5    |
|           | 7～9月   | -11.9    | -56.9            | 50.0     | -34.6         | 2.3       | 40.2   | -55.8    | 1.4     |
|           | 10～12月 | -29.5    | 56.4             | 29.5     | -41.8         | -43.0     | 26.7   | -62.5    | -36.2   |
|           | 年計     | -42.0    | 2.3              | 1.8      | -23.2         | -18.5     | -14.3  | 0.4      | -11.6   |
| 前年同期差（千㎡） | 1～3月   | -20.7    | -29.2            | -37.0    | -9.7          | 29.2      | 2.2    | 14.1     | -150.6  |
|           | 4～6月   | -30.2    | 4.0              | 4.4      | 3.4           | -70.6     | -17.3  | 2.8      | 98.6    |
|           | 7～9月   | -2.2     | -16.5            | 27.3     | -43.3         | 1.6       | 3.3    | -14.5    | 9.4     |
|           | 10～12月 | -5.6     | 46.0             | 8.1      | -41.6         | -21.4     | 3.6    | -2.2     | -268.8  |
|           | 年計     | -58.7    | 4.3              | 2.8      | -91.2         | -61.2     | -8.1   | 0.2      | -311.6  |

資料：国土交通省「建築着工統計」。

(注) 図表 2-1-22 と同じ。

図表 2-1-24 公共工事請負金額の推移（前年同期比）



資料：西日本建設業保証㈱、東日本建設業保証㈱、北海道建設業信用保証㈱「公共工事前払保証統計」。

#### 4. 近畿圏の輸出入額は、ともに2年ぶりのプラス

2024年の近畿圏の貿易動向では、輸出額・輸入額はともに2年ぶりのプラスとなった。輸出額・輸入額ともに、概ね前年同月比でプラスとなった月が多かった。

輸出の動向をみると、地域別では中国を含むアジア向けのプラス寄与が大きく、品目別では原料別製品や電気機器などのプラス寄与が影響した。輸入の動向をみると、地域別では中東からはマイナス寄与となったものの、他の主要地域からはプラス寄与となり、品目別では、食料品、一般機械、化学製品などのプラス寄与が影響した。

##### (近畿圏では、輸出入額とも2年ぶりのプラス)

近畿圏の輸出通関額（円ベース）は、前年比2.8%増の21兆5,309億円と、2年ぶりに増加した。四半期ごとの前年同期比では、1～3月期は2.0%増、4～6月期は3.2%増、7～9月期は2.8%増、10～12月期は3.2%増と、年間を通じてプラスで推移した（図表2-1-25）。月次では、いくつかの月では前年同月比マイナスとなった月があるものの、概ね前年同月比プラスで推移した。

全国の輸出通関額は、前年比6.2%増の107兆879億円と、4年連続で増加するとともに、前年に引き続き過去最高額を更新した。四半期ごとの前年同期比では、1～3月期以降8.8%増、8.8%増、4.5%増、3.2%増と、年間を通じてプラスで推移した。月次では、9月のみ前年同月比でマイナスとなったものの、他の月は前年同月比でプラスとなった。

近畿圏の輸入通関額（円ベース）は、前年比1.2%増の19兆753億円と、2年ぶりに増加した。四半期ごとの前年同期比では、1～3月期は7.3%減となったものの、4～6月期以降、3.7%増、7.6%増、0.9%増と、

前年同期比プラスで推移した。月次では、前年同月比マイナスとなった月がいくつかあるものの、全体では前年同月比プラスとなった月が多かった。

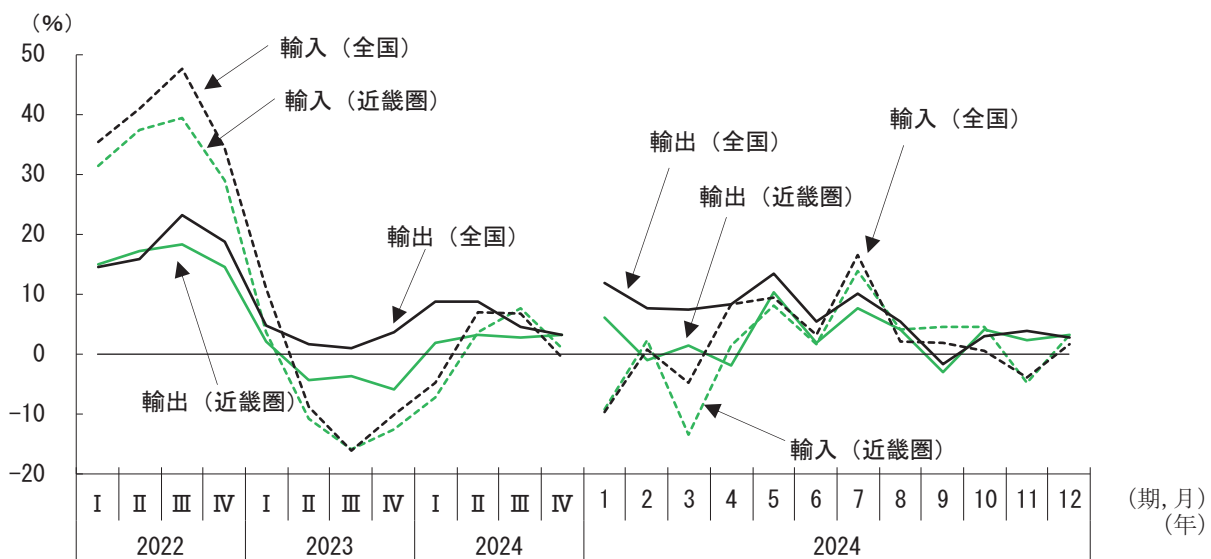
全国の輸入通関額は、前年比2.0%増の112兆5,591億円と、2年ぶりに増加した。四半期ごとの前年同期比の推移では、1～3月期は4.8%減だったものの、4～6月期は7.0%増、7～9月期は6.8%増とプラスとなり、10～12月期は0.5%減とマイナスとなった。月次では、全国の輸出額と同様、前年同月比マイナスとなった月がいくつかあったものの、全体では前年同月比プラスとなった月が多かった。

貿易収支では、近畿圏は2兆4,556億円の貿易黒字と、10年連続の貿易黒字となった。全国は5兆4,712億円の貿易赤字と、4年連続の貿易赤字となったものの、貿易赤字額は前年と比較して縮小した。

(地域別の輸出では、中国を含むアジア向けのプラス寄与が大きかった)

2024年の近畿圏の輸出の地域別構成比は、中国を含むアジアが63.4%、アメリカが16.2%、EUが9.5%となった。アジアの内訳（輸出額全体に対する構成比）

図表2-1-25 輸出入通関額の推移（近畿圏・全国、前年同期比）



資料：大阪税関調べ

(注) 円ベース。近畿圏は、大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良、和歌山の2府4県。

は、中国が23.8%、アジアNIEsが23.0%、ASEANが16.7%となった。2024年は前年と比較して、アジアのシェア(62.1%→63.4%)、特にアジアNIEs、ASEANのシェアが上昇し、アメリカなど他地域のシェアが低下したのが特徴である。

輸出先の主要地域別の前年比は、中国を含むアジア向けが4.9%増で2年ぶりのプラス、中国向けが2.6%増で2年ぶりのプラス、ASEAN向けが4.7%増と2年ぶりのプラス、EU向けが5.4%減と2年連続のマイナス、アメリカ向けが2.0%減で4年ぶりのマイナスと、アジア向け・中国向け・ASEAN向けでは前年比がプラスとなった。また、ASEAN向けの輸出額では、年別で過去最高額を更新した。

輸出先地域別の寄与度では、2024年は中国向け・中国を除くアジア向けではプラス寄与となり、アメリカ向け・EU向けではマイナス寄与となった。その中でも、中国を除くアジア向けのプラス寄与が大きかった(図表2-1-26)。

(品目別の輸出では、原料別製品や電気機器のプラス寄与が大きかった)

2024年の近畿圏の輸出の品目別構成比は、電気機器が26.1%、一般機械22.6%と、これら2品目で構成比の半分程度を占めているが、2024年は前年と比較して、電気機器のシェアが4年連続で低下しているのが特徴的である。

輸出主要品目の増減への寄与度では、鉱物性燃料がマイナス寄与となったものの、他の主要品目ではプラス寄与となり、その中でも原料別製品や電気機器のプラス寄与が大きかった(図表2-1-27)。原料別製品では織物用糸及び繊維製品や非鉄金属、電気機器では

半導体等電子部品の影響が大きかった。

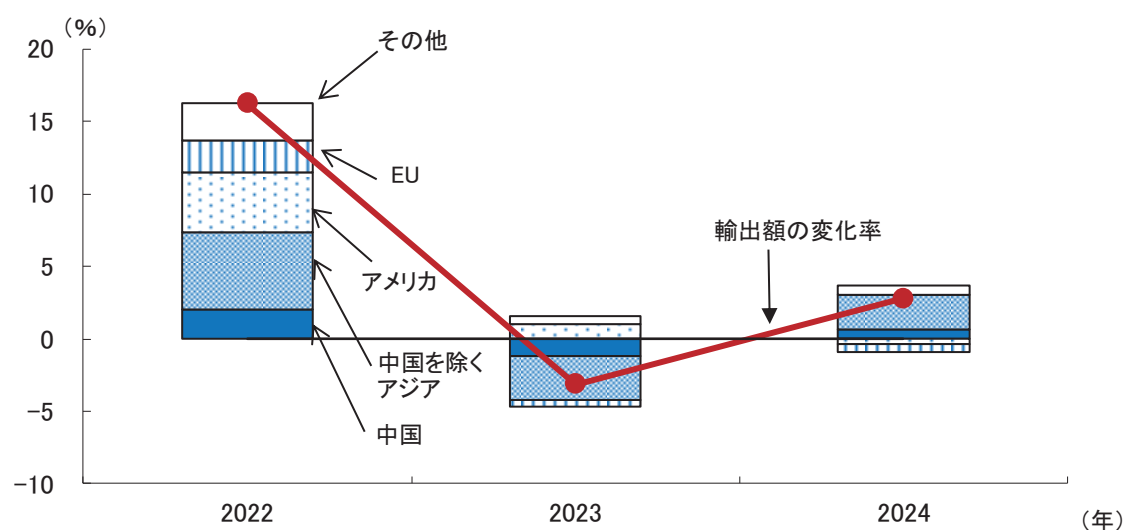
品目別では、半導体等電子部品や半導体等製造装置などが増加に寄与し、鉱物性燃料や遊戯用具などが減少に寄与した。なお、半導体等製造装置の輸出額は年別の過去最高額を更新した。

中国を含むアジア向け輸出では、半導体等電子部品や半導体等製造装置などが増加に寄与したが、鉱物性燃料やコンデンサーなどが減少に寄与した。中国向けでは、半導体等製造装置や非鉄金属などが増加に寄与したが、鉱物性燃料やコンデンサーなどが減少に寄与した。ASEAN向けでは、非鉄金属や半導体等電子部品などが増加に寄与したが、鉱物性燃料や医薬品などが減少に寄与した。EU向けでは、プラスチックや原料品などが増加に寄与したが、遊戯用具や非鉄金属などが減少に寄与した。アメリカ向けでは、科学光学機器や荷役機械が増加に寄与したが、電池や遊戯用具などが減少に寄与した。

(地域別の輸入では、中東からの輸入はマイナスとなったものの、他の主要地域からの輸入はプラスに寄与)

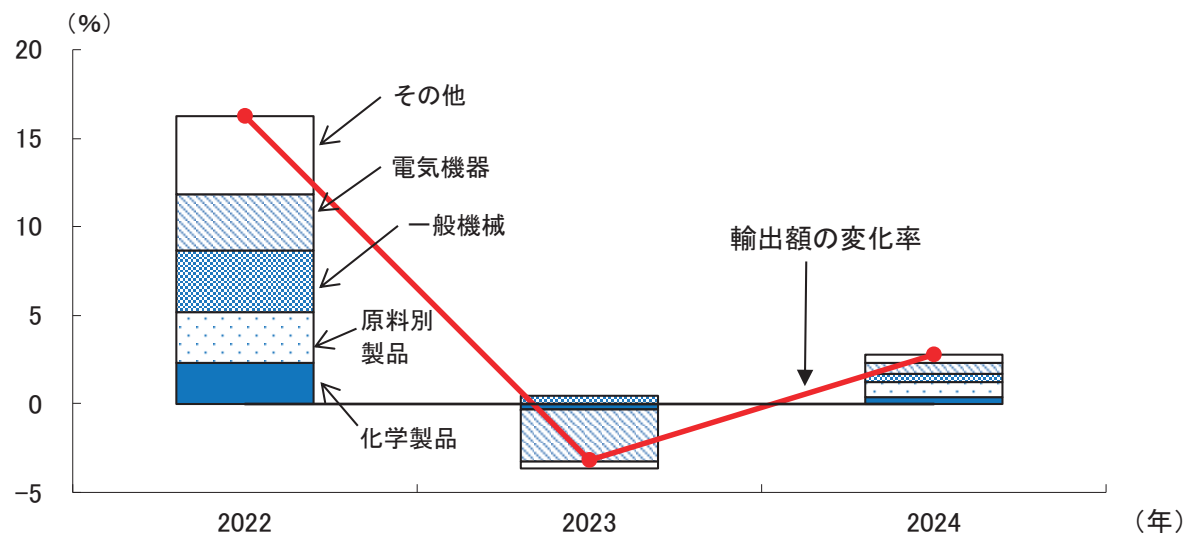
近畿圏の輸入の地域別構成比は、中国を含むアジアが57.9%を占めているが、その内訳(輸入額全体に対する構成比)では、中国が30.6%、アジアNIEsが10.8%、ASEANが16.1%となっている。アジア以外の地域では、EUが12.0%、アメリカが9.1%、中東が5.4%である。2024年は前年と比較して、EUのシェアが増加(10.9%→12.0%)したことが特徴である。

図表2-1-26 地域別輸出通関額の寄与度(近畿圏、前年比)



資料：大阪税関調べ

図表 2-1-27 品目別輸出通関額の寄与度（近畿圏、前年比）



資料：大阪税関調べ

輸入元の主要地域別の前年比では、中国を含むアジアからは 1.0%増と 2 年ぶりのプラス、中国からは 1.2%増と 2 年ぶりのプラス、アジア N I E s からは 3.9%減と 4 年ぶりのマイナス、A S E A N からは 1.5%増と 2 年ぶりのプラス、EU からは 11.6%増と 2 年ぶりのプラス、アメリカからは 3.2%増と 2 年ぶりのプラス、中東からは 8.2%減と 2 年連続のマイナスとなった。

輸入元地域別の寄与度では、2024 年は中東からの輸入はマイナス寄与となったものの、他の主要地域からの輸入はプラス寄与となった（図表 2-1-28）。

（品目別の輸入では、食料品、一般機械、化学製品などがプラス寄与）

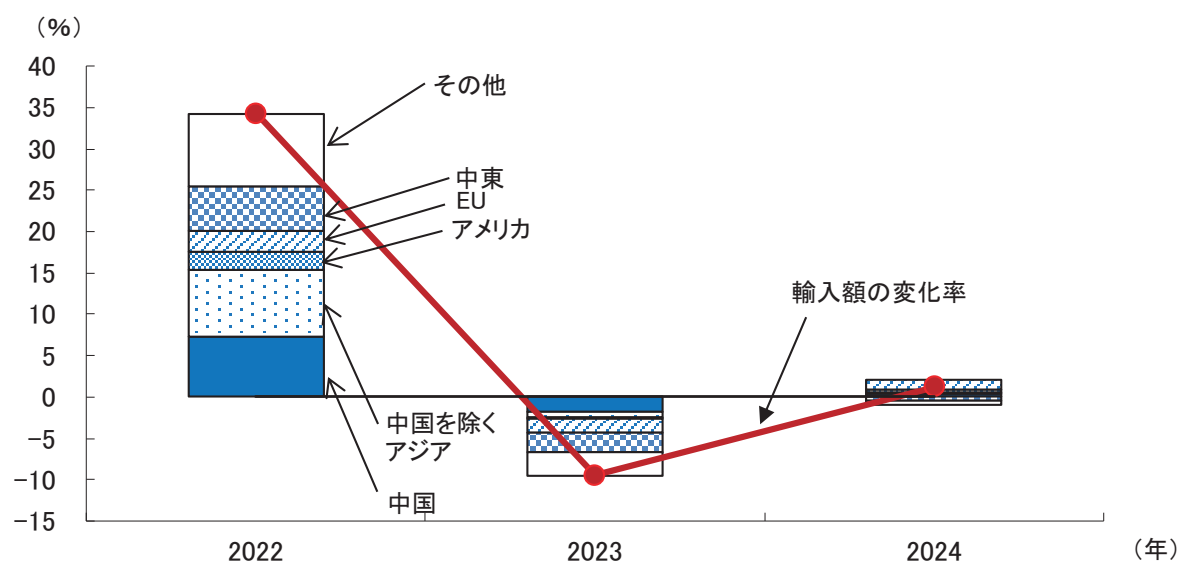
近畿圏の輸入の品目別構成比では、化学製品 15.7%、

電気機器 15.0%、鉱物性燃料 13.1%という順となった。2024 年は前年と比較して、電気機器 (15.2%→15.0%) と鉱物性燃料 (14.5%→13.1%) のシェアが減少し、化学製品 (15.2%→15.7%) や一般機械 (9.5%→10.1%) のシェアが上昇したために、輸入品シェアの順位が前年と入れ替わった。

輸入主要品目の寄与度では、鉱物性燃料や輸送用機器などではマイナス寄与となったものの、食料品や一般機械、化学製品などでプラス寄与となり、全体として前年比プラスとなった（図表 2-1-29）。

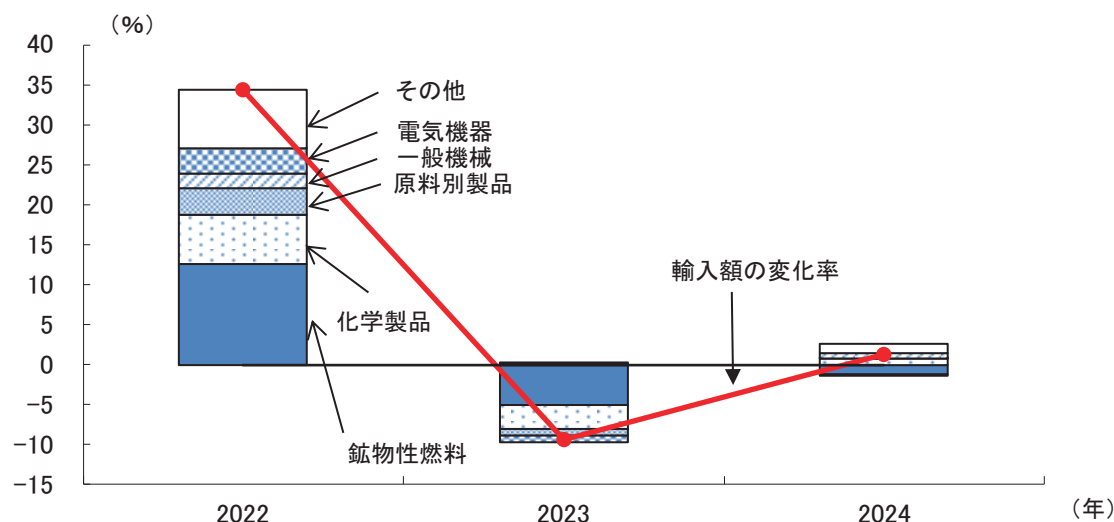
品目別では、医薬品、肉類及び同調製品などが増加に寄与したものの、無機化合物、石油製品などが減少に寄与した。また、肉類及び同調製品の輸入額は過去最高を更新した。

図表 2-1-28 地域別輸入通関額の寄与度（近畿圏、前年比）



資料：大阪税関調べ

図表 2-1-29 品目別輸入通関額の寄与度（近畿圏、前年比）



資料：大阪税関調べ

輸入の地域別品目別をみると、中国を含むアジアからは、天然ガス及び製造ガスや衣類及び同附属品などが増加したものの、無機化合物や石油製品などが減少した。中国からは、通信機や金属製品などが増加したものの、無機化合物やがん具及び遊戯用具などが減少した。ASEANからは、天然ガス及び製造ガスや衣類及び同附属品などが増加したものの、通信機や医薬品などが減少した。EUからは、医薬品や事務用機器などが増加したものの、有機化合物や非鉄金属鉱などが減少した。アメリカからは、天然ガス及び製造ガスや有機化合物などが増加したものの、医薬品や無機化合物などが減少した。

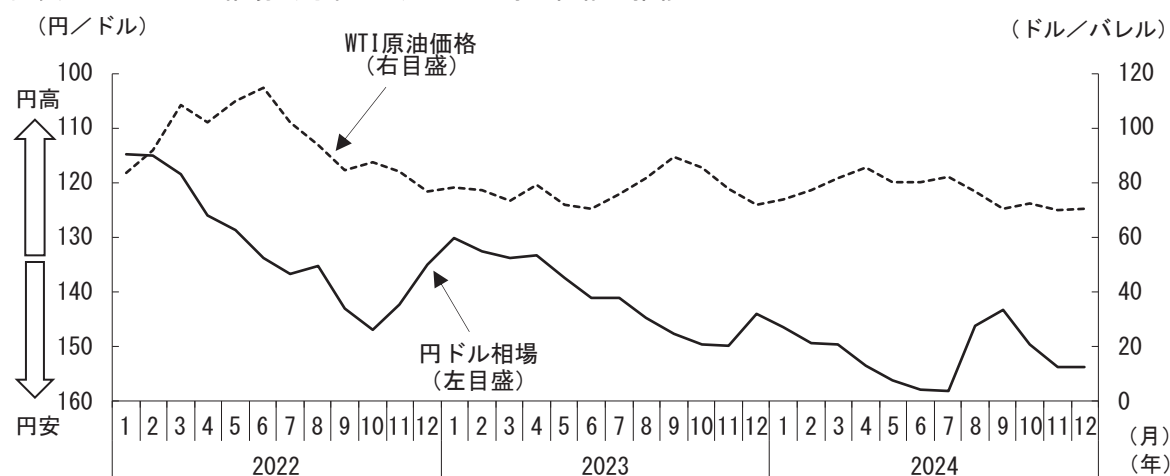
（為替相場では、前年に引き続き、対ドル円相場は大きく変動）

2024年の対ドル円相場では、前年同様、変動の大きな一年となった。日米金利差などによる、前年末からの円安傾向を受けて、2024年前半は円安傾向で推移し、

7月には1ドル＝161円台後半と、約38年ぶりとなる大幅な円安水準を記録した。しかしその後は、円買い為替介入や日米金利差の縮小もあって、対ドル円相場は一転し、9月には1ドル＝139円台と円高方向に振れる局面となった。9月後半以降、アメリカの長期金利が上昇基調で推移し、日米金利差の拡大が再び意識されると、再度円安方向に振れ、年末にかけて1ドル＝150円台後半まで円安が進んだ。このように、2024年における対ドル円相場の年間変動幅は22.4円と、非常に乱高下が激しい1年となった。（図表2-1-30）。

原油価格では、2024年前半において、ウクライナ情勢や中東における緊張の高まりを受けた供給支障懸念により、原油価格は上昇傾向で推移した。7月以降、中東における供給支障懸念の後退に加えて、中国経済の鈍化や石油需要の減少懸念等により、原油価格は下落傾向で推移した。そのため、原油価格は2024年年間を通じてみると、ほぼ横ばいの水準となった。

図表 2-1-30 円相場（対米ドル）および原油価格の推移



資料：日本銀行『時系列統計データ』、IMF “Primary Commodity Prices” （注）1バレル＝159リットル

## 5. 日本人の観光需要は、年後半に伸び悩んだ

2024 年は新型コロナウイルス感染症に伴う社会経済活動の制約が完全になくなったことや、長引く円安基調などによる訪日旅行の割安感から、外国人の観光需要が急伸した。一方、日本人の観光需要は自然災害や猛暑、物価高などを背景に旅行意欲が減退したこともあり、全体の観光需要は年後半に伸び悩んだ。

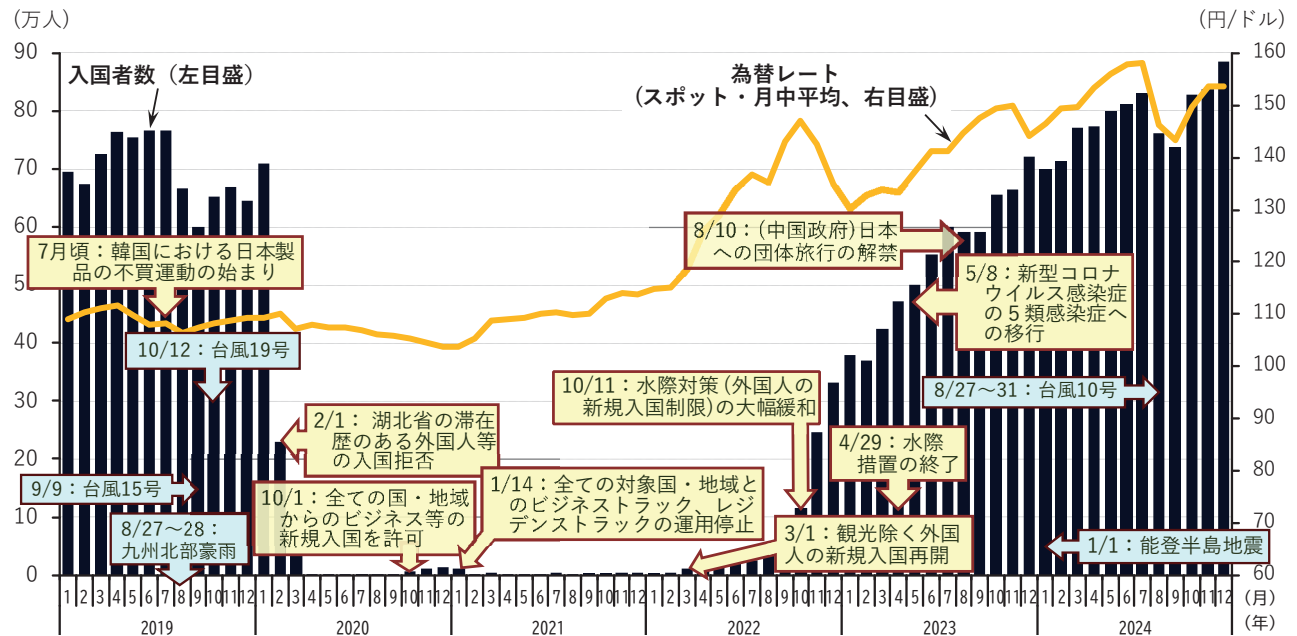
### （訪日外国人の観光需要が急伸）

関西国際空港（関空）を経由して入国する外国人の数の推移をみると、2019 年は台風や豪雨などの自然災害が到来するも、アジア諸国における海外旅行需要の拡大などを背景に概ね増加基調だった。しかし、新型

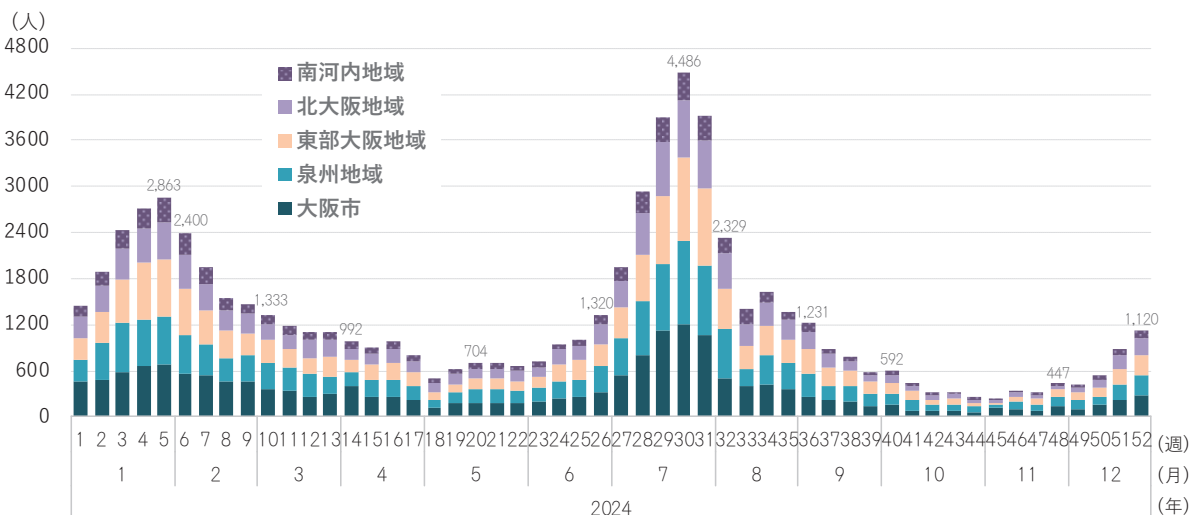
コロナウイルス感染症の世界的な拡大に伴い、2020 年を境に記録的な落ち込みが 2 年以上続いた（図表 2-1-31）。

その後、2022 年 3 月の外国人の新規入国再開（観光を除く）を皮切りに水際対策が段階的に緩和され、2022

図表 2-1-31 関西国際空港からの入国外国人人数



図表 2-1-32 2024 年における大阪府の新型コロナウイルス感染症の感染者数の推移



資料：大阪府健康医療部・保健医療室感染症対策企画課ホームページより作成 ([https://www.pref.osaka.lg.jp/iryo/osakakansen-sho/happyko\\_kako.html](https://www.pref.osaka.lg.jp/iryo/osakakansen-sho/happyko_kako.html))。

(注) 各ブロックに所属する市町村は以下の通り。

北大阪地域：豊中市、池田市、箕面市、豊能町、能勢町、吹田市、高槻市、茨木市、摂津市、島本町

東部大阪地域：枚方市、寝屋川市、守口市、門真市、大東市、交野市、四條畷市、東大阪市、八尾市、柏原市

南河内地域：富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村

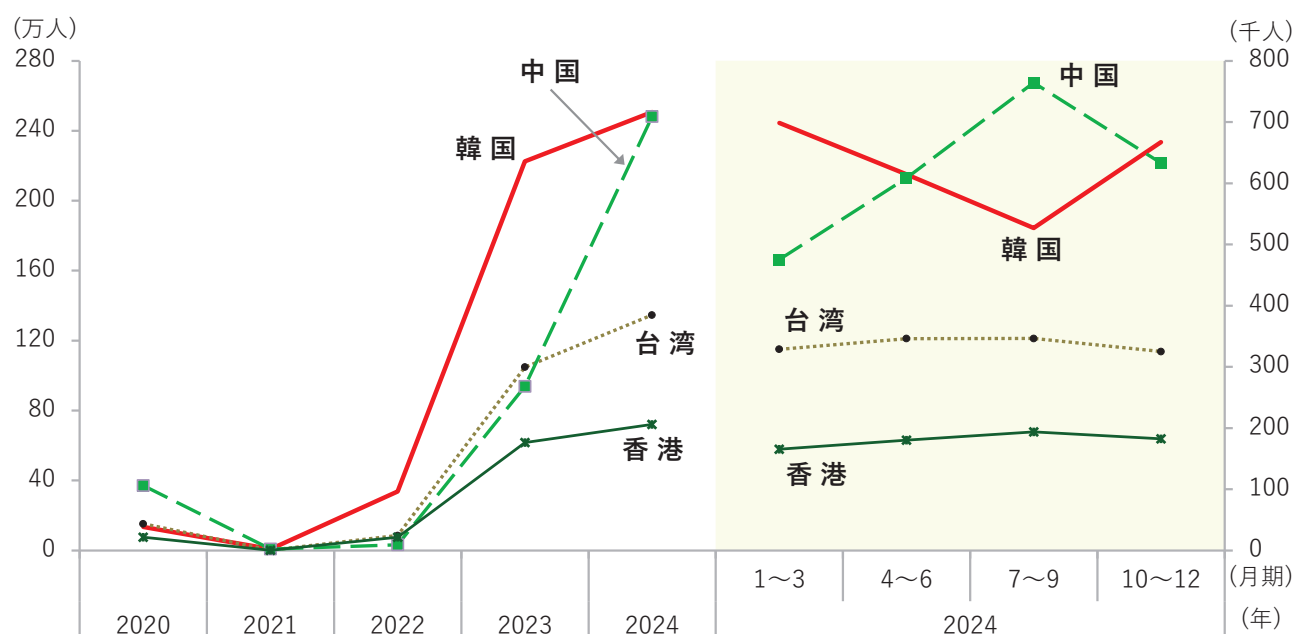
泉州地域：堺市、泉大津市、和泉市、高石市、忠岡町、岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市、阪南市、熊取町、田尻町、岬町

年は円安の進行や水際対策の大幅な緩和などもあり、入国外国人数は秋以降急伸した。2023 年は水際対策の終了（4 月）や新型コロナウイルス感染症の 5 類への移行（5 月）に加え、前年以上に円安が進行したことなどから、回復基調がより鮮明になった。2024 年は社会経済活動の制約がなくなったのに加え、長引く円安基調、他国よりも低いインフレ率の影響で、訪日旅行に割安感が増したことから、訪日外国人は回復基調が加速した。ただし、8～9 月は例年の同時期と比べて入国外国人数が大きく減少している。奇しくも、為替レートが一時的に円高傾向へ転じた時期と合致することから、入国外国人数の落ち込みの背景には少なからず為替変動の影響があったと考えられる。

### （中国の勢いが強まる）

東アジア 4 か国・地域（韓国、中国、台湾、香港）の動きを 2020 年からの時系列でみると、2021 年はいずれの国・地域も減少した（図表 2-1-33）。中国は、コロナ禍の世界的拡大により 2021 年に激減した後、2022 年は 3.2 万人、2023 年は 94 万人、そして 2024 年は前年比 2.6 倍の 248 万人まで増加した。韓国は、2020、21 年の前年比がともに 90% 超の減少となったが、行動制限の解除やウォン高・円安の進行などを背景に回復基調が強まり、2022、23 年は急伸した。2024 年の伸び幅は落ち着き、中国が追い上げているものの、人数は上記 4 か国・地域で最多を維持した。台湾は、2021 年の前年比が他国と同様に急落した後、2022、23 年の

図表 2-1-33 関西国際空港経由の入国外国人数（東アジア 4 か国・地域）



資料：法務省「出入国管理統計」

急回復で韓国に次ぐ規模に伸長した。ただし、2024 年の前年比が 2 桁のプラスとなるも、中国の勢いに押されて 3 位となった。香港は、2021 年までの減少後、2022 年に上記 4 か国・地域で最も高い伸び率を示し、2024 年の前年比も 2 桁の増加で 72 万人に達した。

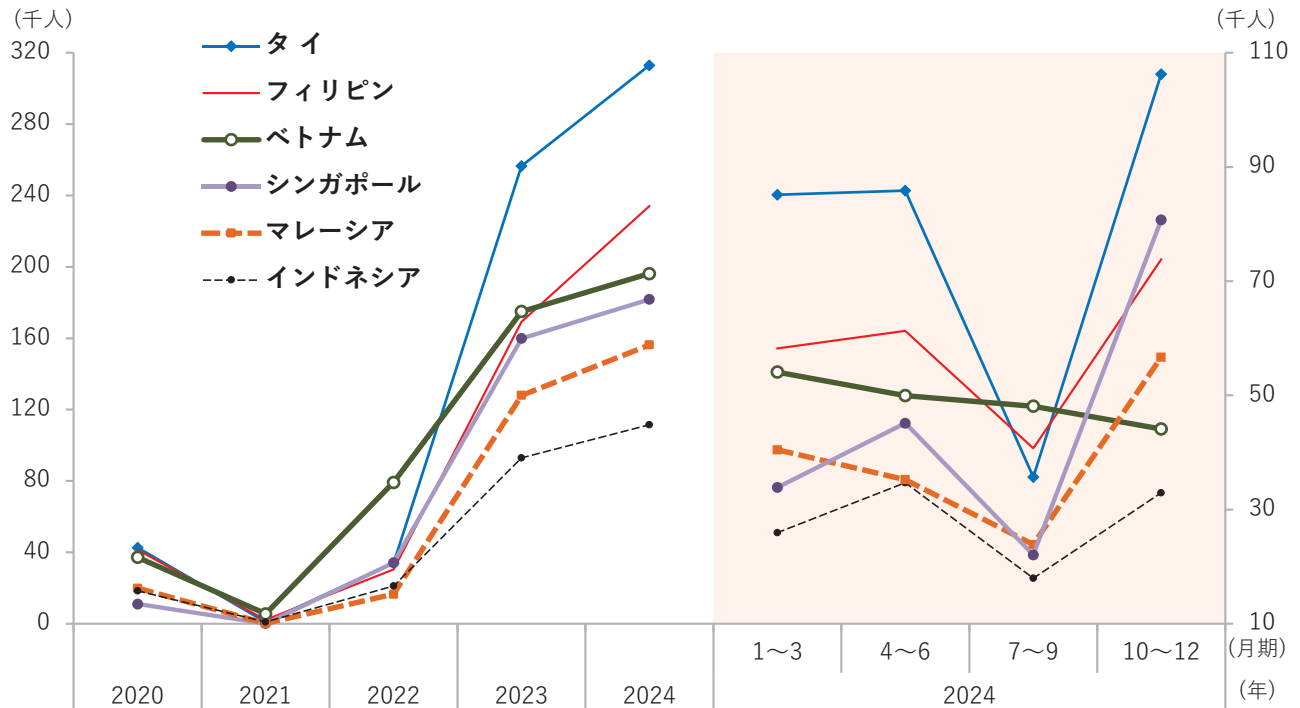
四半期別の動きをみると、韓国は 2024 年 1～3 月期の前年同期比が 39.0% 増、4～6 月期も 21.7% 増で推移した後、7～9 月期が 5.1% 減、10～12 月期が 0.7% 増と年後半に伸びが鈍化した。中国は、1～3 月期は訪日団体旅行が禁止されていた前年の反動増から、前年同期比が 14.1 倍と大きく伸びたが、中国経済の減速に伴い年間を通して海外旅行への需要が抑制されたこともあり、4～6 月期、7～9 月期、10～12 月期はそれぞれ前年の 3.3 倍、1.9 倍、2.0 倍と鈍化した。とはいえ、他の国・地域に比べて著しい増加ペースであった。台湾は、各期とも 30 万人台で推移した。ただ、2023 年前半の実績が低かったこともあり、7～9 月期まではそ

れぞれ 74.0% 増、35.9% 増、17.5% 増と 2 桁の伸びを示したが、10～12 月期は 5.0% と 1 桁の伸びとなった。香港は、他の国・地域と同様に 2 桁の伸び幅を示す期もみられたが、実数は依然として小さく、最多の 7～9 月期でも 19.4 万人であった。

続いて、ASEAN 主要 6 か国（タイ、マレーシア、フィリピン、インドネシア、シンガポール、ベトナム）の入国者数をみると、タイは 2022 年に 3.4 万人と前年（951 人）から大きく好転した後、2023 年は 25.6 万人、2024 年も 31.3 万人と前年に続いて ASEAN で最多となった。コロナ禍からの回復が早かったベトナムは、2022 年の人数が ASEAN で最多を記録したが、その後はタイやフィリピンに追い越され、2024 年は 19.6 万人と第 3 位に転落した（図表 2-1-34）。

四半期別の前年同期比をみると、2024 年 1～3 月期は、コロナ禍からの脱却が進み、タイやフィリピンの 90% 超の増加をはじめ 2 桁の伸びが相次いだ。4～6 月

図表 2-1-34 関空経由の入外国人数（ASEAN主要6か国）



資料：法務省「出入国管理統計」

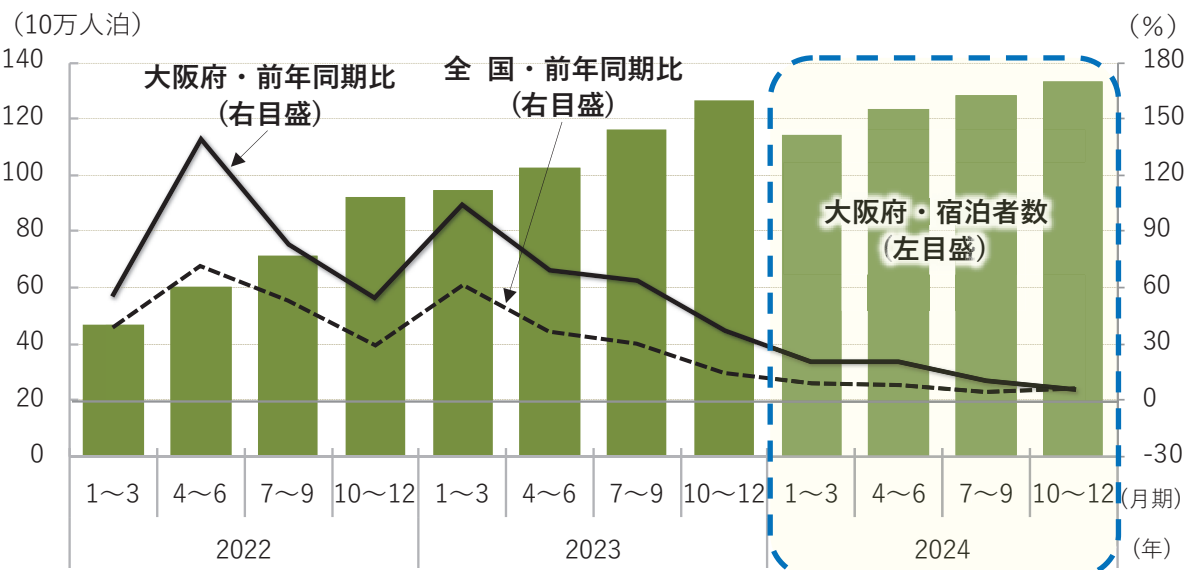
期も同様に、インドネシアやフィリピンを中心にいずれも2桁の増加となった。7～9月期は、タイで2桁の減少となったほか、インドネシアやシンガポールでも1桁の増加にとどまった。10～12月期も、タイ、インドネシア、ベトナムで1桁の伸びとなるなど、年の前半に比べて後半は伸びに落ち着きがみられた。

#### （宿泊者数の伸びは年後半にやや鈍化）

大阪府内の延べ宿泊者数をみると、2024年1～3月期の前年同期比は、1月に能登半島地震が発生したものの府内観光への影響は少なく、20.5%増と2桁の増加となった（図表2-1-35）。前年5月の新型コロナ

ウイルス感染症の5類移行後、社会経済活動が正常化したことから、4～6月期も20.7%増と2桁の伸びとなった。7～9月期は、①宮崎県日向灘地震に伴う南海トラフ地震臨時情報の発表や台風10号接近に伴う公共交通機関の運休、②記録的な猛暑などによる旅行需要の低下などもあり、10.3%増と伸びはやや鈍化した。10～12月期は、宿泊者数は堅調に推移したものの、前年同期の水準が高かったことから前年同期比は5.7%増にとどまった。一方、全国の前年同期比をみると、大阪府と同様に年前半の伸びは高かったが、後半はやや失速気味となった。なお、伸び幅の推移を比較する

図表 2-1-35 施設所在地別延べ宿泊者数の増減率（従業者数10人以上の施設）



資料：国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」

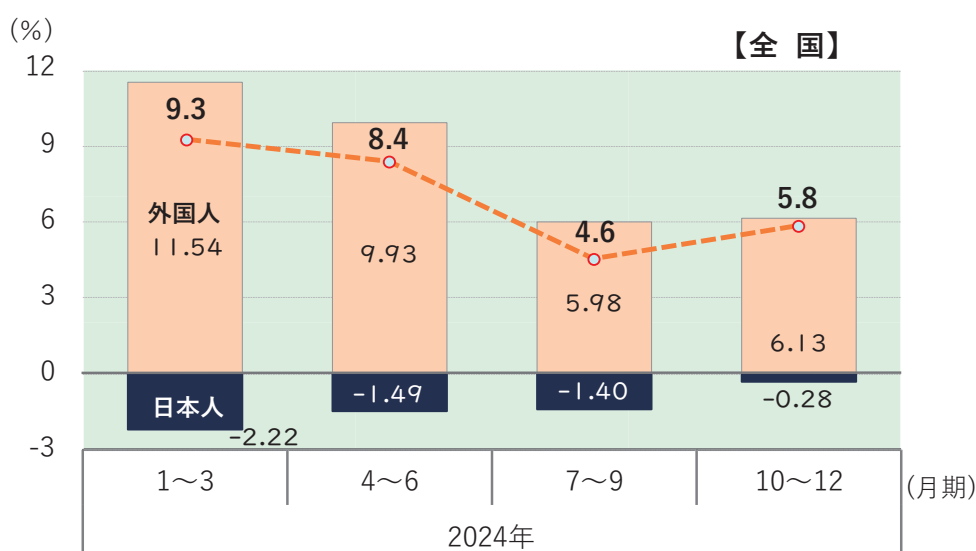
と、2021 年 7～9 月期以降、大阪府を下回る状態が続いていたが、2024 年 10～12 月期に両者の水準は横並びとなった。

図表 2-1-35 の前年同期比の動き（図の破線囲み部分）を日本人と外国人に分け、それぞれの寄与度をみると、全国の日本人は年間を通して寄与度が低調であった。日帰り旅行の伸びが大きかった 1～3 月期、自然災害や猛暑、物価高に伴い旅行意欲が減退した 7～9 月期とマイナス要因が多かったものの、期を追うごとに寄与度は改善した（図表 2-1-36）。なお、観光庁の観光消費動向調査によれば、日本人の 1 人当たり旅行支出（宿泊単価、食費、交通費等）や全体の旅行消費額は増加している。外国人については、1～3 月期は円安の進行により韓国などからの旅行者が増加したこ

ともあり、寄与度は 11.5 ポイントと年間で最も高かった。日本人とは対照的に、4～6 月期以降もプラスで推移したが、為替が円高に進行した 7～9 月期（図表 2-1-31 参照）はやや低下した。

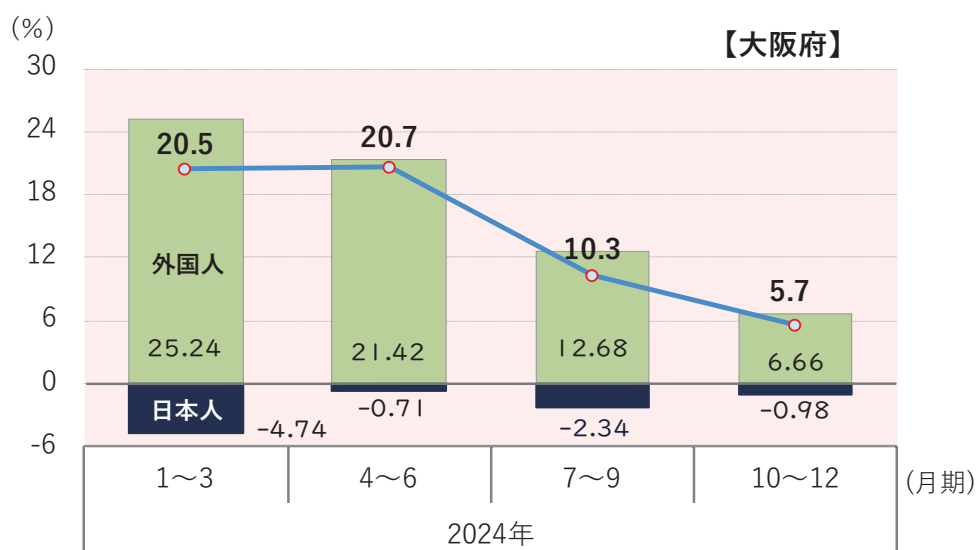
一方、大阪府の推移をみると、全国の動きと同様に動きが鈍かった 1～3 月期の日本人の寄与度は、4～6 月期でやや改善したものの、7～9 月期は先述の南海トラフ地震臨時情報の発表や台風接近に伴う公共交通機関の運休などが影響し、全国よりも大きなマイナス寄与度となった（図表 2-1-37）。一進一退を繰り返しながら、10～12 月期の寄与度は再び改善した。他方、大阪府の外国人については元々その依存度が高く、寄与度も全国に比べて 2 倍超で推移したが、10～12 月期は大きく低下し、両者の差が縮小した。

図表 2-1-36 延べ宿泊者数の前年同期比と寄与度の動き（全国）



資料：国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」  
 （注）従業者数 10 人以上の施設。

図表 2-1-37 延べ宿泊者数の前年同期比と寄与度の動き（大阪府）



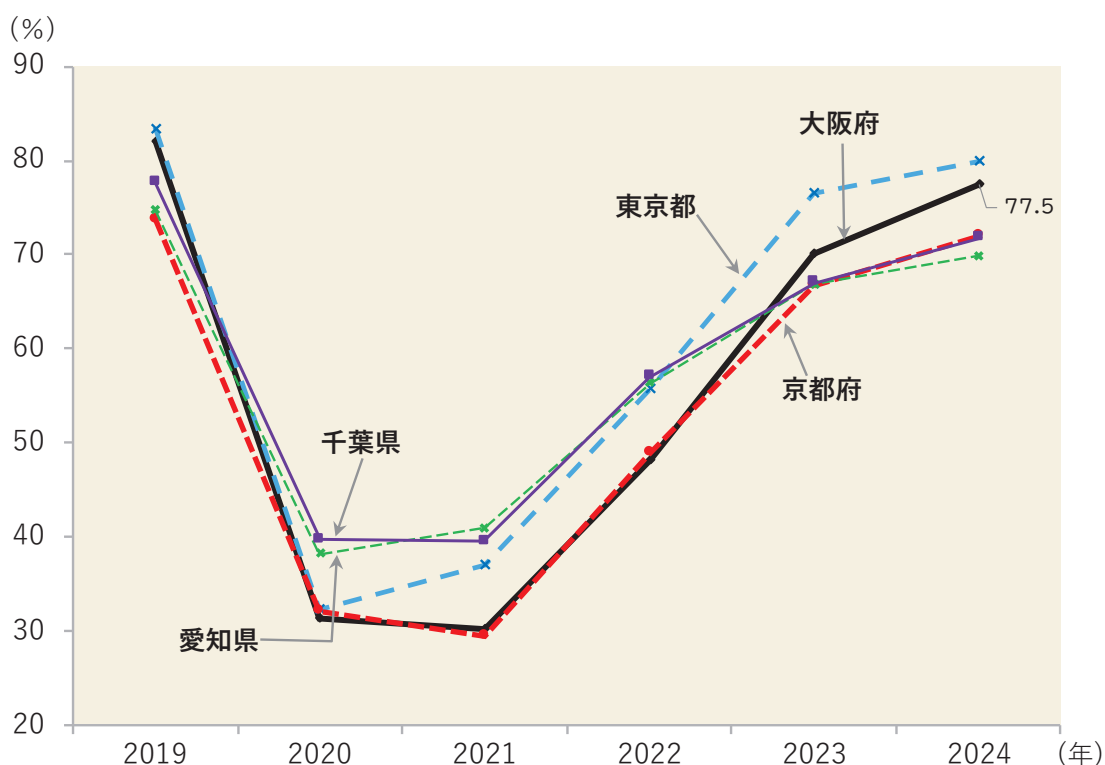
資料：国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」  
 （注）従業者数 10 人以上の施設。

### （大阪の稼働率は着実に改善）

次に、全国の主要な5都府県（東京都、千葉県、愛知県、京都府、大阪府）における、宿泊施設の稼働率を比較すると、千葉県はコロナ禍による外国人旅行者の途絶が解消した2022年には、5都府県でトップの全国13位と急上昇の後、2023年は外国人旅行者の回復も相まって7位、さらに2024年は6位と着実に順位を上げた（図表2-1-38）。愛知県は、千葉県と同じような回復ペースを辿り、2024年は5都府県で最低ではあったものの、全国順位は9位となった。

外国人旅行者の人気の高い京都府は、コロナ禍のあおりを受けて2022年は40位と低迷したが、その収束とともに2023年は11位に上昇、さらに2024年は5位に躍進した。東京都は、上記5都府県の中では愛知県とともに回復が早く、順調に稼働率が上昇した結果、2023年は76.6%、2024年は79.9%と2年連続の全国首位となった。大阪府も回復に転じた2022年は42位と低かったが、2023年は3位、2024年は2位と東京都に迫る勢いである。

図表2-1-38 宿泊施設の客室稼働率（主要5都府県）



資料：国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」

（注）従業者数10人以上の施設

### （ビジネスホテルの客室稼働率は高水準で推移）

大阪府内の宿泊施設（シティホテル、ビジネスホテル、旅館、簡易宿所）の客室稼働率をみると、コロナ禍の感染拡大や収束による影響はほとんどなくなり、安定した改善基調が続いている。

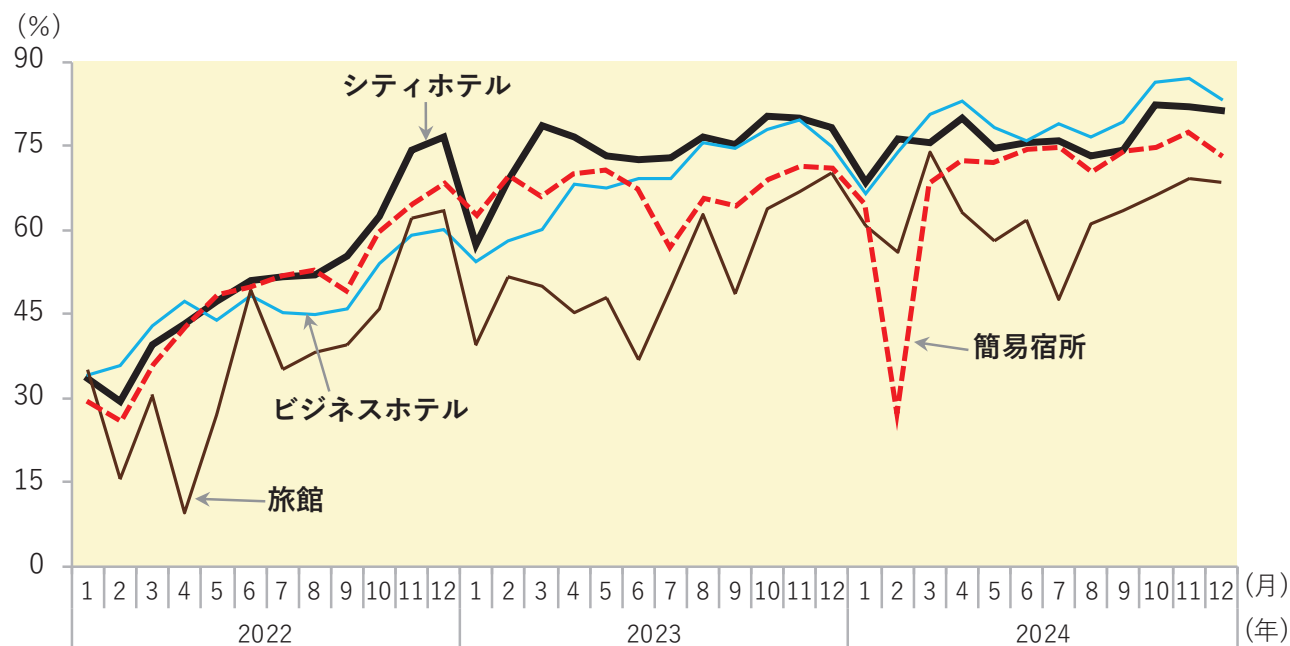
業態別に客室稼働率の動きをみると、旅館や簡易宿所は施設数の少なさもあり、大きく変動しやすい傾向がある。2022年2月以降は概ね簡易宿所が旅館を凌駕しており、その後2023年の前半頃まで簡易宿所はビジネスホテルを上回る勢いであった。2023年の後半以降、簡易宿所は再びシティホテルやビジネスホテルに水を開けられたが、2024年はこれらとの差がやや縮小した。シティホテルやビジネスホテルは、感染状況の変化に伴う上下動はあるものの振れ幅は小さく、ビジネスホ

テルは、2022年5月から長らくシティホテルに凌駕されていたものの、2024年の春以降立場が逆転し、平均で80%超の高稼働率で推移している（図表2-1-39）。

### （大阪府の簡易宿所は半年余り東京都を上回る）

さらに、直近3年間における大阪府と東京都の簡易宿所の客室稼働率をみると、2022年は東京都と大阪府の地位逆転が2度みられたが、概ね東京都が大阪府を上回った（図表2-1-40）。2023年も同様に地位の逆転はみられたが、1年を通して概ね大阪府が上回った。2024年においては、初夏から晩秋頃までは大阪府が東京都を上回った。なお、2022年4月以降、両者は2022～2024年における稼働率の全国平均（41.4%）を上回るまでに改善した。

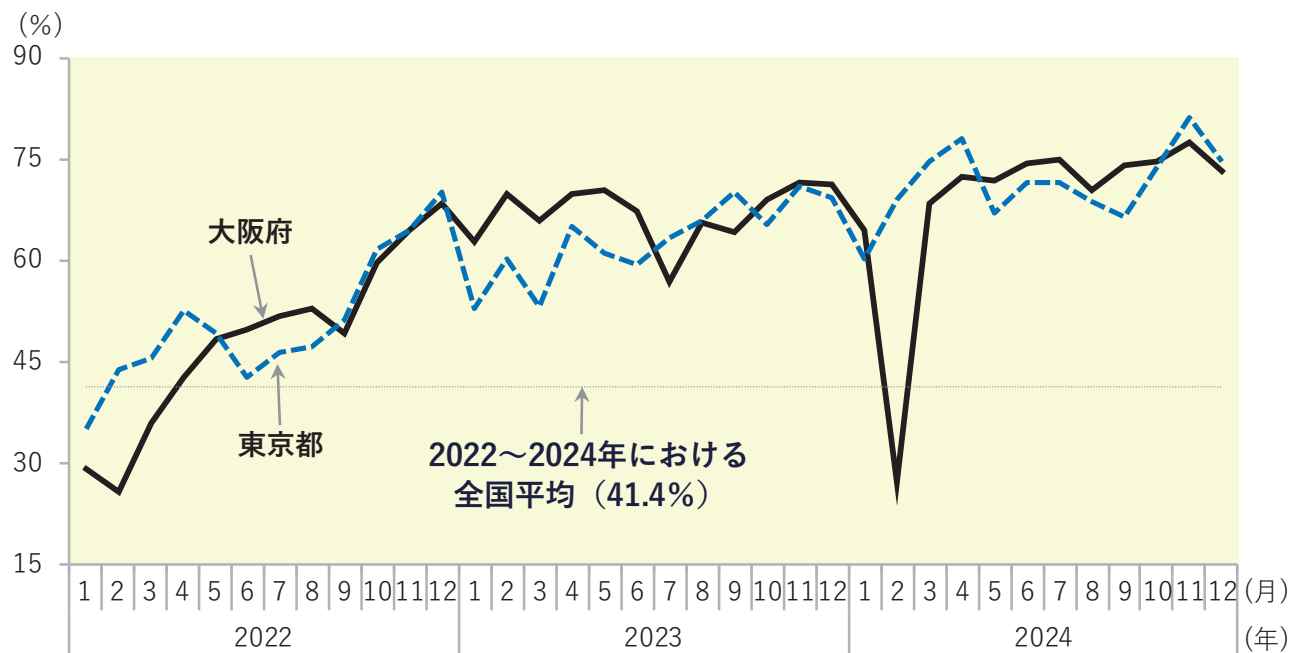
図表 2-1-39 各種宿泊施設の客室稼働率（大阪府）



資料：国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」

（注）従業者数 10 人以上の施設。なお、2024 年は速報値のため、簡易宿所（2 月）のように大きな誤差がみられることがある。

図表 2-1-40 簡易宿所の客室稼働率（大阪府・東京都）



資料：国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」

（注）従業者数 10 人以上の施設。なお、2024 年は速報値のため、2 月のように大きな誤差がみられることがある。

## 第2節 産業活動は、弱含みで推移

### 1. 生産活動は、3年連続の低下

2024年の生産指数は、3年連続で低下した。四半期別では、前年後半からの低下基調が続き、2024年の年間を通じて低下した。在庫循環図の動きでは、意図せざる在庫減局面から在庫調整・在庫減らし局面へと移行した。また、業種別の動きでは、業種によって変動に違いはあるものの、年間を通じて低下した業種が多く見られたほか、化学工業や金属製品工業などの業種の変動が生産指数全体に大きな影響を与えた。

#### (生産活動は、3年連続で低下)

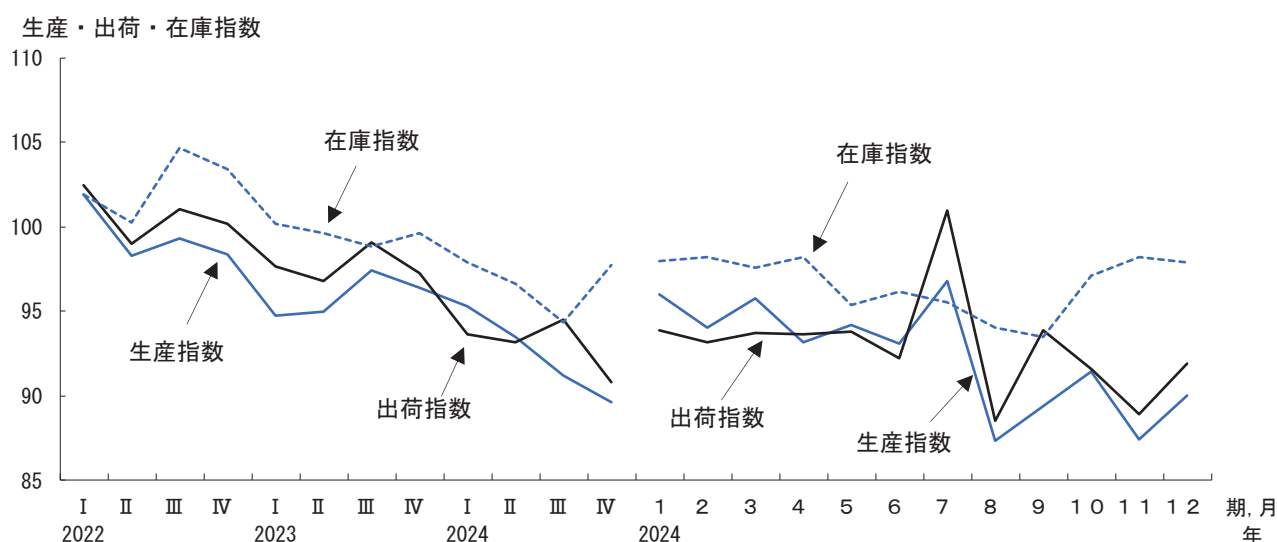
大阪府における2024年の製造工業生産指数(2020年=100)は、年平均92.6(前年比3.5%減)と、3年連続で低下した。四半期別(季節調整済)では、1~3月期95.3(前期比1.2%減)、4~6月期93.5(同1.9%減)、7~9月期91.2(同2.5%減)、10~12月期89.6(同1.7%減)と年間を通じて低下するとともに、2023年10~12月期から5期連続の低下が続いている。月別でみると、1~6月までは小幅な低下傾向で推移していたが、7月に上昇し、その反動もあって8月は大きく低下し、その後は低下基調で推移している(図表2-2-1)。

生産者出荷指数は、年平均93.3(前年比4.5%減)と、3年連続の低下となった。四半期別では、1~3月期は93.6(前期比3.8%減)、4~6月期は93.2(同0.4%減)と3期連続で低下していたが、7~9月期は94.5

(同1.4%増)と増加に転じ、10~12月期には90.8(同3.9%減)と再び低下した。月別では、生産指数と同様、1~6月までは概ね横ばいで推移していたものの、7月に大きく上昇、8月に大きく低下し、その後は変動しながらも低下基調で推移している。

生産者製品在庫指数は、年平均96.7(前年比2.9%減)と、2年連続の低下となった。四半期別の動きでは、1~3月期は97.9(前期比1.7%減)、4~6月期は96.6(同1.4%減)、7~9月期は94.3(同2.3%減)と3期連続で低下していたが、10~12月期は97.7(同3.6%増)と、出荷指数が低下していることもあり、在庫指数は上昇した。月別では、22年後半から在庫指数は低下基調で推移していたが、24年10~12月期には下げ止まって反転上昇しており、今後の動向が注目される。

図表2-2-1 工業指数の推移(大阪府製造工業、季節調整済)



資料：大阪府統計課「大阪府工業指数」

(注) 2020年=100。四半期の在庫指数は平均値を使用。2024年分は年間補正前の数値。

2024年の大阪府内の生産活動をまとめると、生産指数、出荷指数ともに、これまでの低下傾向が続き、2024年においても低下基調で推移した。また、在庫指数でも、これまでの低下基調が継続していたものの、24年10～12月期には在庫指数は上昇しており、下げ止まりから上昇に転じるのか、今後の動きが注目される。

全国の鉱工業生産指数（2020年＝100）は、101.2（前年比2.6%減）と3年連続で低下した。四半期別では、1～3月期は99.0（前期比5.2%減）と大きく低下したものの、4～6月期は101.1（同2.1%増）と上昇し、7～9月期は101.4（同0.3%増）、10～12月期は101.8（同0.4%増）とほぼ横ばいで推移していた。

（在庫循環では、意図せざる在庫減局面から在庫調整・在庫減らし局面へと移行）

大阪府の生産活動を、生産指数と在庫指数の前年同期比から作成される在庫循環図を用いて、全国と比較してみたい（図表2-2-2）。大阪府では、2024年は意図せざる在庫減局面から、在庫調整・在庫減らし局面へと移行しており、2023年の動きとは逆方向の動きとなり、不安定な動きとなっている。全国では、2024年は在庫調整・在庫減らし局面から、意図せざる在庫減局面へと移行した。

このように2024年の在庫循環図では、大阪府は意図せざる在庫減局面から在庫調整・在庫減らし局面へ

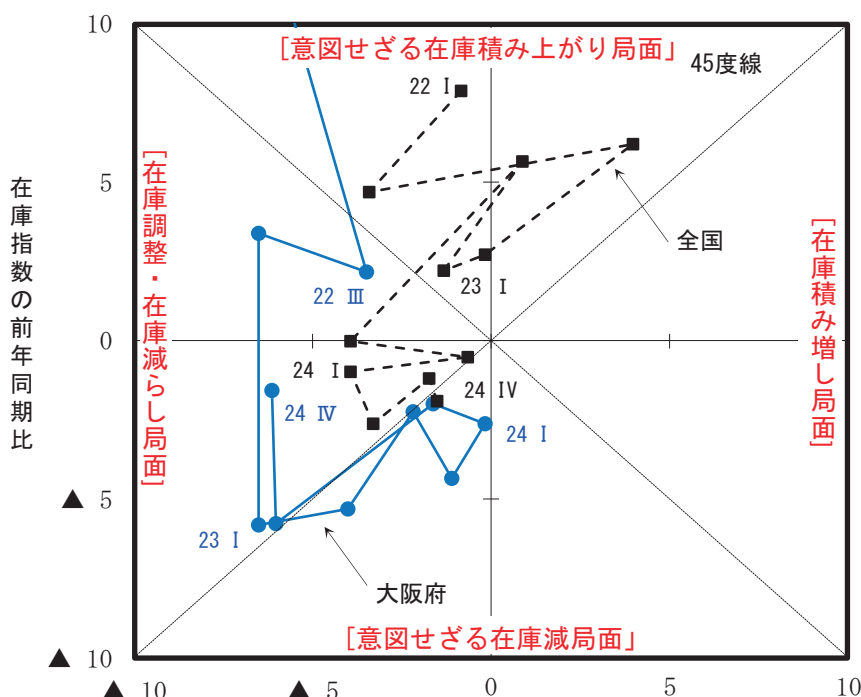
と移行し、全国では在庫調整・在庫減らし局面から意図せざる在庫減局面へと移行した。大阪府・全国ともに、2024年は生産指数・在庫指数ともに低下したものの、生産指数・在庫指数のそれぞれの低下幅はまちまちとなったため、在庫循環図も不安定な動きとなった。

（業種別では、化学工業や金属製品工業などの変動が生産指数全体に大きな影響を与えた）

各業種の推移が、生産指数にどのような影響を与えたかを、寄与度を中心にみていく（図表2-2-3）。四半期別に業種別の寄与度をみると、2024年1～3月期では、電子部品・デバイス工業がプラス寄与となったものの、金属製品工業などでマイナス寄与となったために、全体では前期比マイナスとなった。品目別では、電子部品・デバイス工業ではアクティブ型液晶パネル、金属製品工業では橋りょう、などが大きく変動した。

4～6月期では、前期の反動もあり、金属製品工業がプラス寄与、電子部品・デバイス工業がマイナス寄与となったことや、化学工業において大幅なマイナス寄与となったことにより、全体として前期比マイナスとなった。品目別では、前期に引き続き、金属製品工業では橋りょう、電子部品・デバイス工業ではアクティブ型液晶パネル、化学工業では医薬品や化粧品、などが大きく変動した。

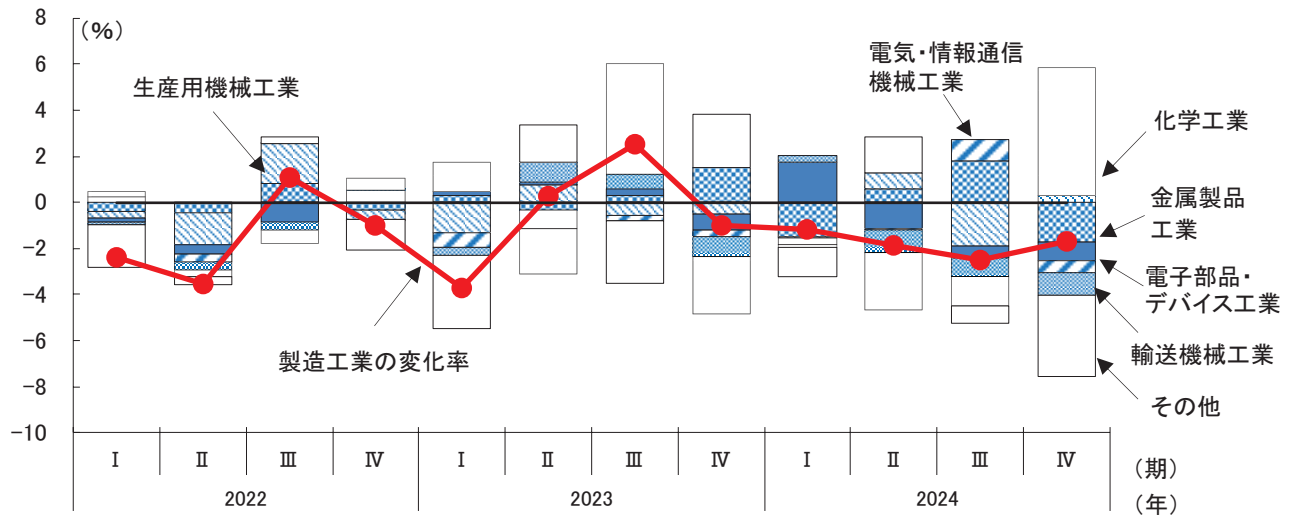
図表2-2-2 在庫循環図（大阪府：製造工業、全国：鉱工業）



資料：大阪府統計課「大阪府工業指数」（2020年＝100）、経済産業省「鉱工業指数」（2020年＝100）

（注）原指数、在庫指数は期末値。大阪府の2024年分は年間補正前の数値。

図表 2-2-3 生産指数の推移と要因分解（四半期、季節調整済前期比）



資料：大阪府統計課「大阪府工業指数」

(注) 2020年＝100。2024年分は年間補正前の数値。

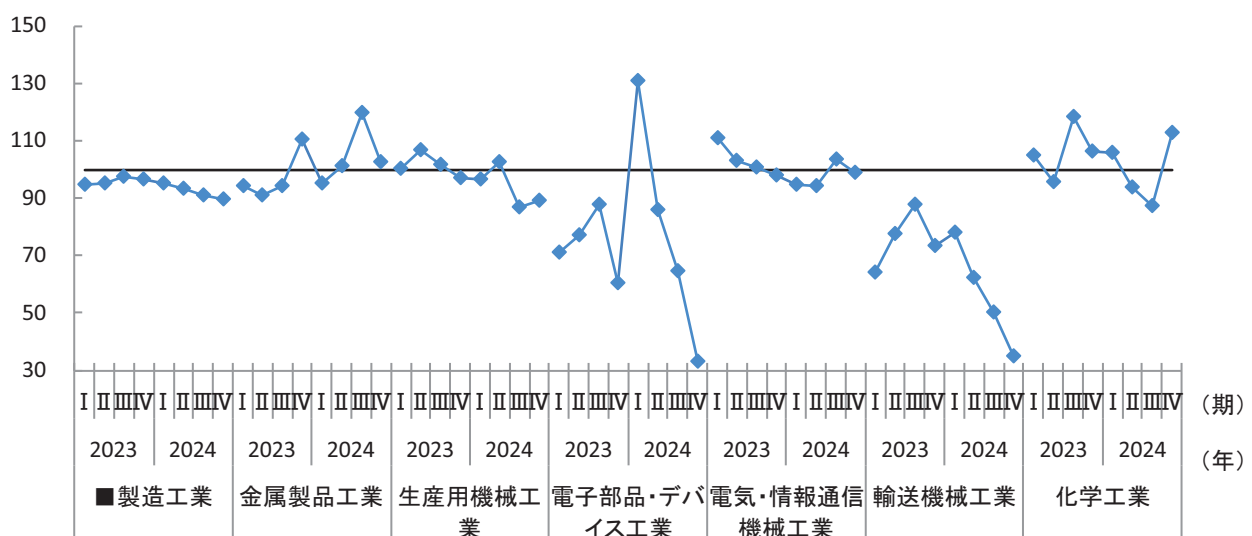
7～9月期では、金属製品工業や電気・情報通信機械工業がプラス寄与となったものの、化学工業が前期に引き続きマイナス寄与となったことや、生産用機械工業などがマイナス寄与となったこともあり、全体では前期比マイナスとなった。品目別では、金属製品工業では橋りょう、電気・情報通信機械工業ではセパレート形エアコン（室外）、生産用機械工業ではショベル系掘削機械、などが大きく変動した。

10～12月期では、これまで2期連続でマイナス寄与となっていた化学工業が大幅なプラス寄与となったものの、金属製品工業や電子部品・デバイス工業、

輸送機械工業など、多くの業種においてマイナス寄与となったことから、全体としてマイナスとなった。品目別では、化学工業では医薬品、金属製品では橋りょう、輸送機械工業では鉄道車両、などが大きく変動した。

以上をまとめると、2024年の生産活動では、プラス寄与した業種とマイナス寄与した業種のそれぞれの業種が見受けられたが、生産指数全体としては低下基調となった。その中でも特に、化学工業や金属製品などの業種が大きく変動した。

図表 2-2-4 生産指数の主要業種別の推移（四半期、季節調整済）



資料：大阪府統計課「大阪府工業指数」

(注) 2020年＝100。2024年分は年間補正前の数値。生産指数におけるウェイトが高い業種を中心に抽出。

(主要業種別の生産動向では、業種によって変動に違いはあるものの、年間を通じて低下した業種が多く見られた)

2024年の業種別の生産指数では、石油・石炭製品工業や金属製品工業など4業種が上昇し、輸送機械工業や生産用機械工業など10業種で低下した。

主要業種別の生産動向を見ていくと(図表 2-2-4)、「金属製品工業」では、橋りょうやボルト・ナット等の変動により、2024年4～6月期から7～9月期までは上昇したものの、その反動もあり10～12月期は低下した。「生産用機械工業」では、ショベル系掘削機械等の変動により、2024年4～6月期は大きく上昇し、その反動もあり7～9月期に低下した。「電子部品・デバイス工業」では、アクティブ型液晶パネル等の変動により、2024年1～3月期は大きく上昇したものの、4～6月期から10～12月期にかけて大きく低下した。「電気・情報通信機械工業」では、セパレート形エアコン(室外)やリチウムイオン蓄電池等の変動により、2024

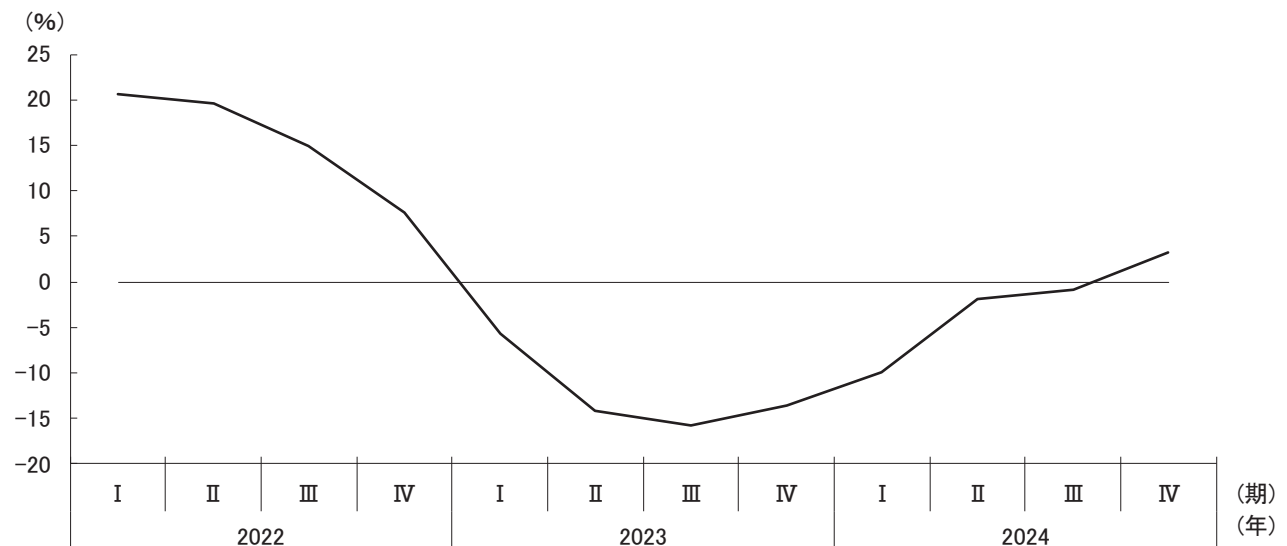
年7～9月期に上昇した。「輸送機械工業」では、鉄道車両部品等の変動により、2024年は年間を通じて低下基調で推移した。「化学工業」では、医薬品や化粧品等の変動により、2024年1～3月期から7～9月期にかけて低下基調で推移したものの、10～12月期は上昇した。

以上をまとめると、主要業種別の生産動向では、業種によって変動に違いはあるものの、年間を通じて低下した業種が多く見られた。

**(製造業の所定外労働時間は24年10～12月期に上昇に転じた)**

生産関連指標の動きについて、大阪府内製造業の所定外労働時間指数(事業所規模30人以上)をみると、2024年は前年比2.6%減と2年連続で低下した。四半期別(前年同期比)にみると、1～3月期は前年同期比9.9%減、4～6月期は同1.9%減、7～9月期は同0.9%減と7期連続で低下していたものの、10～12月期は同3.2%増と上昇に転じた(図表2-2-5)。

図表 2-2-5 所定外労働時間の動き(製造業、前年同期比)



資料：大阪府統計課「毎月勤労統計地方調査」

(注) 所定外労働時間指数は2020年=100、事業所規模30人以上分。

## 2. 有効求人倍率は、年後半に下降基調が底打ち

2024 年の大阪府の完全失業率は期ごとに一進一退を繰り返し、有効求人倍率は、概ね下降傾向で推移した結果、2023 年よりも全国との差が拡大した。また新規求人数は、1 年を通して前年同期比がマイナスとなったが、年後半はマイナス幅が縮小した。

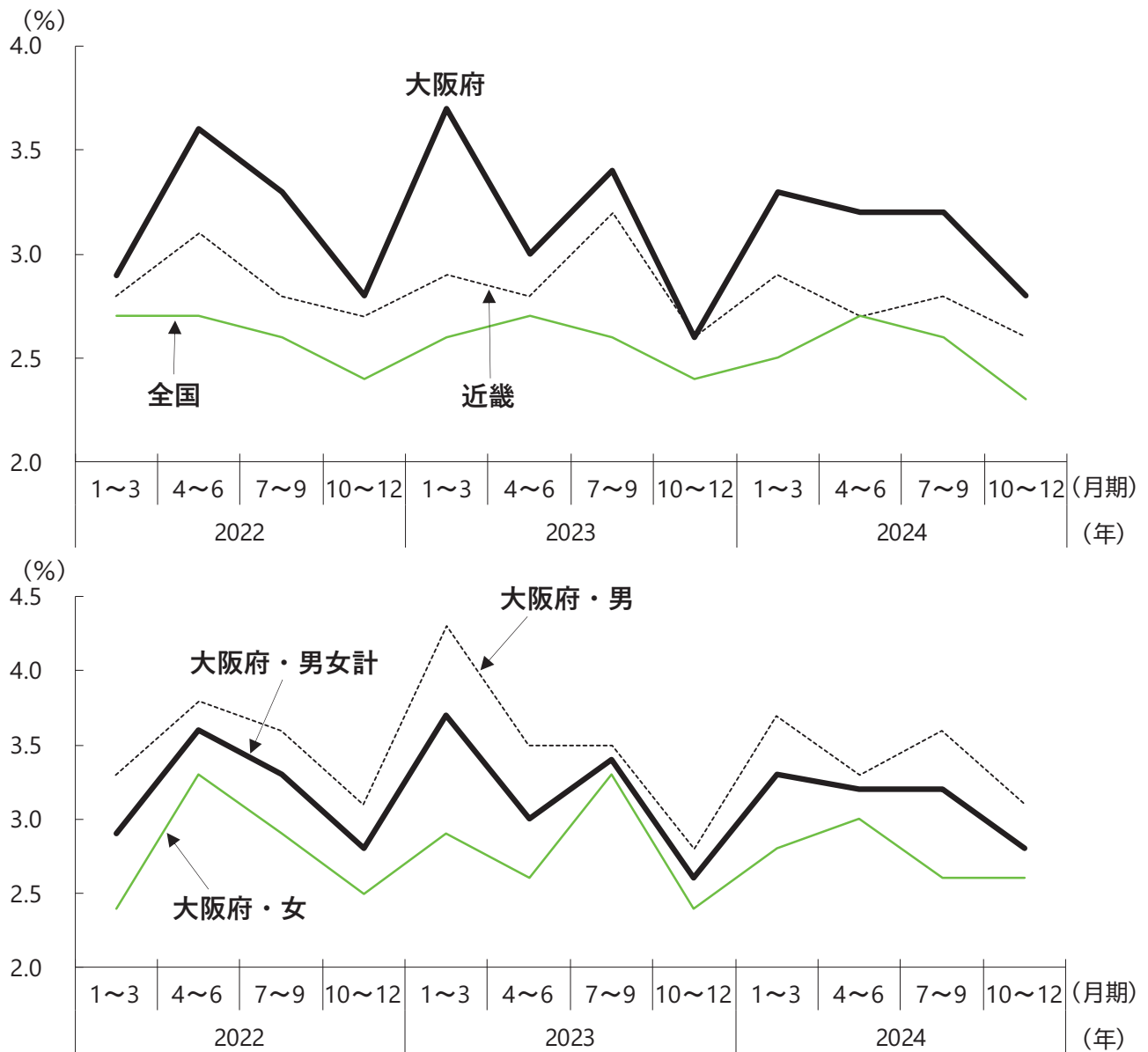
### (完全失業率は一進一退の動き)

2024 年平均の大阪府の完全失業率は、前年よりも 0.1 ポイント低下 (改善) して 3.1% となった。

四半期別にみると、2024 年 1～3 月期、7～9 月期には前年同期を下回ったが、4～6 月期、10～12 月期には前年同期をいずれも 0.2 ポイント上回るなど、一進一

退の動きとなった (図表 2-2-6 上図)。男女別でみると、男性の失業率は 1～3 月期に年の最高値となる 3.7% となった後、改善と悪化を繰り返し 10～12 月期には 3.1% まで改善した。女性の失業率については、4～6 月期に年の最高値となる 3.0% と悪化したが、年の後半は 2.6% に落ち着いた (図表 2-2-6 下図)。

図表 2-2-6 完全失業率の推移



資料：総務省統計局「労働力調査」

(注) 原数値。大阪府は、モデル推計値。

（有効求人倍率は全国との差が拡大）

全国の有効求人倍率は2022年10～12月期、大阪府では2023年4～6月期を境に下降基調であったが、2024年末は上昇に転じた（季節調整値）。

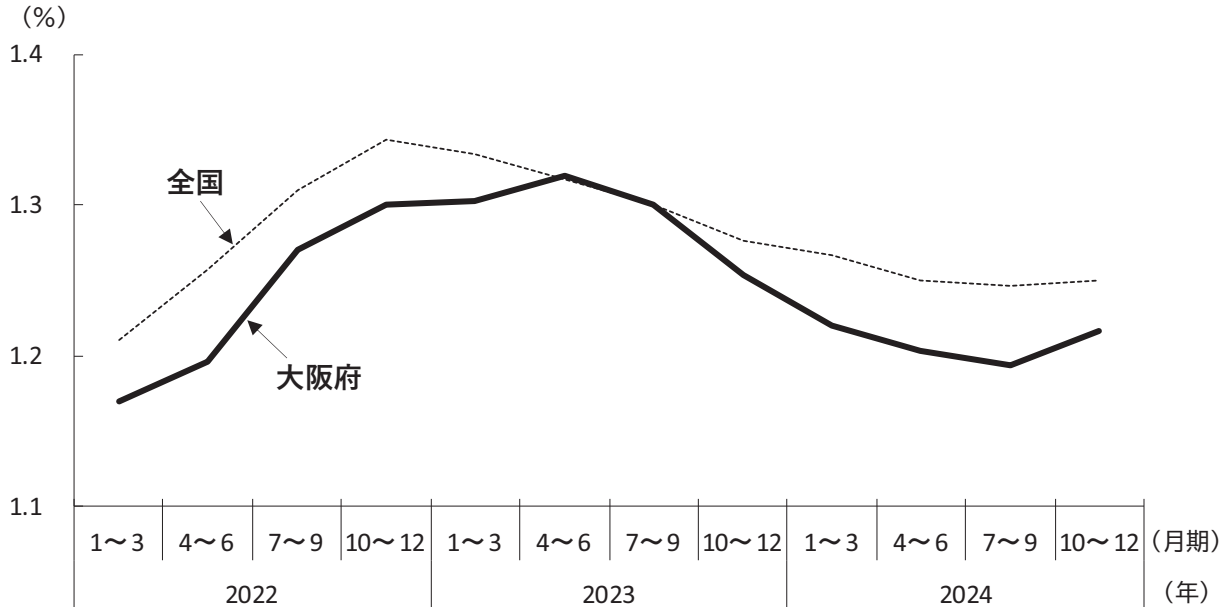
2024年の大阪府の有効求人倍率（新規学卒者を除き、パートタイムを含む。）は、1.21倍（実数）と、2023年に比べ0.1ポイント低下した。

ただし四半期別（季節調整値）では、全国を下回っていた大阪府は、2023年4～6月期と7～9月期には全国と同値になったものの、再び全

国を下回り、2024年はその差が拡大している（図表2-2-7）。

有効求人数は2013年10～12月期以降、常に有効求職者数を上回って推移しているが、2020年7～9月期以降、一貫して増加基調にあった有効求人数が2023年4～6月期をピークに減少に転じた。その結果、有効求人数と有効求職者数の差も2023年4～6月期の約5万1千4百人から2024年7～9月期の約3万1千8百人に縮小した（図表2-2-8）。

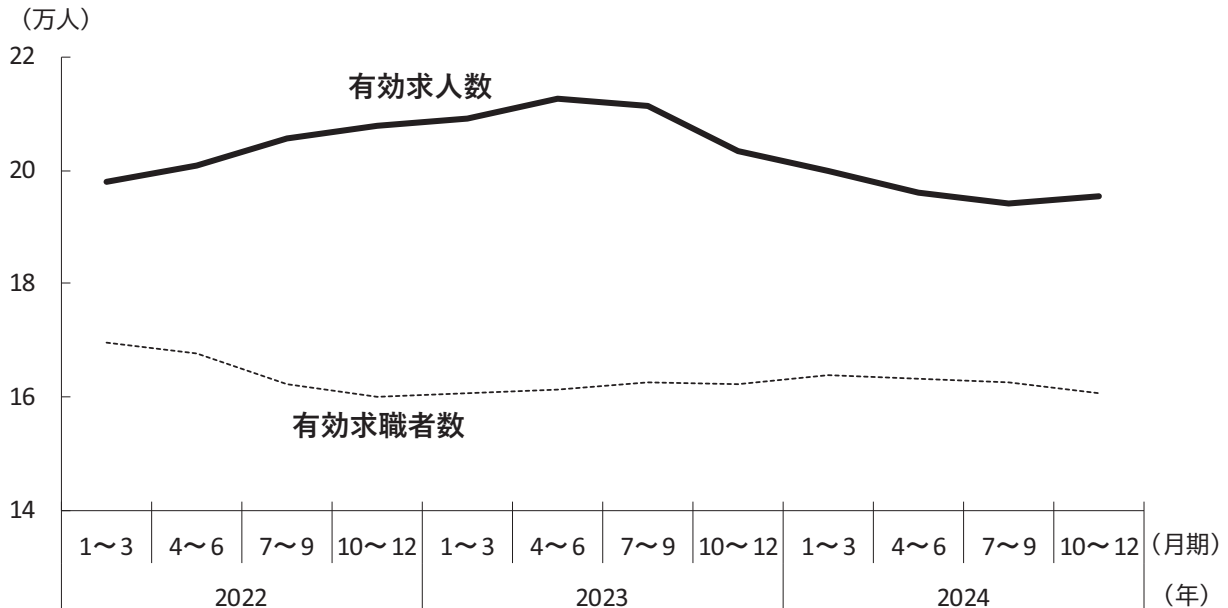
図表 2-2-7 有効求人倍率の推移



資料：厚生労働省「職業安定業務統計」

（注）四半期の数値は各月の平均で、パートタイムを含む季節調整値。

図表 2-2-8 大阪府の有効求人（求職者）数の推移



資料：厚生労働省「職業安定業務統計」

（注）四半期の数値は各月の平均で、パートタイムを含む季節調整値。

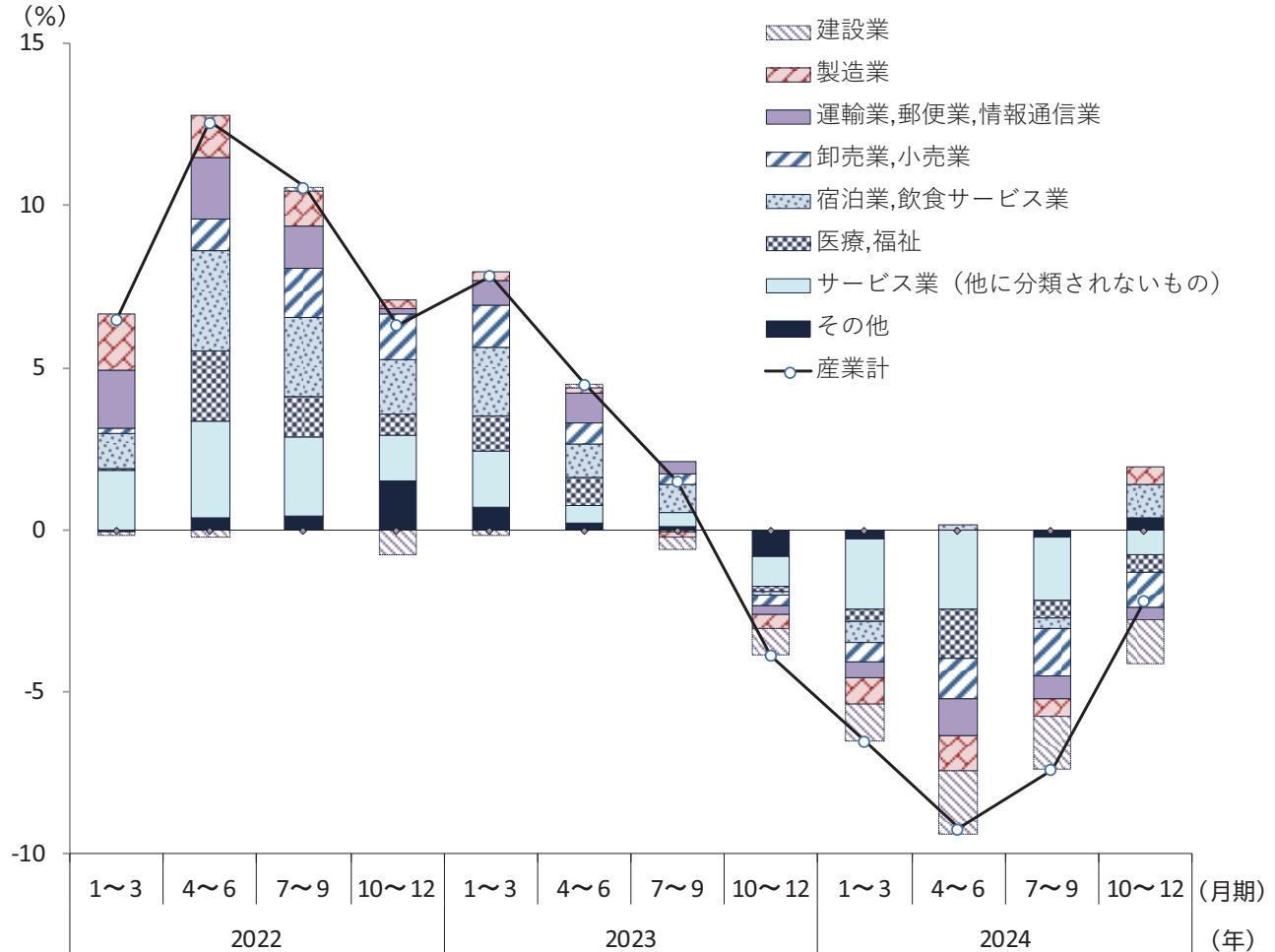
（新規求人数は、通年で前年同期比がマイナス）

大阪府の新規求人数は、2023 年 10～12 月期に  
対前年同期比がマイナスに転じて以降、2024 年も  
年間を通してマイナスで推移した。

産業別寄与度は、1～3 月期にはサービス業が、

4～6 月期から 7～9 月期にかけてはサービス業や  
建設業などが大きくマイナスに寄与したが、10～  
12 月期には宿泊業、飲食サービス業や製造業など  
で寄与度が改善した（図表 2-2-9）。

図表 2-2-9 大阪府の新規求人数の対前年同期比と産業別寄与度



資料：大阪労働局「職業安定業務統計」

（注）四半期の数値は各月の合計値。パートタイム関係取扱数を含む。新規学卒者を除く。原数値で計算。

### 3. 消費者物価は上昇、国内企業物価も上昇

2024 年の消費者物価は上昇が続いた。月別では、年末にかけて上昇率が上がっていった（前年比が上昇した）。前年に引き続き、輸入物価は落ち着きをみせているが、賃金上昇等により、継続してC P Iに上昇圧力がかかっている。国内企業物価も上昇した。月別では、プラス幅は拡大していったが、12 月には落ち着きをみせた。上昇要因として、賃金の上昇が続くもとで、人件費や物流費等の上昇を販売価格に反映する動きも広がってきていることが指摘されている。輸出物価と輸入物価も上昇したが、円高の進行を主な要因として、8 月には鈍化した。

#### （消費者物価は引き続き上昇）

大阪市の消費者物価指数（C P I）を、生鮮食品を除く総合（コアC P I、2020 年＝100）でみると、2024 年の平均は 107.7 で、前年比で 2.6%と、前年に引き続き大幅に上昇した。全国の生鮮食品を除く総合（コアC P I、2020 年＝100）は 107.9 で、前年比 2.5%の大幅上昇となった（図表 2-2-10）。

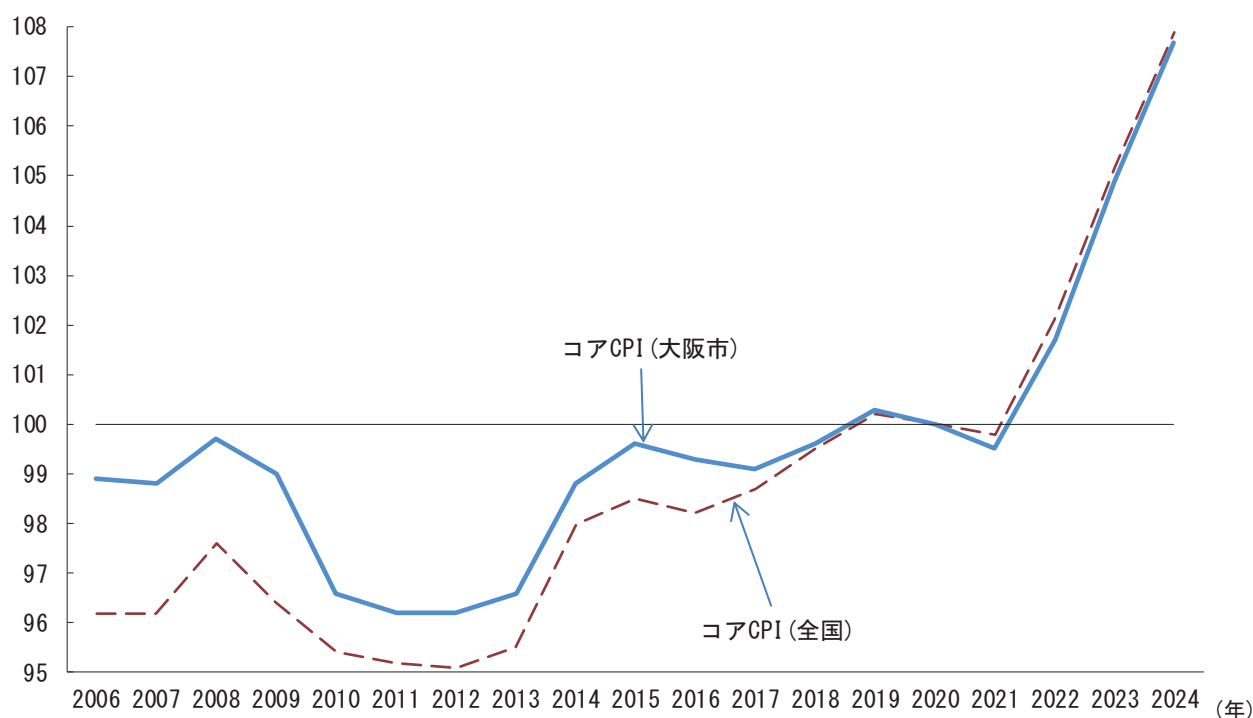
月別に前年同月比をみると（図表 2-2-11）、大阪市のコアC P Iは、2024 年の年間を通してプラスで推移し、年末にかけて上昇率は上がっていった（前年同月比は上昇した）。全国についても、年間を通してプラスで推移した。また、大阪市の食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合（コアコアC P I）についても、年間を通してプラスで推移した。

2024 年 7 月に公表された日本銀行「経済・物価情勢の展望」によると、「既往の輸入物価上昇を起点とする価格転嫁の影響は減衰してきているものの、賃金上昇

等を受けたサービス価格の緩やかな上昇が続く」という見解が示された（日本銀行「経済・物価情勢の展望」

【基本的見解】2024 年 7 月、2 頁）。前年に引き続き、輸入物価の落ち着きが指摘されているが、賃金上昇等により、継続してC P Iに上昇圧力がかかっている。また、2025 年 1 月に発表された基本的見解では、賃金上昇等を受けたサービス価格の緩やかな上昇が続く要因に加えて、「政府によるエネルギー負担緩和策の縮小」も物価上昇要因として指摘されている（日本銀行「経済・物価情勢の展望」【基本的見解】2025 年 1 月、2 頁）。さらに、「人手不足感が高まるもと、マクロ的な需給ギャップの改善に加え、賃金と物価の好循環が引き続き強まり」、中長期的なC P Iの上昇率は徐々に高まっていくことが予想されるという見通しを示している（同、3 頁）。

図表 2-2-10 消費者物価指数の推移（年平均、原数値）

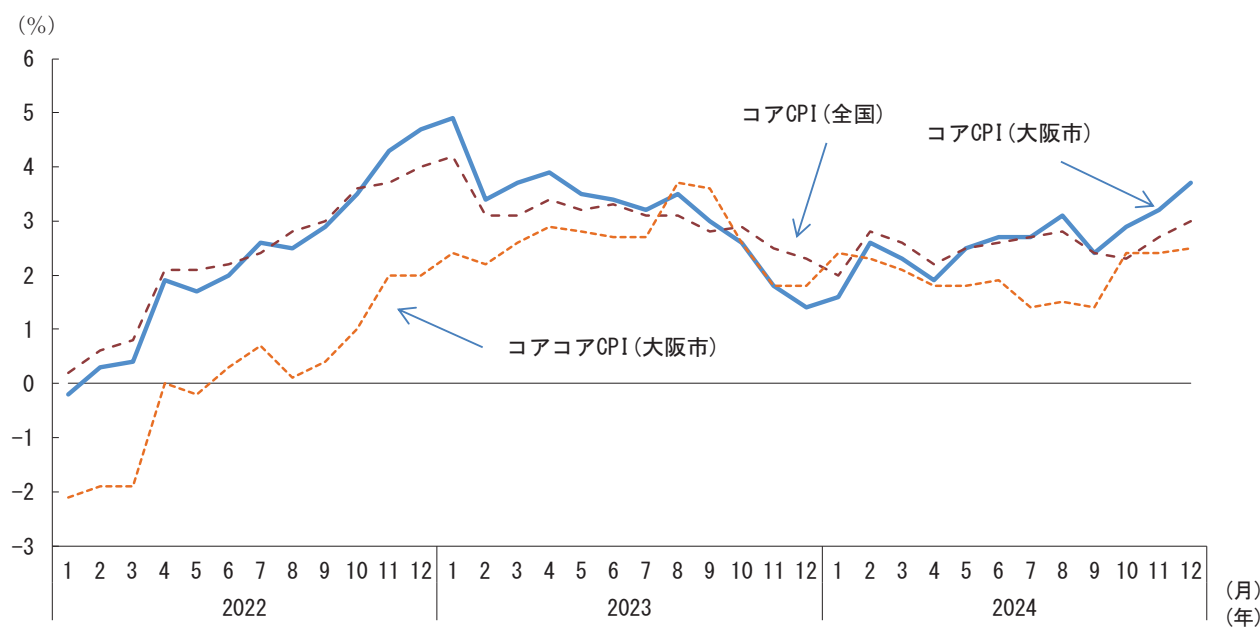


資料：総務省「消費者物価指数」。

(注) 1. 2020年=100。

2. コアCPIとは、「総合」から「生鮮食品」を除く総合指数のこと。

図表 2-2-11 消費者物価指数の推移（前年同月比）



資料：総務省「消費者物価指数」。

(注) 1. 2020年=100。

2. コアCPIとは、「総合」から「生鮮食品」を除く総合指数のこと。

3. コアコアCPIとは、「総合」から「食料（酒類を除く）及びエネルギー」を除く総合指数のこと。

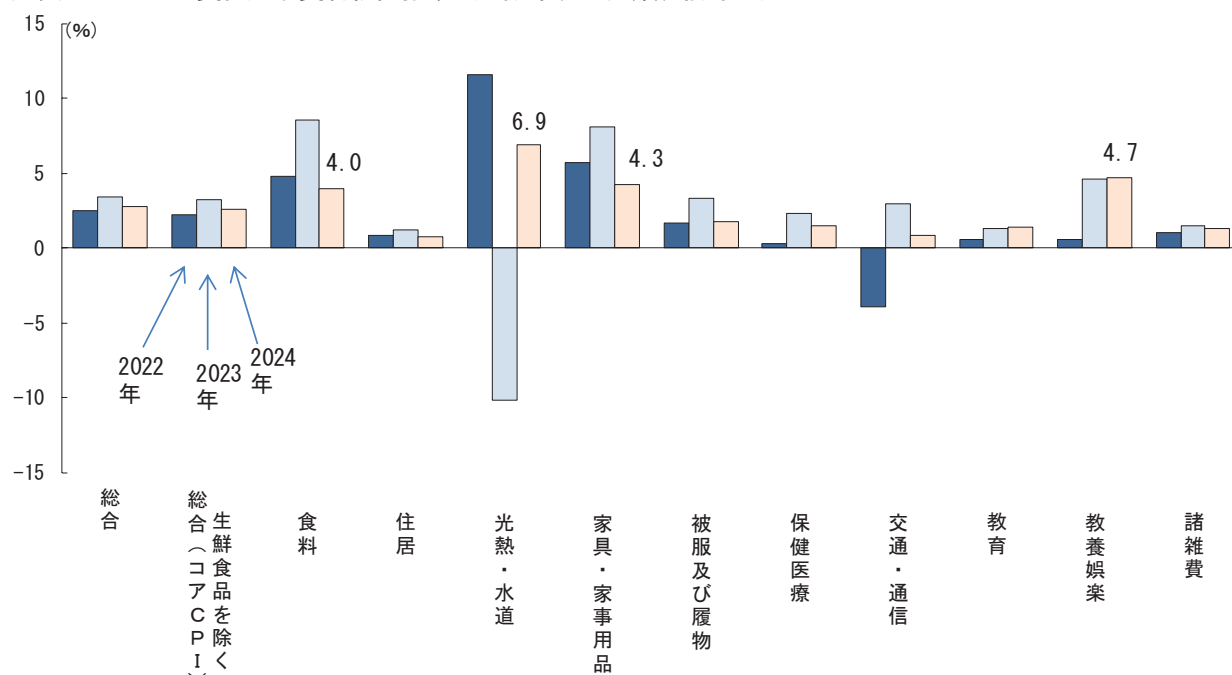
大阪市消費者物価の費目別の動きを、年平均の前年比でみていく。大分類をみると、主に上昇したのは、光熱・水道（+6.9%）、教養娯楽（+4.7%）、家具・家事用品（+4.3%）、食料（+4.0%）などである（図表 2-2-12）。

大分類の食料の中で、主に上昇した費目を中分類でみると、果物（+8.8%）、穀類（+8.2%）、野菜・海藻（同）である（図表 2-2-13）。これらは前年に引き続き、世界的な食料価格の高騰を背景としている。大分類、家事家具・家事用品の中では、食器類や台所

用品などの家事雑貨（+7.3%）、ティッシュ・トイレットペーパーなどの家事用消耗品（+4.8%）、照明器具などの室内装備品（+4.7%）などが大幅に上昇した。大分類、教養娯楽をみると、宿泊料やパック旅行費などの教養娯楽サービス（+5.4%）などの上昇が目立つ。

前年比の寄与度でみると（大阪府「消費者物価指数 2024 年平均資料」）、中分類では、食料が+1.25 ポイントと最も高く、続いて光熱・水道が+0.48 ポイントと、物価を引き上げている。

図表 2-2-12 費目別消費者物価指数（大阪市、大分類、前年比）

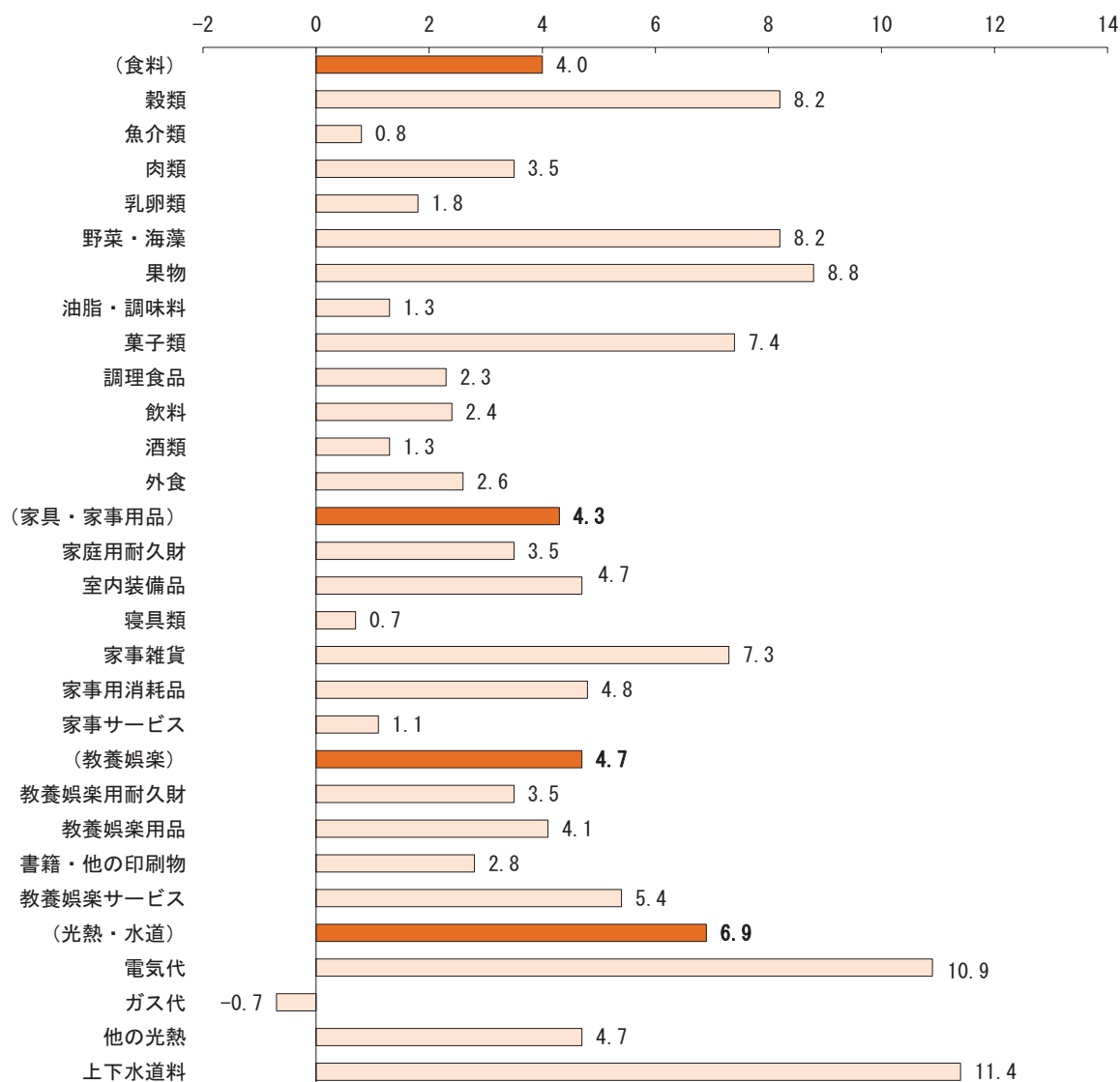


資料：大阪府「大阪市 10 大費目（年平均）」「大阪市年平均指数・前年比（中分類）」。

（注）2020 年=100。

図表 2-2-13 2024 年に主に上昇した費目の消費者物価指数（大阪市、中分類、前年比）

(%)



資料：大阪府「大阪市消費者物価指数 2023 年平均資料」。

(注) 2020 年=100。

### (国内企業物価は上昇)

2024 年の全国の国内企業物価指数（C G P I、2020 年=100）は年平均で 122.6 であり、前年比 +2.3%と、前年に続いて上昇した。類別では、非鉄金属が +12.2%と、ふた桁台の上昇となり、他にも、農林水産物（+9.8%）、窯業・土石製品（+5.6%）、その他工業製品（+4.3%）、繊維製品（+4.2%）などで上昇した。一方、低下したのは、電力・都市ガス・水道（-5.1%）、木材・木製品（-4.0%）などである（図表 2-2-14）。

月別に C G P I を前年同月比でみると、前年に引き続き年間を通じてプラスで推移したが、1 月から 11 月にかけて徐々にプラス幅は拡大し、1 月は +0.2%のところ、12 月には +3.9%となった（図表 2-2-15）。

日本銀行の「経済・物価情勢の展望」の基本的見解によれば、「賃金の上昇が続くもとで、人件費や物流費等の上昇を販売価格に反映する動きも広がってきている」としている（日本銀行「経済・物価情勢の展望」【基本的見解】、2025 年 1 月、4 頁）。また、日刊工業新聞 WEB 版、2025 年 3 月 17 日によれば、2024 年の C G P I に関して、「原材料費や人件費の上昇を受けて価格転嫁の動きが相次いだ」と、上昇要因を指摘している。

2024 年の輸出物価（円ベース）は年平均で前年比 +6.5%と上昇した。前年に引き続き上昇傾向にある。図表 2-2-15 で月別推移をみると、2023 末にかけての上昇傾向が 2024 年 7 月まで続いたが、8 月以降は落ち着きをみせている。類別では、繊維品（+9.1%）、金属・同製品（+8.2%）な

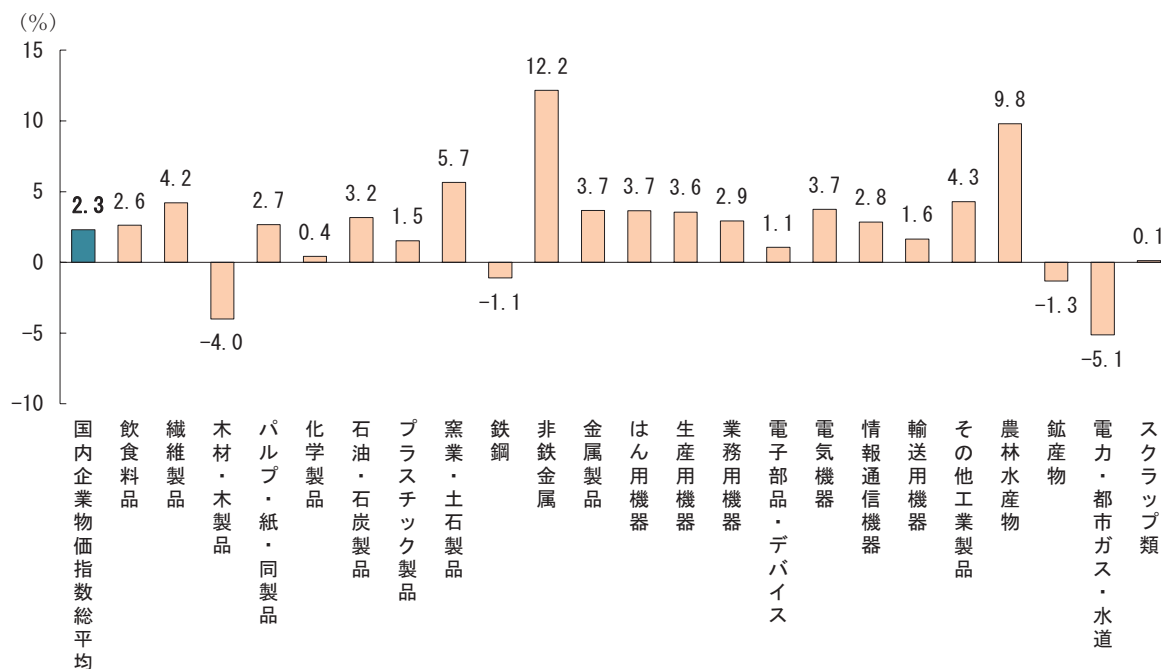
どが目立った。

輸入物価（円ベース）は、年平均で前年比＋2.8%と、こちらも上昇した。図表2-2-15で月別推移をみると、輸出物価と同様に、2023年後半にかけて上昇傾向にあったところ、7月にピークをつけたが（＋10.7%）、年末にかけて上昇幅は縮小し、9月から11月にかけてはマイナスであ

った。類別では、金属・同製品（＋8.9%）、はん用・生産用・業務用機器（＋8.3%）などの上昇が目立った。一方、石油・石炭・天然ガスはマイナス（－2.8%）であった。

こうした輸出・輸入物価の2024年8月における鈍化は、円高の進行が主要因である（日本経済新聞WEB版、2024年9月12日）。

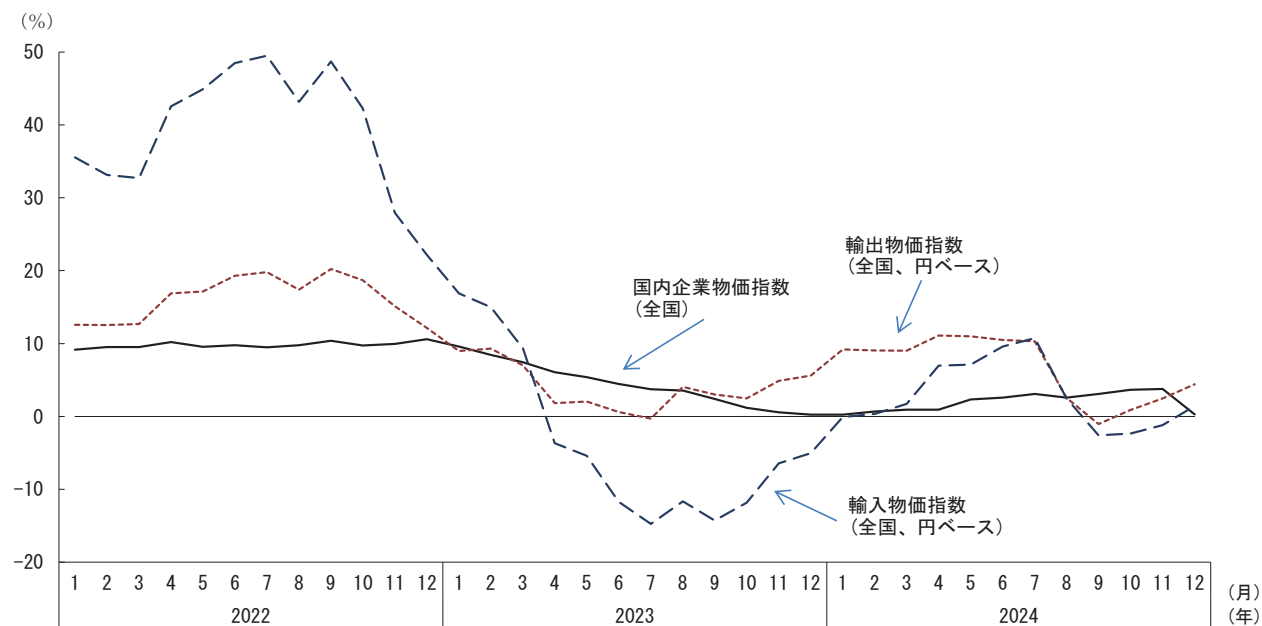
図表2-2-14 企業物価指数の類別前年比（2024年）



資料：日本銀行「企業物価指数」。

（注）2020年＝100。

図表 2-2-15 物価指数の推移（前年同月比）



資料：日本銀行「企業物価指数」。

(注) 2020年=100。

#### 4. 大阪の企業倒産は件数、負債総額とも増加

2024年の全国における企業倒産件数は、3年連続で増加し11年ぶりに1万件を超え、負債総額は減少したものの3年連続で2兆円台となった。大阪府における企業倒産は、不況型倒産を中心に件数、負債総額とも前年を上回り、負債額10億円以上の大型倒産件数は前年を上回る24件となった。

##### （大阪の企業倒産は件数、負債総額とも増加）

2024年の大阪府の企業倒産件数は、前年比26.1%増の1,362件、負債総額は同87.9%増の1,969億円と、前年を大きく上回った（図表2-2-16）。

同年の全国の倒産件数は10,006件で、同15.1%増と3年連続で増加し、11年ぶりに1万件を超えた。また負債総額は同2.5%減の2兆3,435億円と、減少したものの3年連続で2兆円台となった。

##### （幅広い業種で倒産件数が増加）

大阪府の企業倒産件数を業種別でみると、卸売業を除く、幅広い業種で前年を上回った。特にサービス業は同38.1%と大幅に増加し、大阪府の企業倒産件数の4割近くを占めた。

##### （不況型倒産割合が全体の約9割）

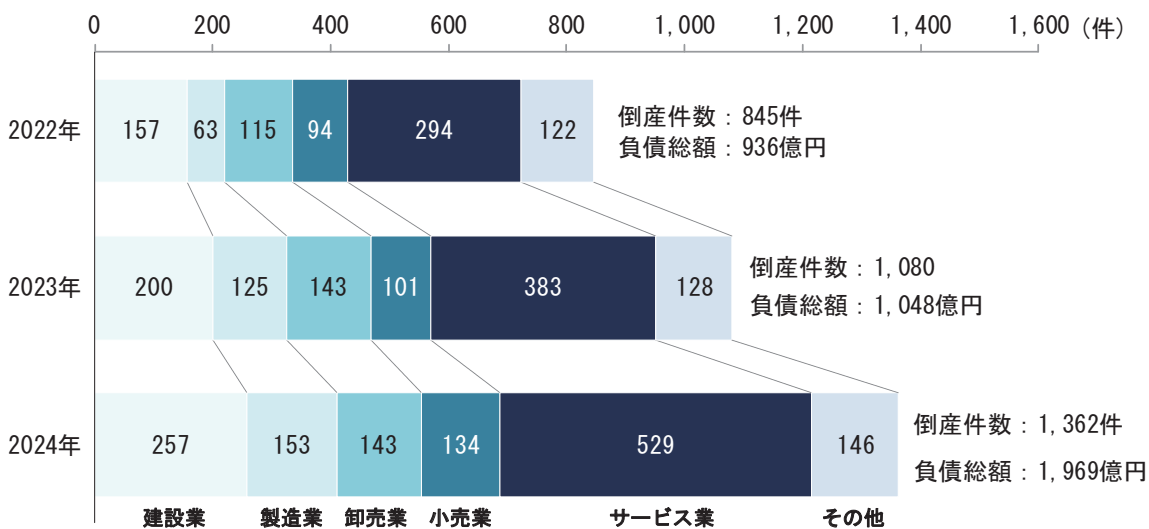
倒産の原因別に2024年の大阪の企業倒産件数をみると、不況型倒産（販売不振、赤字累積、売掛金回収難）の件数は前年から269件増加して1,218件となり、倒産件数全体の約9割を占めた（図表2-2-17）。不況型倒産の内訳をみると、そのほとんどを占める「販売不振」が前年から239件増加して1,131件となり、「赤字累積」、「売掛金回収難」もともに前年を上回った。他の倒産原因については、「放漫経営」は12件減

少して26件となったが、「連鎖倒産」は30件増加して71件となった。

2024年の企業倒産は全国的に増加基調にあった。その背景には、コロナ禍などの影響から過剰債務を抱えた企業が多いなか、円安や物価高騰、賃上げなどのコストアップ要因により収益が悪化する企業が増えたことが考えられる。東京商工リサーチによると、「物価高」倒産は、前年比で8.0%増加しており、また資金繰りに窮する企業などによる「税金滞納」倒産も前年比91.3%と増加している。一方で、「新型コロナウイルス」関連倒産は前年比10.7%減と、2020年にゼロゼロ融資が始まって以来、初めて前年を下回った。しかし背景には、「コロナ借換保証」などの支援策を活用する企業が一定数存在していることもあり、コロナ関連の倒産がピークアウトしたとみるには早計とのみかたもある。

なお、2024年の負債額100億円以上の大型倒産は、全国は12件で、前年よりも6件減少したが、前年は0件であった大阪府では1件発生している。また負債額10億円以上の倒産件数は、全国は222件と、前年に比べて11件増加し、大阪府は24件と、前年に比べ5件増加した（図表2-2-19）。

図表2-2-16 業種別企業倒産件数の推移（大阪府）

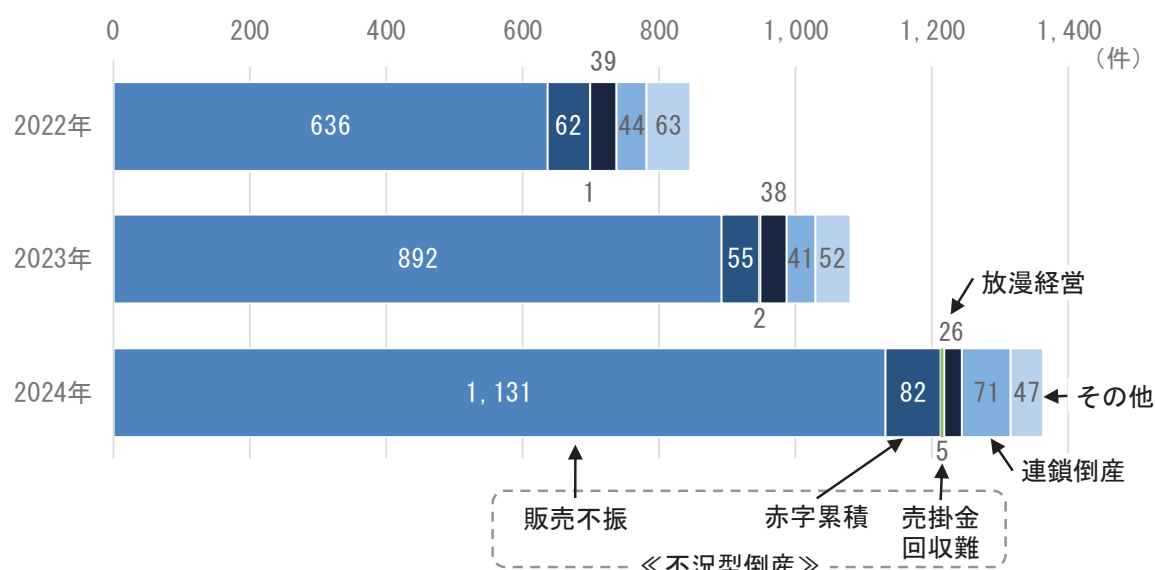


資料：㈱東京商工リサーチ調べ。

（注）1. 負債総額1,000万円以上分。

2. 「その他」には、「農・林・漁・鉱業」「金融、保険業」「不動産業」「運輸業」「情報通信業」を含む。

図表 2-2-17 原因別企業倒産件数の推移（大阪府）

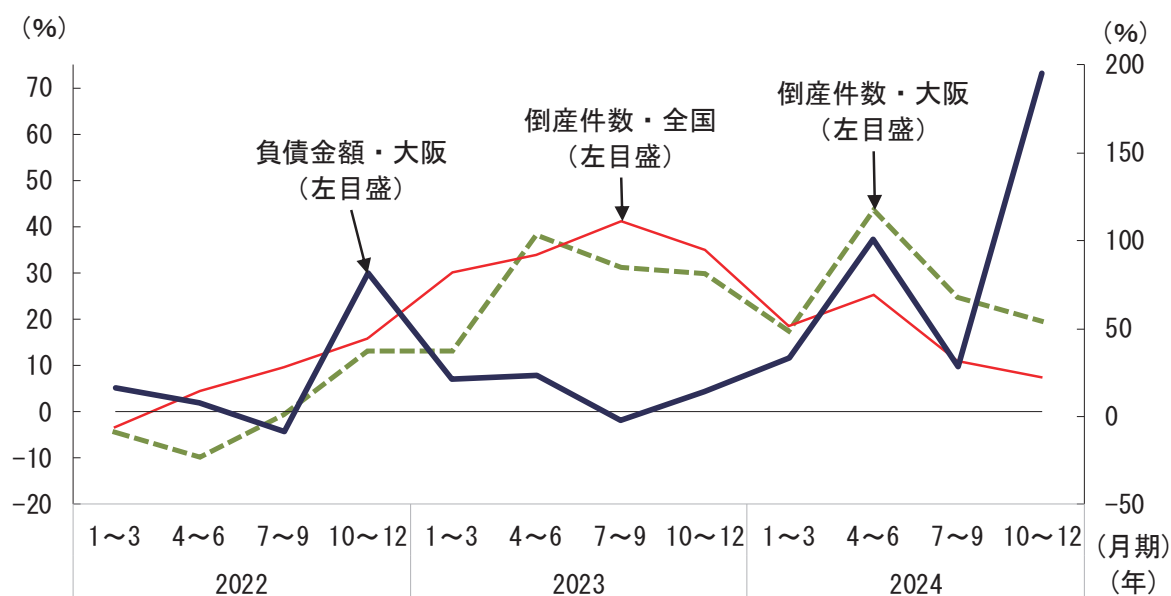


資料：㈱東京商工リサーチ調べ。

(注) 1. 負債総額1,000万円以上分。

2. 「その他」には、「過小資本」「信用性低下」「在庫状態悪化」「設備投資過大」「偶発的原因」を含む。

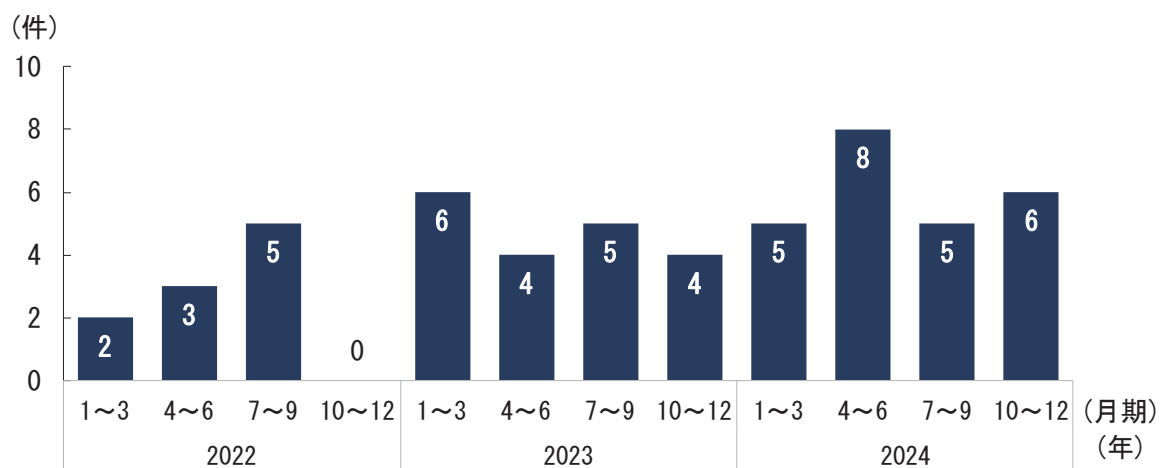
図表 2-2-18 企業倒産件数と負債金額の推移（前年同期比）



資料：㈱東京商工リサーチ調べ。

(注) 負債総額1,000万円以上分。

図表 2-2-19 大型倒産（負債額 10 億円以上、大阪府）件数の推移



資料：㈱東京商工リサーチ調べ。

## 第3章 2024年の企業動向

### 第1節 企業の業況は弱含み傾向に

#### 1. 企業の業況は、概ね弱含みで推移

大阪府内企業の業況判断は、2023 年前半の堅調さから後半の失速に転じた流れを受けて、2024 年も概ね弱含みで推移した。業種別では前年と同じように、ほとんどすべての期で製造業が非製造業を上回り、前年に比べるとその差が拡大し、非製造業においては年間を通して弱含みの動きを示したことから、全体の業況を下押しした。

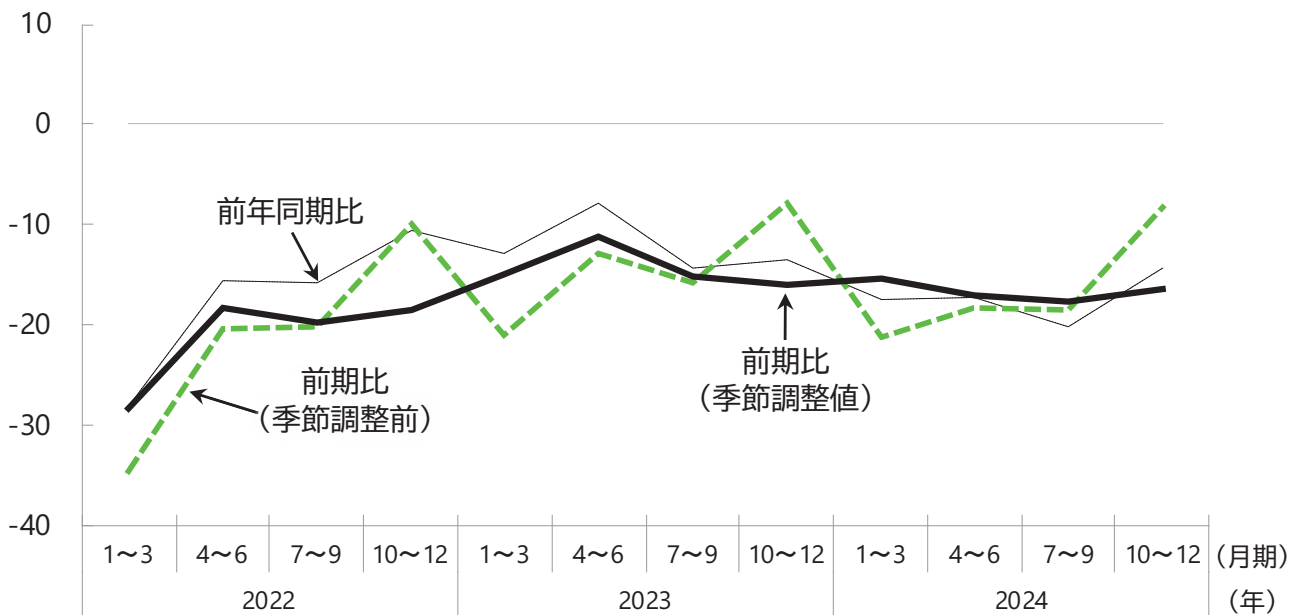
##### (業況は年間を通して弱含み)

大阪府内企業の業況判断D I（「上昇」－「下降」企業割合；前期比、季節調整値）をみると、2022 年は前半に上下動がみられた後、概ね緩やかな改善基調となった。2023 年は前半が堅調に推移したものの、後半はやや失速に転じ、その流れを受けて、2024 年は1 年を通して横ばいで推移した（図表 3-1-1）。

2024 年 1～3 月期は、前期（2023 年 10～12 月期）と比べて 0.8 ポイント上昇した。4～6 月期は、歴史的

な円安水準による原材料価格の高止まりなどもあり、前期と比べて 1.7 ポイント低下した。7～9 月期は、南海トラフ地震臨時情報の発表や台風接近に伴う豪雨、記録的猛暑などを背景に社会経済活動が停滞したことから、D I は前期と比べて 0.7 ポイント低下した。10～12 月期は、円安の拡大に伴う原材料価格の高止まりが続くものの、卸売業、運輸業、小売業などで改善がみられたことから、D I は前期と比べて 1.2 ポイント上昇した。

図表 3-1-1 業況判断D I の推移（大阪府内企業）



資料：大阪産業経済リサーチセンター「大阪府景気観測調査」。

(注) 1. 業況判断D I＝「上昇」企業割合－「下降」企業割合。

2. 季節調整値は、2025 年 1～3 月期調査時点のもの。

（概ね製造業が非製造業を上回り、差はやや拡大）

業況判断D I（前期比、季節調整値）を業種別にみると、2024年についても前年と同様、概ね製造業が非製造業を上回るものの、2023年に比べると両者の差はやや拡大した（図表3-1-2）。

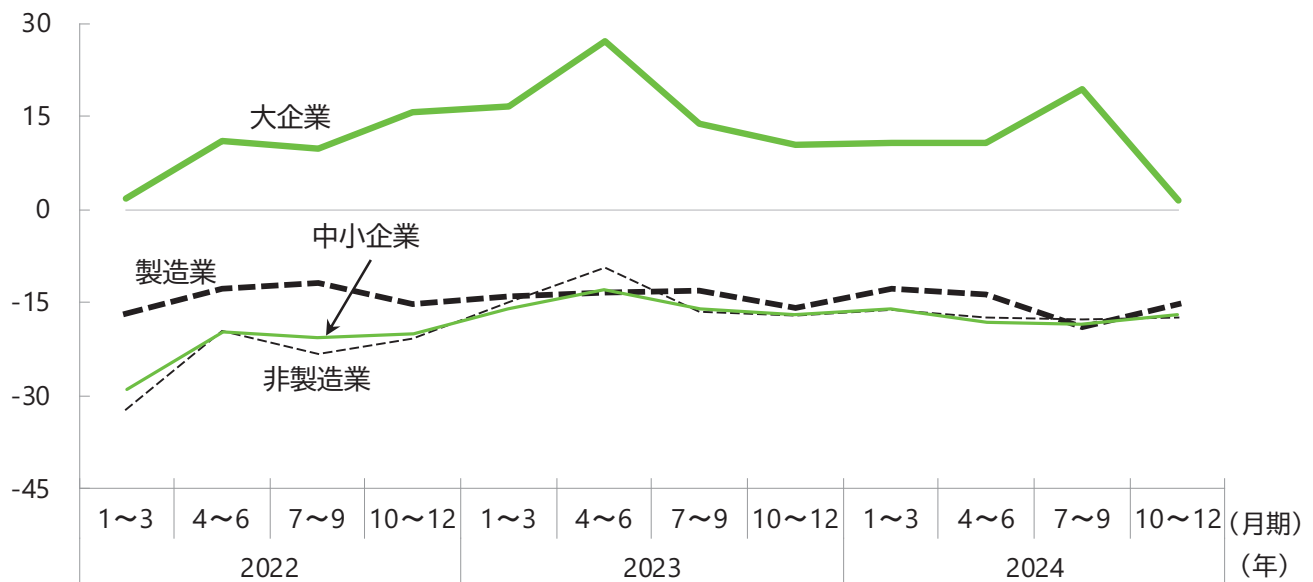
直近3年間の業況判断D Iの推移をみると、2022年は製造業が非製造業を上回るものの、製造業の弱含みに対して非製造業の回復基調が強まったことから、同年10～12月期に両者の差が5.7ポイントまで縮小した。2023年に入ってもその傾向は続き、同年4～6月期には非製造業が製造業を上回った。ただし、その後は再び両者の立場が逆転するとともに、それぞれ弱含みで推移した。2024年にも7～9月期に逆転する現象がみられたが、両者の差（製造業－非製造業）を年平均でみると、2024年は前年に比べて1.6ポイント拡大した。

（大企業と中小企業の差はやや縮小）

企業規模別にみると、大企業のD Iは前期と比べて、2024年1～3月期には0.2ポイントの上昇、4～6月期も0.1ポイントの上昇と微増にとどまった。7～9月期には8.6ポイントの上昇と2期ぶりに改善したが、10～12月期は17.9ポイントの下落と、年後半の上下動が激しかった。

一方、中小企業のD Iは前期と比べて、2024年1～3月期には0.8ポイント上昇したが、4～6月期には2.0ポイント、7～9月期には0.5ポイントの下落となった。10～12月期は1.7ポイントの上昇と、3期ぶりに改善した。なお、2023年の両者の差は、大企業が中小企業を年平均で33ポイント上回っていたが、2024年は同28ポイントとやや縮小した。

図表3-1-2 産業別・規模別前期比業況判断D I（季調）の推移（大阪府内企業）



資料：大阪産業経済リサーチセンター「大阪府景気観測調査」。

（注）1. 業況判断D I＝「上昇」企業割合－「下降」企業割合。

2. 季節調整値は、2025年1～3月期調査時点のもの。

## 2. 営業利益は漸減傾向で推移、資金繰りは低下基調

2024年の営業利益は、株価上昇や雇用・所得環境の改善などもあり1～3月期は上昇したが、1年を通してみると漸減傾向で推移した。

資金繰りは、中小企業・非製造業の回復による緩やかな増加傾向を示した2023年を経て、2024年は中小企業や非製造業ではば一貫して漸減基調となったことから、全体でも弱含みで推移した。

### （営業利益は1年を通して漸減傾向で推移）

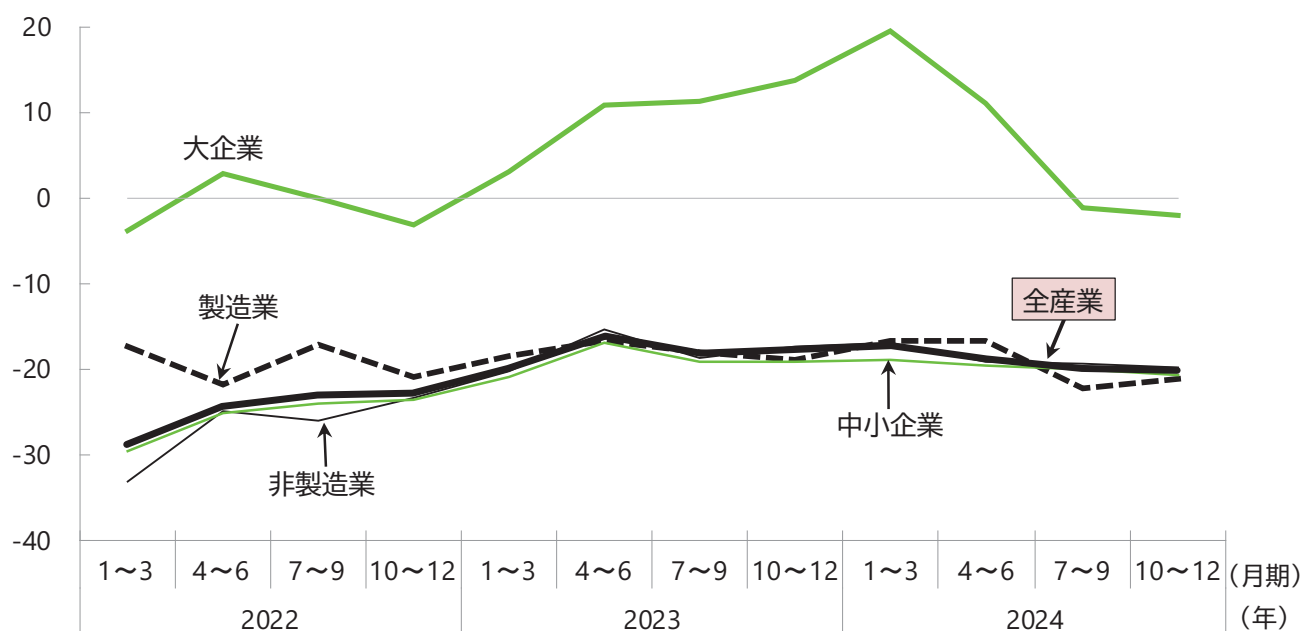
府内企業の営業利益水準D I（「増加」企業割合－「減少」企業割合、季節調整値）は、年全体では漸増傾向となった2023年の後、2024年は1年を通して漸減傾向で推移した（図表3-1-3）。2024年1～3月期は、国内企業物価が高止まる中、株価上昇や雇用・所得環境の改善などもあり、前回調査（2023年10～12月期）と比べて0.5ポイント上昇した。4～6月期には、雇用・所得環境が緩やかに改善した一方で、歴史的な円安による原材料価格の上昇などを受けて、1.6ポイント下落した。7～9月期には、円高基調への反転に加え、自然災害や猛暑などによる社会経済活動の停滞から、1.1ポイント下落した。10～12月期には原材料価格が上昇した一方で販売・受注価格の上昇もあり、D Iは0.3ポイントの下落とほぼ横ばいで推移した。

産業別にみると、製造業が販売・受注価格の堅調を

受けて2024年1～3月期は3期ぶりの上昇、4～6月期は原材料価格の上昇に伴う内需の減退などもあり、0.1ポイントとほぼ横ばいで推移した。7～9月期には、円高への反転や内需の鈍化などもあり、5.6ポイントの下落と3期ぶりに下落した。10～12月期には、円安への回帰や輸出の回復などを受けて、1.1ポイントの上昇と2期ぶりに上昇した。一方、非製造業は2024年1～3月期の上昇幅はかろうじてプラスであったが、4～6月期以降はいずれもマイナスで推移するなど、年間を通じて勢いは鈍かった。

規模別でみると、大企業は2022年の大半でD Iがマイナス水準で推移した後、2023年から2024年の前半まではプラス水準を維持したが、2024年後半には再びマイナスに転じた。一方、中小企業は、2023年前半まではD Iのマイナス幅が縮小したが、同年後半から2024年にかけてはほぼ一貫して弱含みで推移した。

図表3-1-3 営業利益水準D Iの推移（大阪府内企業）



資料：大阪産業経済リサーチセンター「大阪府景気観測調査」。

（注）1. 営業利益判断D I＝「増加」企業割合－「減少」企業割合。

2. 季節調整値は、2025年1～3月期調査時点のもの。

(2024 年の資金繰り D I は、低下基調で推移)

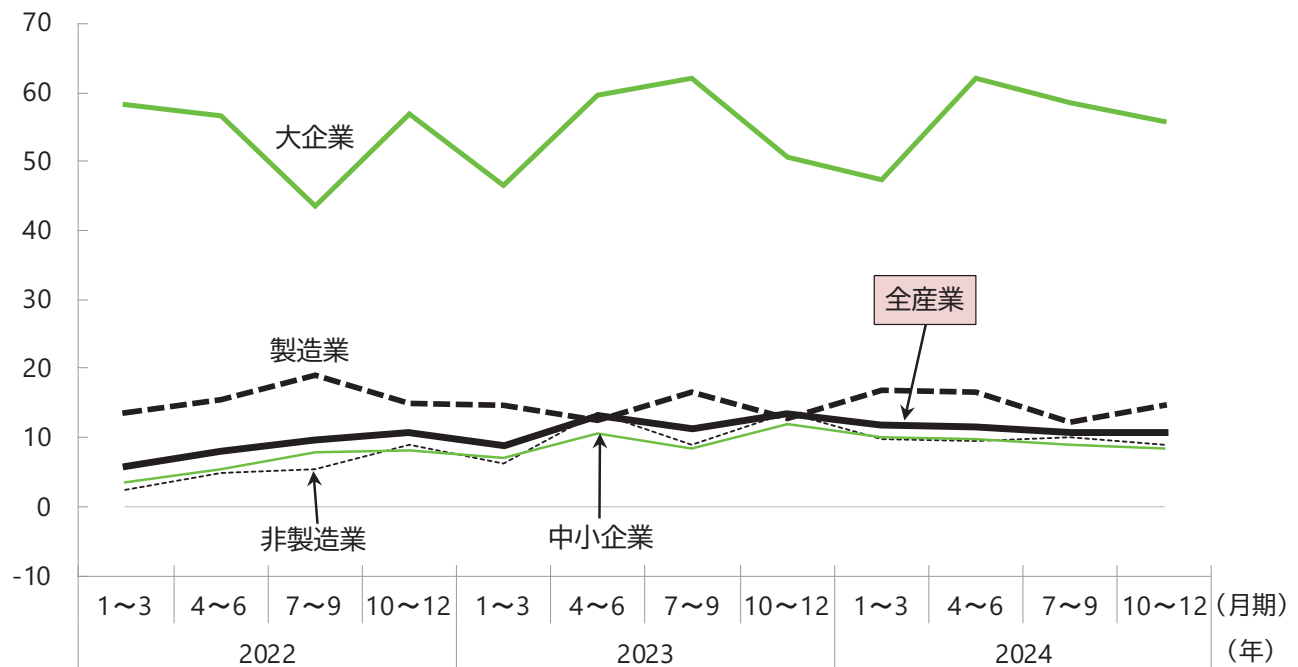
資金繰り D I (「順調」－「窮屈」企業割合) は、緩やかな増加傾向を示した 2023 年から、2024 年は低下基調で推移した (図表 3-1-4)。

業種別でみると、下図のように製造業が非製造業よりも 2022 年は期平均で 10 ポイントの開きがあったが、2023 年は 4 ポイント弱まで縮小した。2024 年は、両者

の差が 6 ポイントとやや拡大した。

企業規模別では、大企業は 2023 年 4～6 月期から 2 期連続で上昇した後、2024 年 1～3 月期まで下落、4～6 月期は上昇したものの、同年後半は再び下落する不安定な動きとなった。一方、2022 年に緩やかな増加基調であった中小企業は、2023 年に入ると細かな増減を繰り返したが、2024 年は漸減基調に転じた。

図表 3-1-4 資金繰り D I の推移 (大阪府内企業)



資料：大阪産業経済リサーチセンター「大阪府景気観測調査」。

(注) 資金繰り D I = 「順調」企業割合－「窮屈」企業割合。

### 3. 雇用不足感は高水準も、雇用予定人員は弱含みで推移

2024年の雇用不足感は、製造業では概ね2023年と同様の水準で、年後半以降に不足感が強まる傾向で推移した。非製造業では、年の前半・後半で不足感が強まる業種が変わりつつ、前年よりも高水準で推移し、D Iは製造業を上回った。2024年の雇用予定人員D Iは、高止まり感のある雇用不足に対して、前年の緩やかな改善基調から弱含みに一転した。

#### （雇用不足感是高水準で推移）

雇用不足感D I（「不足」－「過剰」企業割合、右目盛）は2022年10～12月期以降、前年同期差が1桁増に落ち着き、2024年7～9月期にはマイナスに転じたが、D Iは高止まり状態である（図表3-1-5）。

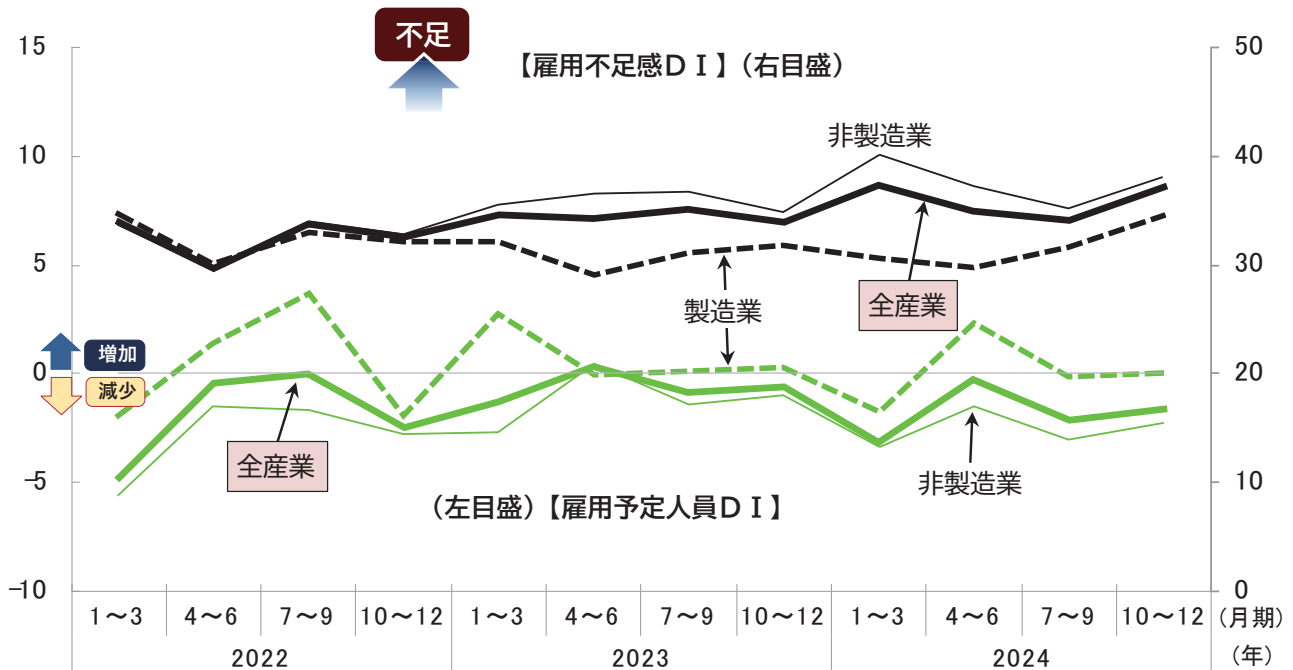
業種別で比較すると、製造業は2024年4～6月期まで不足感がやや緩和したが、年後半以降は再び不足感が強まった。一方、非製造業は年前半において情報通信、小売業、サービス業、建設業などを中心に不足感が緩和したが、年後半には建設業、運輸業、サービス業、小売業などで再び不足感が強まり、D Iは高水準で推移した。

#### （雇用予定人員は前年から一転し、弱含みに）

雇用不足の高まりに対して、2024年の雇用予定人員D I（「増加」－「減少」企業割合）は、各期とも前年同期を下回り、四半期の平均も前年を1.2ポイント下回り、同年のD Iの動きは弱含み傾向となった。

これを業種別にみると、製造業では1～3月期にマイナスに転じた後、4～6月期は雇用不足感が緩和したもの、雇用意欲は高まった。ただし、その後は再び水面下付近まで低下した。一方、非製造業でも製造業と類似した動きをみせたが、いずれの期もマイナス水準を脱しなかった。2024年に最も高い水準となった4～6月期でさえ、前年同期に比べて2.0ポイントの低下であった。

図表3-1-5 雇用状況D Iの推移（大阪府内企業）



資料：大阪産業経済リサーチセンター「大阪府景気観測調査」。

（注）雇用不足感D I＝「不足」企業割合－「過剰」企業割合。雇用予定人員D I＝「増加」企業割合－「減少」企業割合。

## 第2節 中小企業の業況は、弱含みで推移

### 1. 出荷・売上高は弱含みで推移、営業利益判断はわずかに改善の兆し

2024年の中小企業の出荷・売上高は弱含みで推移した。原材料価格は高止まりだが、一定の価格転嫁は行えており、営業利益判断はわずかに改善する兆しがみられた。

#### (出荷・売上高は、弱含みで推移)

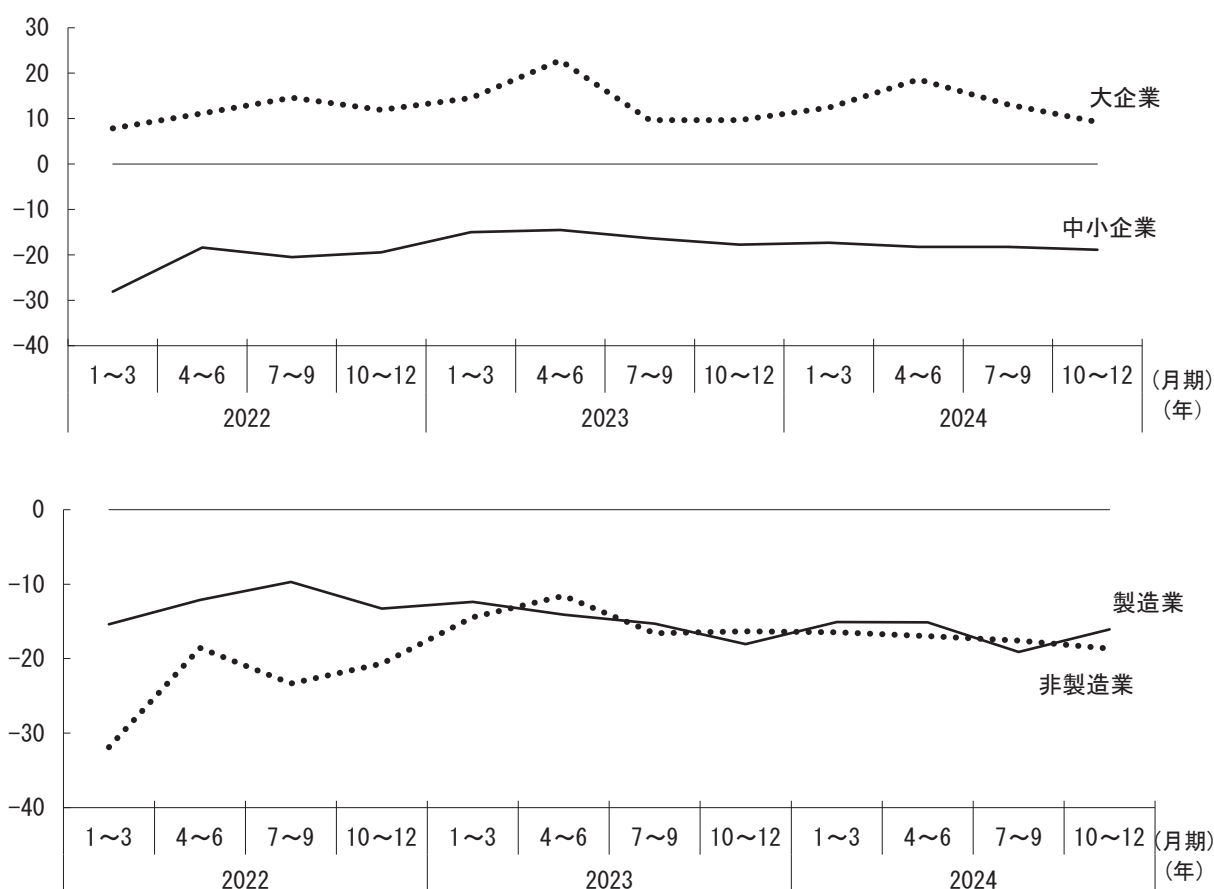
府内の中小企業の出荷・売上高DI（前期比増加企業割合－同減少企業割合、季節調整値）は、2023年4～6月期に－14.5でピークとなった後、同年10～12月期にかけて下降し、その傾向は2024年10～12月期の－18.9まで横ばいで続いた。2024年はコロナ禍から持ち直しているものの年間でみると弱含みで推移した。

規模別では、大企業、中小企業ともに7～9月期以降は下降傾向で推移し、大企業は中小企業より高い水準で推移したものの、4～6月期以降、18.6→13.1→9.3

へと下降し、中小企業は－18.2→－18.3→－18.9へとマイナス水準で、横ばいで推移した。

業種別では、製造業、非製造業ともにマイナスの水準で推移し、製造業は、2024年7～9月期に－19.1へと4～6月期より4ポイント下降したが、10～12月期は－16.1に上昇した。非製造業は、2024年1～3月期に－16.4へと2023年10～12月期から0.1ポイント下降し、その後、－17.0→－17.6→－18.6と下降した。業種別のDIの水準は、期によって製造業と非製造業の上下が入れ替わって推移した。（図表3-2-1）。

図表3-2-1 出荷・売上高DIの推移（前期比、季節調整済み、大企業・中小企業別、製造業・非製造業別）



資料：大阪産業経済リサーチセンター『大阪府景気観測調査』

(注) 出荷・売上高DIは、「前期比増加」企業割合－「同減少」企業割合。季節調整値。

（中小企業の収益は、わずかに回復の兆しがみられた）

府内の中小企業の原材料価格D I（前期比上昇企業割合－同下落企業割合）は、直近3年間では、2022年10～12月期の69.3が最も高く、2023年1～3月期の62.1から、同年4～6月期以降は50半ばの水準に下降したものの、2024年も高止まりの傾向で推移し、年間を通して価格が下落する兆しはみられなかった。

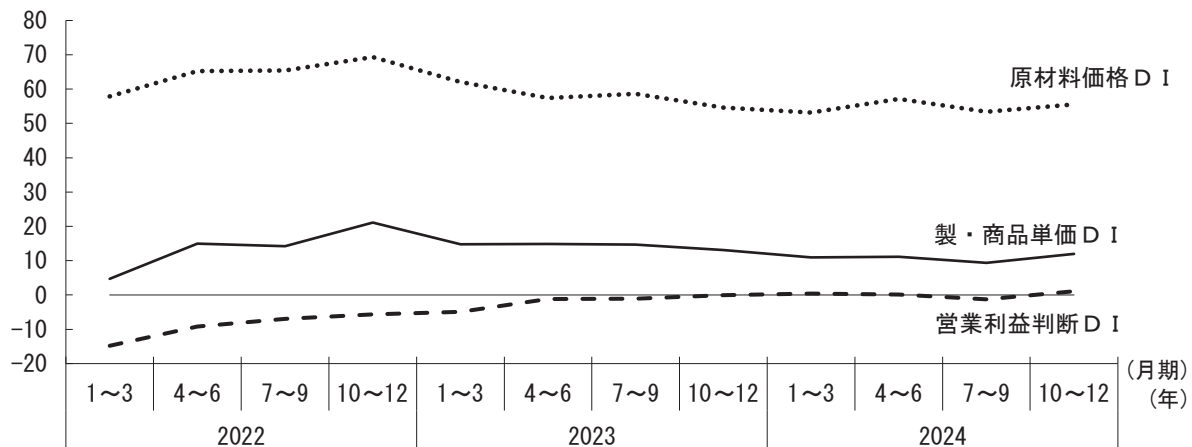
製・商品単価D I（同）は、直近3年間はプラスの水準で、2022年10～12月期に21.1でピークとなった後、2024年は2023年の15.0前後の水準を下回るものの、1～3月期から10.9→11.2→9.4→12.0の横ばいの傾向で推移し、一定の価格転嫁は行われている。

営業利益判断D I（黒字企業割合－赤字企業割合：季節調整値）は、2023年10～12期以降、改善する兆しがみられ、2024年7～9月期を除いて、わずかながらプラスの水準となり、営業利益はわずかながら緩

やかに回復する兆しがみられた（図表3-2-2）。

業種別では、原材料価格D Iは、製造業、非製造業ともピークは2022年10～12月期で、その後の水準は大きくは低下せず高止まりで推移している。製造業は、2024年1～3月期以降、46.9→60.7→56.5→58.3で推移し、4～6月期以降は前年の各四半期の水準を少し上回る水準で推移した。非製造業は、前年の各四半期の水準をやや下回るものの、2024年1～3月期以降、54.8→55.4→51.6→54.0で推移した。製・商品単価D Iは、製造業、非製造業とも直近3年間はプラスの水準だが、2024年は2023年をやや下回る水準で推移した。2024年の営業利益判断D Iは、製造業は、2024年7～9月を除いてプラスの水準でほぼ横ばいで推移し、非製造業は、すべての四半期でプラスの水準となったが、期によってプラスの水準の変動があり、ならしてみると横ばいで推移した。（図表3-2-3）。

図表3-2-2 中小企業の製・商品単価D I、原材料価格D I、営業利益判断D Iの推移

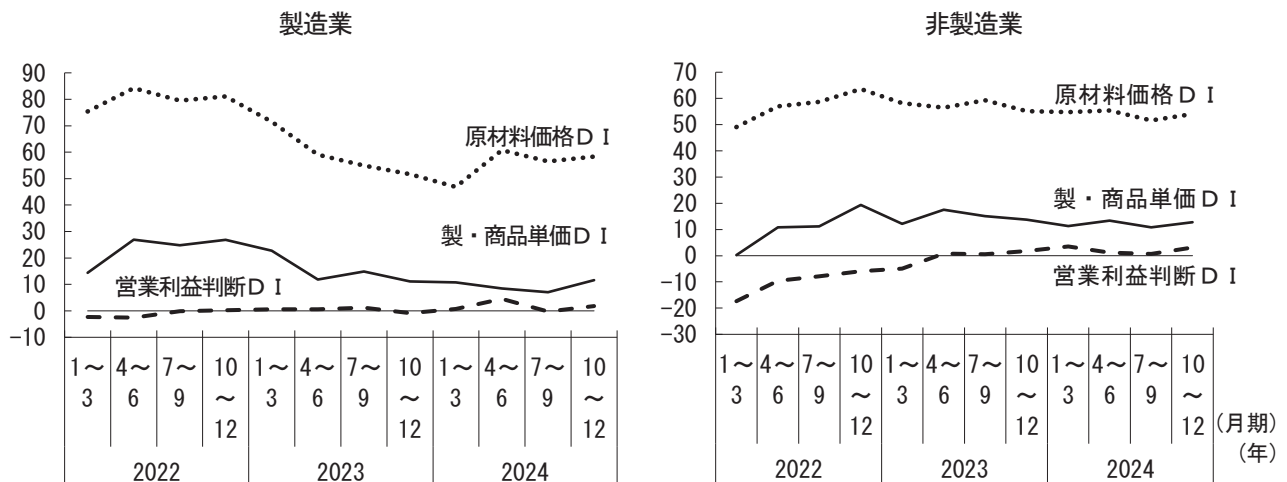


資料：大阪産業経済リサーチセンター『大阪府景気観測調査』

（注）製・商品単価D I、原材料価格D Iは、「前期比上昇」企業割合－「同下落」企業割合。

営業利益判断D Iは、「黒字」企業割合－「赤字」企業割合。

図表3-2-3 業種別の製・商品単価D I、原材料価格D I、営業利益判断D Iの推移



資料及び（注）：図表3-2-2に同じ

## 2. 業況は低下傾向で推移し、原材料価格や仕入単価の上昇が大きな課題

2024年の中小企業の業況は、低下傾向で推移し、製造業、非製造業とも景況は下降した。「原材料価格の上昇」や「材料価格の上昇」が大きな課題となったほか、「従業員の確保難」も課題であり、「人件費の増加」が課題である割合が微増となる業界もみられた。

以下では、「中小企業景況調査」（中小企業庁・独立行政法人中小企業基盤整備機構・近畿経済産業局）により、全国の中小企業の景況をみていく（※近畿地域の結果が製造業と非製造業の二区分のため、本節では、全国の結果をもとに、詳細な業種の動向をみていく）。

### （業況は、低下傾向の弱い動きで推移）

2024年の全国の中小企業の業況判断D Iは、四半期で上下動がみられたが、1～3月期の－10.4から10～12月期に－17.4に低下する弱い動きで推移した。近畿と大阪府の各水準は、期によって高低に入れ替わりがみられたが、概ね同様の動きで推移した。府の全産業は1～3月期の－12.3から10～12月期に－16.7に下降、製造業は1～3月期の－6.5から10～12月期に－17.9に下降、非製造業は1～3月期の－14.5から10～12月期に－16.8へと下降した。（図表3-2-4～5）。

全国の業種別の業況判断D Iは、製造業（全体）は、2024年1～3月期以降、－12.8→－14.1→－14.6→－17.1というように、年間を通じて低下した。製造業の各業種は、年間を通してマイナスの水準で推移した業

種が多かった。「窯業・土石製品」、「木材・木製品」、「印刷」、「鉄鋼・非鉄金属」、「家具・装備品」、「機械器具」、「輸送用機械器具」など、需要低迷や市場縮小などに直面している業種は、マイナスの水準が大きかった。2024年1～3月期から10～12月期にかけてD Iの変化幅が大きかったのは、プラスの変化では「機械器具」、「輸送機械器具」、マイナスの変化では「食料品」、「化学」、「窯業・土石製品」などであった。

非製造業（全体）の景況判断D Iも、2024年1～3月期以降、－16.0→－12.8→－12.8→－17.5というように、一進一退で年末に低下した。非製造業の各業種も、年間を通してほぼマイナスの水準で推移したが、マイナスの水準が大きいののは「小売業」、「飲食業」、「生活関連の対個人サービス業」であった。「宿泊業」や「飲食業」は、10～12月期に業況が大きく低下したことで、2024年1～3月期から10～12月期のD Iのマイナスへの変化幅が大きかった。また、マイナスの水準が相対的に小さかったのは、「情報通信・広告業」「対事業所サービス業」であった（図表3-2-6～8）。

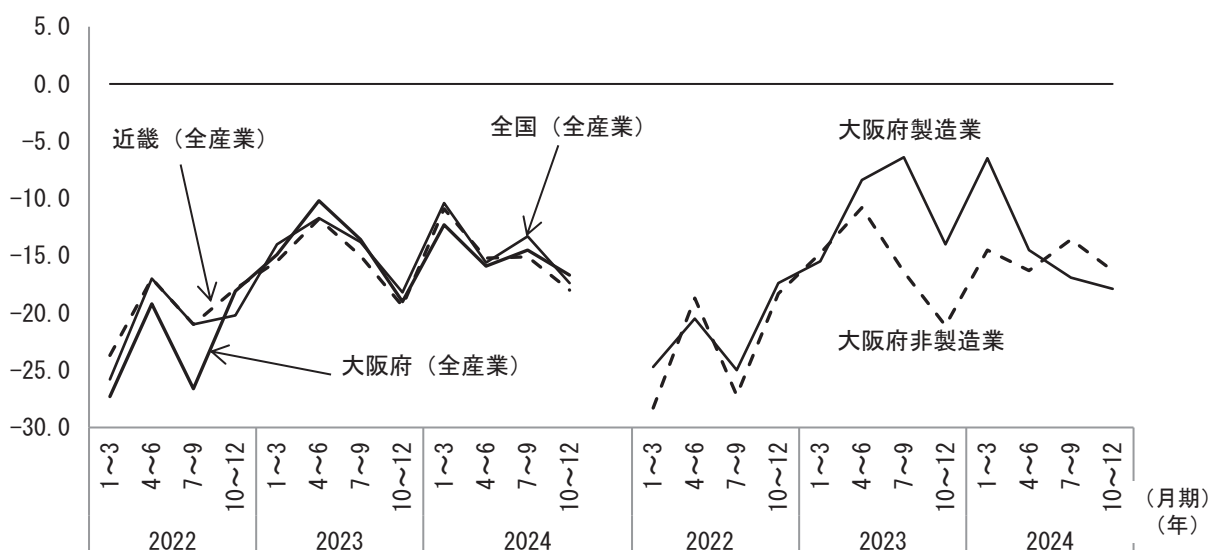
図表3-2-4 中小企業景況調査（全国）の基調判断と中小企業の業況判断D Iの推移（全国・近畿・大阪府）

|       |         | 業況の基調判断（全国の中小企業の業況判断D I） | 近畿のD I | 大阪府のD I（製造業／非製造業）  |
|-------|---------|--------------------------|--------|--------------------|
|       |         |                          |        |                    |
| 2024年 | 1-3月期   | 3期ぶりに上昇した（－10.4）         | －10.9  | －12.3（－6.5／－14.5）  |
|       | 4-6月期   | 2期ぶりに低下した（－15.6）         | －15.2  | －15.9（－14.5／－16.3） |
|       | 7-9月期   | 2期ぶりに上昇した（－13.3）         | －15.1  | －14.5（－16.9／－13.6） |
|       | 10-12月期 | 2期ぶりに低下した（－17.4）         | －18.0  | －16.7（－17.9／－16.3） |

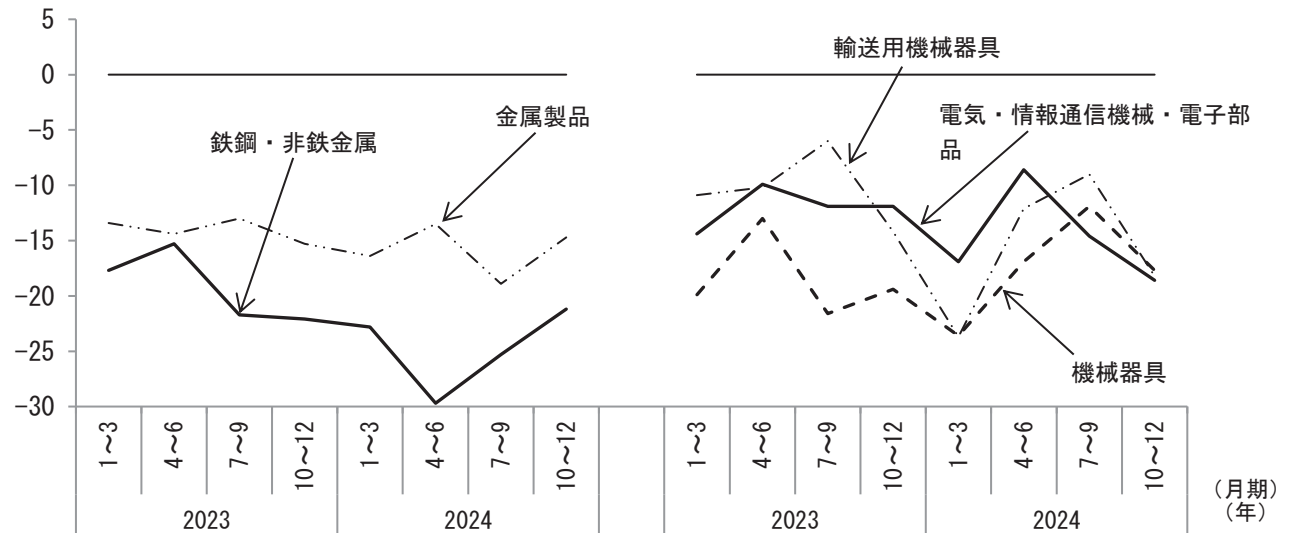
資料：中小企業庁・独立行政法人中小企業基盤整備機構・近畿経済産業局『中小企業景況調査』（前期比季節調整値版）

（注）業況判断D Iは、「好転」企業割合－「悪化」企業割合。

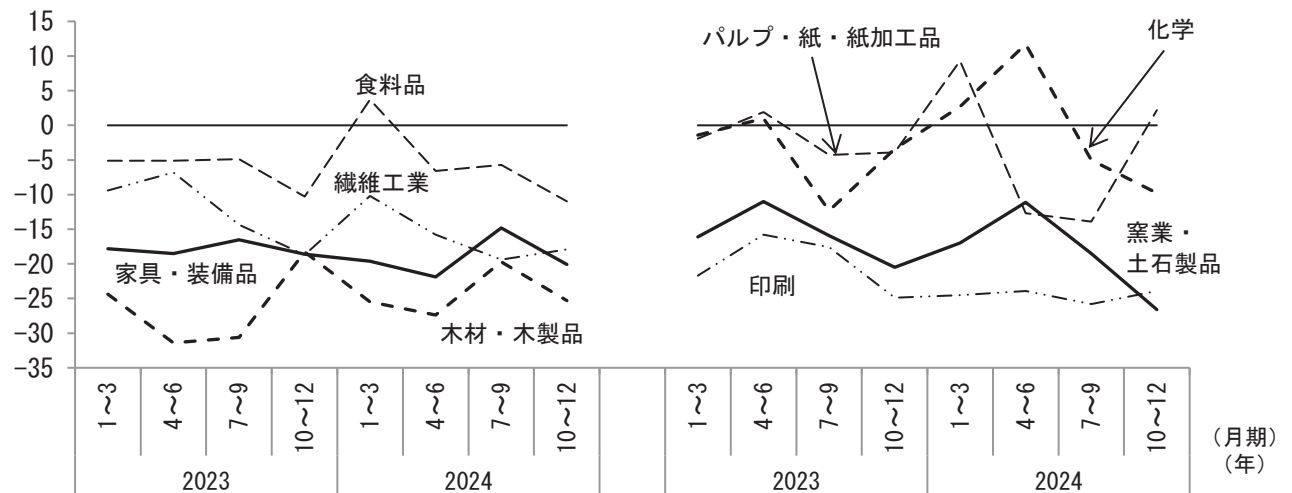
図表3-2-5 全国及び近畿の全産業・大阪府の全産業及び製造業と非製造業の景況判断D Iの推移



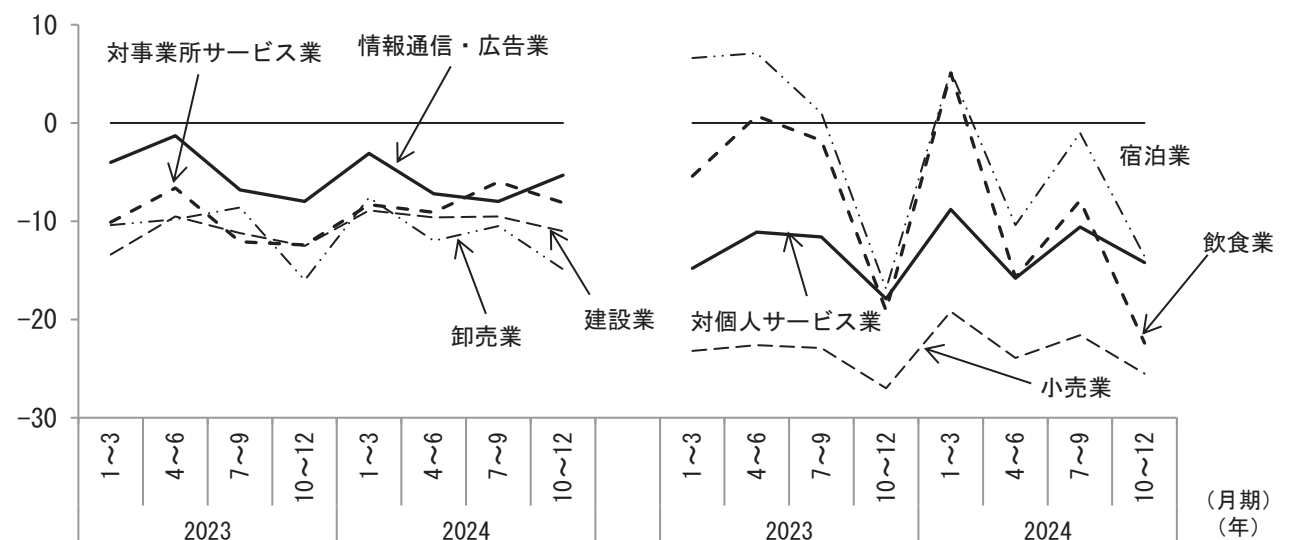
図表 3-2-6 製造業（機械金属工業）の業況判断D Iの推移（全国、前期比季節調整値）



図表 3-2-7 製造業（機械金属工業以外）の業況判断D Iの推移（全国、前期比季節調整値）



図表 3-2-8 非製造業の業況判断D Iの推移（全国、前期比季節調整値）



資料：中小企業庁・独立行政法人中小企業基盤整備機構『中小企業景況調査』

（注）業況判断D Iは、「好転」企業割合－「悪化」企業割合。

（原材料価格や仕入単価の上昇が最大の問題点）

経営上の最も大きな問題点は、近年の傾向でもある、原材料価格や仕入単価の上昇であった。問題と考える割合は、製造、建設、小売、卸売、サービスのすべての業種で高く、その割合は3割程度の高止まりで推移し、改善の兆しもみられなかった。2番目に大きな課題は、製造業や卸売業では「需要の停滞」で、年間を通して高止まりで推移し改善の兆しはみられなかった。建設業では「従業員の確保難」で、課題である割合が期を追う毎に微増となった。小売業やサービス業では「消費者ニーズの変化への対応」で、高止まりで推移し、改善の兆しはみられなかった。

上記以外で各業種にみられる課題は、製造業では、「従業員の確保難」と「生産設備の不足・老朽化」が高止まりで推移したほか、「人件費の増加」が期を追う毎に課題である割合が増加した。

建設業では、従業員や熟練技術者の確保難を課題と考える割合が微増で推移し、特に、「従業員の確保

難」は他の業種を上回って高かった。需要の停滞は、民間需要、官公需要とも年末にかけて微減であった。

卸売業は、「需要の停滞」が問題点である割合が他の業種よりも高く、その割合は概ね横ばいで推移した。そのほか「人件費の増加」を問題点と考える割合が上昇傾向で推移し、「従業員の確保難」とあわせて賃上げが課題になった。「人件費以外の経費の増加」も横ばいで推移し、コスト面の課題が大きかった。

小売業では、「需要の停滞」のほか、「消費者ニーズの変化への対応」、「購買力の他地域への流出」、「大・中型店の進出による競争の激化」という課題が、期による変化がみられず高止まりで推移した。

サービス業では、「利用者ニーズの変化への対応」「従業員の確保難」「人件費の増加」「需要の停滞」がほぼ同じ割合で課題となり、その割合は概ね横ばいで推移したが、「人件費の増加」は期を追う毎に微増となり、人材の確保難と賃上げが課題となった（図表3-2-9）。

図表 3-2-9 各期で直面している経営上の問題点の構成比と前年同期との差（2024年・全国）

| 業種    | 直面している経営上の問題点<br>(10-12月期の割合の高い順) | 経営上の問題点と考える割合（2024年） |       |       |         | 前年同期との差（%） |       |       |         |
|-------|-----------------------------------|----------------------|-------|-------|---------|------------|-------|-------|---------|
|       |                                   | 1-3月期                | 4-6月期 | 7-9月期 | 10-12月期 | 1-3月期      | 4-6月期 | 7-9月期 | 10-12月期 |
| 製造業   | 原材料価格の上昇                          | 27.9                 | 32.1  | 29.0  | 29.3    | -15.1      | -6.2  | -5.4  | -2.5    |
|       | 需要の停滞                             | 19.4                 | 18.3  | 18.2  | 18.4    | 5.6        | 3.8   | 2.6   | 2.1     |
|       | 従業員の確保難                           | 10.6                 | 9.7   | 9.5   | 9.8     | 2.1        | 1.3   | 0.1   | -0.1    |
|       | 生産設備の不足・老朽化                       | 8.6                  | 8.7   | 9.2   | 8.8     | 2.1        | 0.8   | 0.8   | -0.5    |
|       | 人件費の増加                            | —                    | 5.9   | 6.7   | 8.2     |            | 5.9   | 6.7   |         |
| 建設業   | 材料価格の上昇                           | 32.9                 | 37.2  | 32.9  | 31.9    | -15.3      | -5.7  | -7.5  | -5.5    |
|       | 従業員の確保難                           | 18.1                 | 18.2  | 18.7  | 20.9    | 3.2        | 1.9   | 2.2   | 3.8     |
|       | 熟練技術者の確保難                         | 7.6                  | 7.1   | 7.9   | 8.2     |            | 0.6   | 0.9   | 0.0     |
|       | 民間需要の停滞                           | 7.8                  | 7.4   | 7.8   | 7.1     | 1.6        | 0.8   | 1.5   | 0.1     |
|       | 官公需要の停滞                           | 7.3                  | 6.6   | 7.0   | 6.7     | 0.6        | -0.5  | 0.2   | 0.1     |
| 卸売業   | 仕入単価の上昇                           | 25.3                 | 29.8  | 27.4  | 27.8    | -15.4      | -4.0  | -2.9  | -1.9    |
|       | 需要の停滞                             | 23.0                 | 19.3  | 21.3  | 20.0    | 4.7        | 1.1   | 2.6   | 1.6     |
|       | 人件費の増加                            | 6.6                  | 7.5   | 8.4   | 10.0    |            |       | 2.1   | 1.9     |
|       | 従業員の確保難                           | 10.9                 | 9.1   | 8.6   | 9.6     | 3.3        | 0.1   | 0.3   | -0.1    |
|       | 人件費以外の経費の増加                       | 5.9                  | 5.9   | 6.4   | 6.0     | -2.2       | -1.6  | -2.0  | -1.9    |
| 小売業   | 仕入単価の上昇                           | 23.2                 | 26.0  | 25.0  | 25.8    | -6.7       | -2.4  | -1.9  | -1.5    |
|       | 消費者ニーズの変化への対応                     | 14.6                 | 14.5  | 14.4  | 14.0    | 1.5        | 1.3   | 1.2   | 1.0     |
|       | 需要の停滞                             | 13.9                 | 12.7  | 12.4  | 12.4    | 0.9        | -0.1  | -0.4  | -1.0    |
|       | 購買力の他地域への流出                       | 8.9                  | 9.5   | 9.1   | 8.7     | 0.4        | 0.5   | 0.5   | 0.2     |
|       | 大・中型店の進出による競争の激化                  | 8.8                  | 8.2   | 8.4   | 8.1     | 1.3        | 0.2   | 0.4   | 0.1     |
| サービス業 | 材料等仕入単価の上昇                        | 23.8                 | 27.3  | 26.0  | 25.7    | -5.3       | -2.3  | -2.7  | -0.8    |
|       | 利用者ニーズの変化への対応                     | 12.7                 | 12.0  | 12.1  | 11.3    | 1.6        | -0.2  | 0.6   | -0.9    |
|       | 従業員の確保難                           | 12.1                 | 11.1  | 10.9  | 11.2    | 3.1        | 0.4   | 0.6   | 0.7     |
|       | 人件費の増加                            | 7.4                  | 8.0   | 8.6   | 10.3    |            |       |       |         |
|       | 需要の停滞                             | 10.7                 | 9.0   | 10.0  | 9.5     | -0.8       | -0.7  | 0.0   | -0.1    |

資料：中小企業庁・独立行政法人中小企業基盤整備機構『中小企業景況調査』

注：経営上の問題点と考える割合と前年同期との差の空欄は、前年及び当該年の四半期に上位5位の課題でなかったことを示す。

（府内の中小企業は、価格高騰が景況の改善を抑制）

以下では近畿と府内の企業の景況の動きをみていく。まず、全国企業短期経済観測調査の近畿地区の業況判断の水準と年間の推移をみていく。製造業の業況判断（「良い」－「悪い」）の1～3月期から10～12月期の年間の変化は、素材業種と加工業種のいずれも上昇傾向がみられたが、水準は、素材業種よりも加工業種の方が高かった。10～12月期でプラスの水準が大きい業種は、石油・石炭製品、はん用・生産用・業務用機械などで、マイナスの水準が大きいのは、鉄鋼、繊維などであった。年間の変化傾向は、上昇または横ばいの傾向で推移した業種が多かったが、窯業・土石製品や鉄鋼は大きく下降した。非製造業の1

～3月期から10～12月期にかけての変化は、全体では上昇の傾向となり、業況判断水準は、すべての業種がプラスの水準で推移した。10～12月期でプラスの水準が大きい業種は、物品賃貸、建設、情報通信、対事業所サービス、小売、宿泊・飲食サービスであった。年間の推移では、物品賃貸や建設は上昇したが、対個人サービス業、情報通信、卸売は下降した。製造業、非製造業ともに業況が改善傾向で推移したが、非製造業の方が、業況は高い水準で推移した。また、中堅企業の水準が中小企業の水準よりも高い状況で推移したが、製造業の中小企業は年間を通してマイナスの水準で推移した（図表3-2-10）。

図表 3-2-10 全国企業短期経済観測調査（近畿地区）業況判断の推移（「良い」－「悪い」）

| 業種・規模         | 2023 年（%ポイント） |     |     |      | 2024 年（%ポイント） |     |     |      | 2024 年 3 月期<br>から 12 月期の変化 |
|---------------|---------------|-----|-----|------|---------------|-----|-----|------|----------------------------|
|               | 3 月           | 6 月 | 9 月 | 12 月 | 3 月           | 6 月 | 9 月 | 12 月 |                            |
| 製造業           | -3            | -1  | -3  | 4    | 2             | 0   | 1   | 5    | 3                          |
| 製造業（素材業種）     | -4            | -3  | -8  | 0    | -4            | -6  | -8  | -4   | 0                          |
| 繊維            | -15           | -15 | -18 | -16  | -19           | -21 | -30 | -19  | 0                          |
| 木材・木製品        | -14           | -14 | -7  | 0    | 0             | 7   | 7   | 0    | 0                          |
| 紙・パルプ         | -15           | -7  | -22 | -15  | -6            | 0   | -6  | 0    | 6                          |
| 化学            | -3            | -1  | -8  | 4    | -2            | 4   | 6   | 13   | 15                         |
| 石油・石炭製品       | 11            | 28  | 22  | 22   | 20            | 20  | 6   | 27   | 7                          |
| 窯業・土石製品       | -21           | -17 | -11 | 6    | 21            | 11  | -5  | -5   | -26                        |
| 鉄鋼            | 10            | -2  | -4  | 6    | -11           | -22 | -31 | -31  | -20                        |
| 非鉄金属          | 0             | 3   | -8  | 2    | -3            | -9  | 10  | 0    | 3                          |
| 製造業（加工業種）     | -2            | 1   | 2   | 7    | 7             | 6   | 7   | 11   | 4                          |
| 食料品           | -22           | -2  | 0   | 4    | 15            | 18  | 12  | 8    | -7                         |
| 金属製品          | 9             | 4   | -2  | 10   | 15            | 0   | 2   | 8    | -7                         |
| はん用・生産用・業務用機械 | 12            | 13  | 12  | 14   | 21            | 18  | 17  | 23   | 2                          |
| 電気機械          | -2            | -6  | -15 | -7   | -14           | -8  | 11  | 3    | 17                         |
| 輸送用機械         | -22           | -21 | -11 | 1    | -13           | -12 | -9  | -3   | 10                         |
| 中堅企業（製造業）     | -3            | 6   | 4   | 11   | 6             | 3   | 0   | 5    | -1                         |
| 中小企業（製造業）     | -5            | -8  | -12 | -3   | -2            | -5  | -5  | -1   | 1                          |
| 非製造業          | 13            | 16  | 14  | 16   | 16            | 17  | 19  | 18   | 2                          |
| 建設            | 14            | 14  | 5   | 12   | 17            | 15  | 25  | 28   | 11                         |
| 不動産           | 13            | 11  | 13  | 16   | 20            | 19  | 24  | 21   | 1                          |
| 物品賃貸          | 29            | 30  | 33  | 31   | 21            | 28  | 35  | 35   | 14                         |
| 卸売            | 12            | 15  | 12  | 17   | 10            | 12  | 10  | 9    | -1                         |
| 小売            | 10            | 19  | 22  | 16   | 16            | 22  | 28  | 16   | 0                          |
| 運輸・郵便         | 6             | 13  | 7   | 10   | 18            | 22  | 17  | 21   | 3                          |
| 情報通信          | 27            | 33  | 29  | 36   | 28            | 20  | 25  | 20   | -8                         |
| 対事業所サービス      | 17            | 17  | 19  | 25   | 13            | 18  | 19  | 17   | 4                          |
| 対個人サービス       | 14            | 12  | 10  | 10   | 12            | 12  | 5   | 3    | -9                         |
| 宿泊・飲食サービス     | 0             | 31  | 10  | 14   | 10            | 4   | 10  | 16   | 6                          |
| 中堅企業（非製造業）    | 21            | 22  | 23  | 21   | 21            | 24  | 24  | 22   | 1                          |
| 中小企業（非製造業）    | 7             | 10  | 5   | 9    | 8             | 8   | 12  | 13   | 5                          |
| 中堅企業（全産業）     | 10            | 15  | 14  | 17   | 15            | 14  | 12  | 14   | -1                         |
| 中小企業（全産業）     | 0             | 1   | -2  | 3    | 3             | 1   | 3   | 7    | 4                          |

資料：日本銀行大阪支店

次に、大阪府中小企業団体中央会が毎月公表している「府内中小企業の景況（大阪府中央会情報連絡員報告）」の公表資料をもとに、中小企業の各業種の動きをみていく。業種によっては、厳しい状況や業況の変動がみられた。原材料・原油の価格や運送費などが高止まりする一方で価格転嫁が十分に進まない業種がみられ、人材不足や最低賃金の上昇などに伴って収益確保が困難化する状況がみられた。また、原材料や商材の不足や需要が伸び悩む影響などにより、収益が悪化した業種も多かった。景況に改善の兆しがみられたのは一部の業種にとどまり、同業種の中でも専門分野や取扱い品目によって明暗が分かれた。業種によっては構造的な要因が景況の悪化に影響した。以下では、主な業種の年間の変化傾向をみていく。

製造業は、多くの業種が厳しい景況と収益状況で推移した。そうしたなか、石鹼洗剤製造業の石鹼は、衛生や清潔に関係することもあり比較的好調に推移した。鍛造業は、生産量が13か月連続で対前年割れとなり、自動車用と産業機械・土木建設機械用とも前年を下回った。自動車用ではトヨタ系の不正問題による生産・出荷停止、能登半島地震、台風の影響もみられるなか、年度後半にやや持ち直す傾向がみられたものの、先行き不透明の景況感で終始した。建築金物製造業は、燃料価格・建築資材をはじめとする原材料費の高騰や物流コストの高止まり、人件費

の高騰、人手不足の課題がみられ、各月、前年同月を下回る状況で推移した。

非製造業では、電気機器卸売業が、電線と電設の両部門とも増収増益で推移し、銅建値の高値維持であったことや、設備投資、箱物関連や民間集合住宅設備の荷動きなどが増収増益に寄与した。しかし、電線ケーブルが不足する問題は徐々に解消されていたが、人件費や運送費等の上昇や人材不足が課題となった。警備業は、8月頃からコロナ禍前の状態に戻り、年後半に大型のイベントや大阪・関西万博関係の受注等がみられるなど好転の兆しがみられたが、人員不足が課題となった。建設業は、リフォームの依頼がみられた一方、物価高で依頼件数が減少し全体的に受注件数が伸び悩み、また、施工金額が収益につながらない水準にとどまるなど、厳しい状況で推移した。貨物運送業は、見積りの問い合わせ件数が、前年と同等かやや減少で推移し、また、燃料価格の高止まりと資器材の値上がりなどの影響で経費は上昇し、年後半には値下げ競争に伴う単価の低下などもあり、収益が好転する動きはみられなかった。

景況の水準は、非製造業が製造業を上回る水準で推移したが、業種によって差がみられ、価格や経費が高止まりすることで、収益の確保が困難化する業種が多かった。コスト高や人材不足を懸念する業種が多く、全体として好転する材料が少なく、先行き不透明であるとする業種が多かった。

主要経済指標

表 1 個人消費（大型小売店販売、家計、耐久消費財販売）

| 区 分<br>年 月 | 大 型 小 売 店 販 売 額       |            |              |            | 現 金 給 与 総 額（名 目） |            |            |                       | 乗 用 車 新 車 販 売 台 数 |                       |                       |            | 家 電 大 型 専 門 店 販 売 額   |            |            |       |           |       |      |      |
|------------|-----------------------|------------|--------------|------------|------------------|------------|------------|-----------------------|-------------------|-----------------------|-----------------------|------------|-----------------------|------------|------------|-------|-----------|-------|------|------|
|            | 大 阪 府                 |            | 全 国          |            | 大 阪 府            |            | 全 国        |                       | 大 阪 府             |                       | 全 国                   |            | 大 阪 府                 |            | 全 国        |       |           |       |      |      |
|            | 百貨店＋<br>スーパー<br>（百万円） | 前年比<br>（％） | 百貨店<br>（百万円） | 前年比<br>（％） | スーパー<br>（百万円）    | 前年比<br>（％） | 実 額<br>（円） | 賃 金 指 数<br>前年比<br>（％） | 実 額<br>（円）        | 賃 金 指 数<br>前年比<br>（％） | 普通車＋<br>小型車＋軽<br>（台数） | 前年比<br>（％） | 普通車＋<br>小型車＋軽<br>（台数） | 前年比<br>（％） | 前年比<br>（％） |       |           |       |      |      |
| 2020年      | 1,556,054             | -16.7      | 682,066      | -30.1      | 873,988          | -2.2       | 19,504,951 | -5.4                  | 369,194           | 100.0                 | -1.2                  | 365,100    | 100.0                 | -1.7       | 201,805    | -11.8 | 3,809,981 | -11.4 | 0.2  | 5.1  |
| 2021       | 1,567,758             | 0.3        | 709,087      | 4.0        | 858,671          | -2.6       | 19,907,136 | 0.9                   | 373,155           | 101.1                 | 1.0                   | 368,493    | 100.9                 | 1.0        | 198,425    | -1.7  | 3,675,698 | -3.5  | -2.1 | -2.3 |
| 2022       | 1,722,447             | 9.9        | 863,753      | 21.8       | 858,694          | 0.0        | 20,660,329 | 3.8                   | 383,871           | 103.9                 | 2.8                   | 379,732    | 104.0                 | 3.1        | 181,012    | -8.8  | 3,448,298 | -6.2  | 2.7  | 0.0  |
| 2023       | 1,904,938             | 10.6       | 1,009,136    | 16.8       | 895,802          | 4.3        | 21,604,942 | 4.6                   | 388,359           | 105.1                 | 1.2                   | 386,982    | 105.9                 | 1.8        | 213,784    | 18.1  | 3,992,728 | 15.8  | 2.9  | -1.1 |
| 2024       | 2,071,249             | 8.7        | 1,147,415    | 13.7       | 923,833          | 3.1        | 22,381,178 | 3.6                   | 405,722           | 109.9                 | 4.5                   | 397,789    | 108.9                 | 3.3        | 203,028    | -5.0  | 3,725,197 | -6.7  | 1.6  | 2.1  |
| 22年1～3月    | 392,967               | 2.7        | 186,825      | 6.8        | 206,142          | -0.7       | 4,885,580  | 1.9                   | 314,415           | 85.2                  | 1.8                   | 315,288    | 86.4                  | 2.6        | 50,439     | -20.8 | 988,686   | -17.4 | 1.0  | -0.9 |
| 4～6        | 410,803               | 20.5       | 202,901      | 58.1       | 207,902          | -2.2       | 4,978,724  | 5.1                   | 400,834           | 108.6                 | 2.7                   | 399,280    | 109.4                 | 2.4        | 38,816     | -16.0 | 724,225   | -14.4 | 6.0  | -0.1 |
| 7～9        | 420,516               | 9.4        | 205,816      | 22.8       | 214,700          | -0.9       | 5,077,831  | 4.1                   | 363,919           | 98.6                  | 3.9                   | 355,658    | 97.4                  | 3.0        | 44,521     | -1.4  | 847,189   | 2.1   | 2.6  | -0.3 |
| 10～12      | 498,161               | 8.3        | 268,211      | 12.6       | 229,950          | 3.7        | 5,718,194  | 4.0                   | 455,831           | 123.4                 | 2.7                   | 447,767    | 122.7                 | 3.9        | 47,236     | 9.0   | 888,198   | 10.7  | 4.4  | 1.1  |
| 23年1～3月    | 438,352               | 11.5       | 226,536      | 21.3       | 211,816          | 2.8        | 5,116,434  | 4.7                   | 316,759           | 85.8                  | 0.7                   | 320,496    | 87.8                  | 1.6        | 60,222     | 19.4  | 1,154,094 | 16.7  | 4.2  | -1.3 |
| 4～6        | 448,890               | 9.3        | 230,658      | 13.7       | 218,232          | 5.0        | 5,199,205  | 4.4                   | 409,137           | 110.8                 | 2.1                   | 411,035    | 112.6                 | 2.9        | 49,449     | 27.4  | 893,600   | 23.4  | 0.1  | -4.9 |
| 7～9        | 475,215               | 13.0       | 248,421      | 20.7       | 226,794          | 5.6        | 5,368,426  | 5.7                   | 364,510           | 98.7                  | 0.1                   | 360,659    | 98.8                  | 1.4        | 52,224     | 17.3  | 964,933   | 13.9  | 5.2  | 3.0  |
| 10～12      | 542,481               | 8.9        | 303,522      | 13.2       | 238,960          | 3.9        | 5,920,877  | 3.5                   | 462,335           | 125.2                 | 1.5                   | 454,371    | 124.5                 | 1.5        | 51,889     | 9.9   | 980,101   | 10.3  | 1.8  | -1.4 |
| 24年1～3月    | 491,353               | 12.1       | 270,781      | 19.5       | 220,571          | 4.1        | 5,408,260  | 5.7                   | 324,354           | 87.8                  | 2.4                   | 324,674    | 88.9                  | 1.7        | 52,911     | -12.1 | 968,083   | -16.1 | -0.4 | -0.3 |
| 4～6        | 509,705               | 13.5       | 286,514      | 24.2       | 223,192          | 2.3        | 5,436,175  | 4.6                   | 430,159           | 116.5                 | 5.1                   | 422,368    | 115.7                 | 3.2        | 45,433     | -8.1  | 831,993   | -6.9  | 5.6  | 4.9  |
| 7～9        | 500,207               | 5.3        | 267,624      | 7.7        | 232,583          | 2.6        | 5,501,643  | 2.5                   | 378,478           | 102.5                 | 3.8                   | 371,254    | 101.7                 | 3.4        | 53,174     | 1.8   | 976,383   | 1.2   | 1.7  | 1.8  |
| 10～12      | 569,984               | 5.1        | 322,496      | 6.3        | 247,487          | 3.6        | 6,035,100  | 1.9                   | 489,899           | 132.7                 | 6.0                   | 471,451    | 129.1                 | 4.3        | 51,510     | -0.7  | 948,738   | -3.2  | -0.1 | 2.2  |
| 24年1月      | 162,859               | 9.4        | 87,606       | 15.9       | 75,253           | 2.6        | 1,826,037  | 3.3                   | 315,404           | 85.4                  | 1.3                   | 320,657    | 87.8                  | 1.7        | 16,313     | -5.9  | 285,431   | -10.8 | -4.8 | -6.0 |
| 2          | 154,322               | 13.2       | 83,733       | 21.3       | 70,588           | 4.9        | 1,699,073  | 7.4                   | 312,650           | 84.7                  | 2.8                   | 313,408    | 85.9                  | 1.8        | 17,118     | -11.9 | 298,491   | -16.2 | -1.8 | -1.4 |
| 3          | 174,172               | 13.7       | 99,442       | 21.3       | 74,730           | 5.0        | 1,883,150  | 6.6                   | 345,008           | 93.4                  | 0.4                   | 339,957    | 93.1                  | 1.7        | 19,480     | -16.9 | 384,161   | -19.6 | 4.9  | 6.3  |
| 4          | 163,764               | 12.0       | 90,778       | 22.0       | 72,986           | 1.5        | 1,755,426  | 2.7                   | 332,999           | 90.2                  | 2.2                   | 330,504    | 90.5                  | 2.0        | 14,406     | -10.2 | 258,762   | -10.6 | 5.2  | 3.5  |
| 5          | 172,764               | 15.5       | 98,181       | 29.2       | 74,583           | 1.3        | 1,817,183  | 4.2                   | 333,612           | 90.4                  | 2.8                   | 334,010    | 91.5                  | 2.5        | 14,237     | -8.1  | 261,327   | -3.9  | 1.0  | 0.6  |
| 6          | 173,178               | 13.2       | 97,555       | 21.5       | 75,622           | 3.9        | 1,863,565  | 6.7                   | 623,865           | 169.0                 | 5.5                   | 602,589    | 165.1                 | 4.4        | 16,790     | -6.3  | 311,904   | -6.1  | 10.4 | 10.3 |
| 7          | 177,814               | 6.1        | 99,890       | 10.8       | 77,924           | 0.8        | 1,895,819  | 1.2                   | 470,764           | 127.5                 | 4.3                   | 459,951    | 126.0                 | 3.7        | 18,100     | 3.6   | 338,703   | 5.5   | 3.7  | 1.6  |
| 8          | 163,234               | 6.5        | 81,964       | 7.8        | 81,270           | 5.2        | 1,866,442  | 4.5                   | 325,042           | 88.0                  | 2.7                   | 327,096    | 89.6                  | 3.1        | 15,185     | -0.4  | 271,468   | -3.2  | 8.1  | 3.6  |
| 9          | 159,158               | 3.1        | 85,770       | 4.3        | 73,388           | 1.6        | 1,739,381  | 1.8                   | 339,628           | 92.0                  | 2.9                   | 326,714    | 89.5                  | 3.1        | 19,889     | 2.0   | 366,212   | 0.8   | -6.3 | 0.2  |
| 10         | 165,253               | 2.2        | 89,691       | 3.7        | 75,563           | 0.5        | 1,789,477  | -0.6                  | 337,033           | 91.3                  | 0.9                   | 328,293    | 89.9                  | 2.9        | 18,407     | 3.5   | 337,677   | 1.0   | -3.9 | -2.4 |
| 11         | 178,419               | 5.3        | 99,627       | 5.5        | 78,792           | 5.1        | 1,897,623  | 3.3                   | 346,909           | 94.0                  | 3.9                   | 344,743    | 94.4                  | 4.4        | 18,429     | 1.8   | 330,611   | -3.9  | -1.1 | 3.3  |
| 12         | 226,311               | 7.1        | 133,178      | 8.7        | 93,133           | 4.9        | 2,348,000  | 2.8                   | 785,755           | 212.8                 | 6.6                   | 741,317    | 203.1                 | 4.9        | 14,674     | -8.3  | 280,450   | -7.0  | 3.4  | 4.8  |

資料：近畿経済産業局「百貨店・スーパー販売状況」。大阪府統計課「毎月勤労統計調査地方調査」、厚生労働省「毎月勤労統計調査」。(一社)日本自動車販売協会連合会。(一社)全国軽自動車協会連合会。  
経済産業省「商業動態統計」。

- (注) 1. 大型小売店販売額の前年比は全店ベース。  
2. 現金給与総額は調査産業計。賃金指数は2020年=100。事業所規模30人以上分。年は年平均。四半期の実績は、3ヶ月の平均（大阪産業経済リサーチセンターにて算出）。  
3. 新車販売台数はナンバードベース。

表2 投資（建築着工、公共工事）、輸出入

| 区 分<br>年 月 | 新 設 住 宅 着 工 戸 数 |            |        |        |             | 非居住用建築物着工床面積 |            |            |            |            | 公共工事請負金額    |            |         | 輸 出 通 関 額 |         |      |           | 輸 入 通 関 額 |         |       |           |       |
|------------|-----------------|------------|--------|--------|-------------|--------------|------------|------------|------------|------------|-------------|------------|---------|-----------|---------|------|-----------|-----------|---------|-------|-----------|-------|
|            | 大 阪 府           |            | 全 国    |        | 分譲住宅<br>(戸) | 貸 家<br>(戸)   | 持 家<br>(戸) | 前年比<br>(%) | 総 計<br>(戸) | 前年比<br>(%) | 総 計<br>(千㎡) | 前年比<br>(%) | 大 阪 府   | 全 国       | 近 畿 圏   | 全 国  | 近 畿 圏     | 全 国       | 近 畿 圏   | 全 国   | 近 畿 圏     |       |
|            | 総 計<br>(戸)      | 前年比<br>(%) |        |        |             |              |            |            |            |            |             |            |         |           |         |      |           |           |         |       |           |       |
| 2020年      | 64,988          | -7.2       | 10,695 | 28,423 | 25,638      | 815,340      | -9.9       | 3,537      | 14.5       | -9.1       | 44,236      | -9.1       | 494,020 | 3.1       | 153,702 | -5.5 | 683,991   | -11.1     | 131,273 | -10.8 | 680,108   | -13.5 |
| 2021       | 69,000          | 6.2        | 11,705 | 32,134 | 24,745      | 856,484      | 5.0        | 3,359      | -5.0       | 9.5        | 48,460      | 9.5        | 520,070 | 5.3       | 186,002 | 21.0 | 830,914   | 21.5      | 155,080 | 18.1  | 848,750   | 24.8  |
| 2022       | 69,614          | 0.9        | 10,153 | 35,521 | 23,627      | 859,528      | 0.4        | 3,516      | 4.7        | -2.6       | 47,203      | -2.6       | 564,410 | 8.5       | 216,266 | 16.3 | 981,736   | 18.2      | 208,258 | 34.3  | 1,185,032 | 39.6  |
| 2023       | 69,264          | -0.5       | 9,562  | 35,307 | 24,168      | 819,623      | -4.6       | 2,687      | -23.6      | -8.0       | 43,448      | -8.0       | 640,811 | 13.5      | 209,439 | -3.2 | 1,008,730 | 2.7       | 188,539 | -9.5  | 1,103,951 | -6.8  |
| 2024       | 69,213          | -0.1       | 9,802  | 37,322 | 21,914      | 792,098      | -3.4       | 2,376      | -11.6      | -9.8       | 39,200      | -9.8       | 640,913 | 0.0       | 215,309 | 2.8  | 1,070,879 | 6.2       | 190,753 | 1.2   | 1,125,591 | 2.0   |
| 22年 1～3月   | 15,525          | -2.2       | 2,376  | 7,268  | 5,838       | 200,424      | 4.9        | 519        | -37.9      | -3.7       | 10,576      | -3.7       | 102,981 | -4.1      | 48,668  | 15.0 | 219,777   | 14.5      | 45,854  | 31.5  | 254,571   | 35.5  |
| 4～6        | 17,466          | -2.6       | 2,512  | 9,235  | 5,680       | 218,134      | -1.3       | 1,043      | 35.4       | 6.4        | 13,573      | 6.4        | 238,678 | 13.8      | 53,798  | 17.2 | 239,400   | 15.9      | 51,249  | 37.4  | 286,325   | 41.0  |
| 7～9        | 18,753          | -1.6       | 2,651  | 8,752  | 7,157       | 224,759      | 0.0        | 601        | -23.2      | 15.1       | 12,552      | 15.1       | 129,121 | 12.8      | 55,500  | 18.3 | 256,310   | 23.2      | 55,672  | 39.4  | 320,272   | 47.7  |
| 10～12      | 17,870          | 10.7       | 2,614  | 10,266 | 4,952       | 216,211      | -1.6       | 1,354      | 39.4       | -24.0      | 10,502      | -24.0      | 93,630  | 5.7       | 58,300  | 14.5 | 266,250   | 18.7      | 55,483  | 29.1  | 323,865   | 34.4  |
| 23年 1～3月   | 19,687          | 26.8       | 2,329  | 9,573  | 7,741       | 201,723      | 0.6        | 698        | 34.6       | -2.9       | 10,271      | -2.9       | 107,534 | 4.4       | 49,691  | 2.1  | 230,271   | 4.8       | 47,557  | 3.7   | 282,629   | 11.0  |
| 4～6        | 15,831          | -9.4       | 2,276  | 8,009  | 5,523       | 207,826      | -4.7       | 599        | -42.6      | -17.4      | 11,206      | -17.4      | 270,862 | 13.5      | 51,495  | -4.3 | 243,235   | 1.6       | 45,677  | -10.9 | 261,383   | -8.7  |
| 7～9        | 16,972          | -9.5       | 2,587  | 8,654  | 5,603       | 207,481      | -7.7       | 648        | 7.8        | -14.3      | 10,752      | -14.3      | 157,828 | 22.2      | 53,415  | -3.8 | 259,170   | 1.1       | 46,769  | -16.0 | 269,041   | -16.0 |
| 10～12      | 16,774          | -6.1       | 2,370  | 9,071  | 5,301       | 202,593      | -6.3       | 742        | -45.2      | 6.8        | 11,218      | 6.8        | 104,587 | 11.7      | 54,839  | -5.9 | 276,055   | 3.7       | 48,535  | -12.5 | 290,899   | -10.2 |
| 24年 1～3月   | 16,350          | -17.0      | 2,192  | 9,082  | 5,044       | 182,276      | -9.6       | 548        | -21.6      | -6.4       | 9,616       | -6.4       | 77,394  | -28.0     | 50,680  | 2.0  | 250,565   | 8.8       | 44,088  | -7.3  | 269,131   | -4.8  |
| 4～6        | 19,247          | 21.6       | 2,253  | 10,812 | 6,146       | 208,778      | 0.5        | 698        | 16.5       | -8.0       | 10,313      | -8.0       | 331,544 | 22.4      | 53,163  | 3.2  | 264,662   | 8.8       | 47,369  | 3.7   | 279,747   | 7.0   |
| 7～9        | 16,592          | -2.2       | 2,698  | 8,858  | 5,001       | 203,381      | -2.0       | 657        | 1.4        | -8.6       | 9,827       | -8.6       | 152,044 | -3.7      | 54,885  | 2.8  | 270,810   | 4.5       | 50,311  | 7.6   | 287,269   | 6.8   |
| 10～12      | 17,024          | 1.5        | 2,659  | 8,570  | 5,723       | 197,663      | -2.4       | 473        | -36.2      | -15.8      | 9,444       | -15.8      | 79,931  | -23.6     | 56,581  | 3.2  | 284,843   | 3.2       | 48,985  | 0.9   | 289,445   | -0.5  |
| 24年 1月     | 5,330           | -5.5       | 694    | 2,843  | 1,779       | 58,849       | -7.5       | 174        | -53.4      | -16.1      | 3,269       | -16.1      | 14,761  | -50.1     | 14,973  | 6.2  | 73,327    | 11.9      | 15,412  | -9.3  | 91,238    | -9.6  |
| 2          | 4,663           | -21.1      | 701    | 2,753  | 1,197       | 59,162       | -8.2       | 203        | 37.2       | -13.0      | 3,105       | -13.0      | 19,877  | -40.9     | 16,436  | -1.0 | 82,489    | 7.8       | 14,504  | 2.3   | 86,643    | 0.8   |
| 3          | 6,357           | -21.9      | 797    | 3,486  | 2,068       | 64,265       | -12.8      | 171        | -4.0       | 15.7       | 3,242       | 15.7       | 42,756  | -3.6      | 19,271  | 1.5  | 94,749    | 7.4       | 14,172  | -13.5 | 91,250    | -4.7  |
| 4          | 7,613           | 42.1       | 747    | 4,867  | 1,985       | 76,572       | 13.9       | 227        | -8.6       | -15.8      | 4,045       | -15.8      | 132,874 | 15.7      | 17,412  | -1.9 | 89,796    | 8.3       | 15,590  | 1.5   | 94,843    | 8.4   |
| 5          | 6,164           | 26.7       | 750    | 3,157  | 2,247       | 65,921       | -5.2       | 85         | -61.9      | -11.7      | 2,874       | -11.7      | 99,479  | -2.0      | 17,310  | 10.5 | 82,777    | 13.5      | 16,229  | 8.1   | 95,029    | 9.5   |
| 6          | 5,470           | -2.4       | 756    | 2,788  | 1,914       | 66,285       | -6.7       | 386        | 203.5      | 7.8        | 3,394       | 7.8        | 99,191  | 82.0      | 18,441  | 2.0  | 92,089    | 5.4       | 15,550  | 1.7   | 89,875    | 3.2   |
| 7          | 5,087           | -4.3       | 904    | 2,849  | 1,320       | 68,014       | -0.2       | 285        | 6.4        | -8.8       | 3,294       | -8.8       | 54,517  | -14.2     | 18,987  | 7.7  | 96,116    | 10.2      | 17,891  | 13.9  | 102,399   | 16.5  |
| 8          | 5,886           | 24.0       | 903    | 2,849  | 2,120       | 66,819       | -5.1       | 214        | 44.3       | -13.4      | 3,053       | -13.4      | 47,649  | 26.2      | 17,560  | 4.0  | 84,325    | 5.5       | 16,030  | 4.2   | 91,439    | 2.2   |
| 9          | 5,619           | -18.6      | 891    | 3,160  | 1,561       | 68,548       | -0.6       | 158        | -31.8      | -3.8       | 3,480       | -3.8       | 49,878  | -11.8     | 18,338  | -3.0 | 90,369    | -1.8      | 16,391  | 4.6   | 93,430    | 1.9   |
| 10         | 5,324           | -16.7      | 905    | 2,896  | 1,515       | 69,669       | -2.9       | 134        | -56.0      | -27.3      | 3,361       | -27.3      | 42,048  | 3.8       | 19,001  | 4.0  | 94,256    | 3.1       | 17,322  | 4.6   | 98,979    | 0.5   |
| 11         | 5,717           | 7.2        | 923    | 2,559  | 2,185       | 65,037       | -1.8       | 259        | 113.1      | -0.6       | 3,149       | -0.6       | 21,305  | -31.3     | 18,047  | 2.4  | 91,520    | 3.8       | 15,783  | -4.9  | 92,676    | -3.8  |
| 12         | 5,983           | 18.5       | 831    | 3,115  | 2,023       | 62,957       | -2.5       | 80         | -74.8      | -14.3      | 2,935       | -14.3      | 16,578  | -49.8     | 19,533  | 3.1  | 99,067    | 2.7       | 15,879  | 3.2   | 97,790    | 1.8   |

資料：国土交通省「建築着工統計」。西日本建設業保証(株)「公共工事前払金保証統計」。大阪税関、財務省「貿易統計」。

(注) 1. 非居住用建築物は、農林水産業用、鉱業、建設業用、製造業用、電気・ガス・熱供給・水道業用、情報通信業用、運輸業用、金融・保険業用、不動産業用、飲食店、宿泊業用、医療、福祉用、教育、学習支援業用、その他のサービス業用、公務用、他に分類されないの合計。

2. 利用関係別新設住宅着工戸数(大阪府)のうち、「給与住宅」は省略。

表3 観光、雇用

| 区 分<br>年 月 | 入国外国人人数    |            |            | 延べ宿泊者数*    |            |            | 客室稼働率*      |            |             |      |       | 完全失業率 |     | 有効求人倍率 |      | 新規求人倍率 |      |
|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|------------|-------------|------|-------|-------|-----|--------|------|--------|------|
|            | 関西国際空港経由   |            | 全 国        | 大 阪 府      |            | 全 国        | 大 阪 府       |            | 東 京 都       |      | 大 阪 府 | 近 畿   | 全 国 | 大 阪 府  | 全 国  | 大 阪 府  | 全 国  |
|            | 総 計        |            |            | 前年比        |            |            | シテイ<br>ホテル  |            | ビジネス<br>ホテル |      |       |       |     |        |      |        |      |
|            | 総 計<br>(人) | 前年比<br>(%) | (人)        | 前年比<br>(%) | (人)        | 前年比<br>(%) | (人)         | 前年比<br>(%) | (人)         | (%)  | (人)   | (%)   | (%) | (%)    | (倍)  | (倍)    | (倍)  |
| 2020年      | 1,011,186  | -87.9      | 4,307,257  | -86.2      | 15,261,570 | -63.3      | 266,629,160 | 30.4       | 32.0        | 26.5 | 35.7  | 3.4   | 3.0 | 2.8    | 1.31 | 2.36   | 1.97 |
| 2021       | 41,121     | -95.9      | 353,119    | -91.8      | 15,357,680 | 0.6        | 258,876,780 | 29.1       | 30.8        | 30.9 | 41.8  | 3.5   | 3.1 | 2.8    | 1.14 | 2.31   | 2.06 |
| 2022       | 885,470    | 2053.3     | 4,198,045  | 1088.8     | 26,996,430 | 75.8       | 377,170,580 | 52.0       | 47.0        | 50.2 | 60.7  | 3.1   | 2.9 | 2.6    | 1.24 | 2.53   | 2.31 |
| 2023       | 6,525,181  | 636.9      | 25,830,810 | 515.3      | 44,005,760 | 63.0       | 499,904,310 | 74.6       | 69.1        | 72.7 | 80.7  | 3.2   | 2.9 | 2.6    | 1.30 | 2.74   | 2.32 |
| 2024       | 9,457,919  | 44.9       | 36,779,964 | 42.4       | 49,992,530 | 13.6       | 534,435,690 | 76.7       | 79.1        | 76.3 | 84.0  | 3.1   | 2.8 | 2.5    | 1.21 | 2.63   | 2.29 |
| 22年1～3月    | 17,280     | 8.5        | 140,614    | 58.1       | 4,655,050  | 56.0       | 70,086,590  | 34.1       | 37.7        | 35.1 | 47.5  | 2.9   | 2.8 | 2.7    | 1.17 | 2.37   | 2.20 |
| 4～6        | 72,240     | 977.6      | 480,498    | 820.2      | 6,037,990  | 138.9      | 87,287,220  | 47.2       | 46.5        | 47.3 | 59.6  | 3.6   | 3.1 | 2.7    | 1.20 | 2.42   | 2.23 |
| 7～9        | 100,956    | 1112.1     | 651,683    | 433.4      | 7,110,520  | 82.9       | 103,976,920 | 53.2       | 45.5        | 51.2 | 59.2  | 3.3   | 2.8 | 2.6    | 1.27 | 2.54   | 2.30 |
| 10～12      | 694,994    | 6741.2     | 2,925,250  | 3158.8     | 9,192,860  | 54.3       | 115,819,850 | 71.1       | 57.8        | 68.2 | 75.5  | 2.8   | 2.7 | 2.4    | 1.30 | 2.65   | 2.37 |
| 23年1～3月    | 1,173,816  | 6692.9     | 4,971,536  | 3435.6     | 9,493,760  | 103.9      | 113,057,240 | 68.4       | 57.5        | 66.1 | 76.3  | 3.7   | 2.9 | 2.6    | 1.30 | 2.73   | 2.32 |
| 4～6        | 1,525,597  | 2011.8     | 6,117,153  | 1173.1     | 10,240,410 | 69.6       | 118,941,730 | 74.3       | 68.3        | 72.0 | 80.9  | 3.0   | 2.8 | 2.7    | 1.32 | 2.75   | 2.31 |
| 7～9        | 1,784,717  | 1667.8     | 6,881,510  | 956.0      | 11,642,470 | 63.7       | 134,899,120 | 75.0       | 73.1        | 73.6 | 80.3  | 3.4   | 3.2 | 2.6    | 1.30 | 2.71   | 2.27 |
| 10～12      | 2,041,051  | 193.7      | 7,860,611  | 168.7      | 12,629,120 | 37.4       | 133,006,220 | 79.7       | 77.6        | 79.2 | 85.4  | 2.6   | 2.6 | 2.4    | 1.25 | 2.64   | 2.26 |
| 24年1～3月    | 2,188,237  | 86.4       | 8,656,324  | 74.1       | 11,439,610 | 20.5       | 123,591,290 | 73.4       | 73.6        | 72.8 | 81.4  | 3.3   | 2.9 | 2.5    | 1.22 | 2.67   | 2.29 |
| 4～6        | 2,384,359  | 56.3       | 9,164,305  | 49.8       | 12,361,070 | 20.7       | 128,976,340 | 76.9       | 79.2        | 79.2 | 84.8  | 3.2   | 2.7 | 2.7    | 1.20 | 2.52   | 2.22 |
| 7～9        | 2,332,068  | 30.7       | 8,990,132  | 30.6       | 12,846,370 | 10.3       | 141,082,780 | 74.5       | 78.3        | 74.1 | 82.1  | 3.2   | 2.8 | 2.6    | 1.19 | 2.56   | 2.25 |
| 10～12      | 2,553,255  | 25.1       | 9,969,203  | 26.8       | 13,345,460 | 5.7        | 140,785,280 | 82.0       | 85.6        | 79.2 | 87.8  | 2.8   | 2.6 | 2.3    | 1.22 | 2.62   | 2.26 |
| 24年1月      | 700,407    | 84.7       | 2,765,316  | 76.4       | 3,654,130  | 28.2       | 38,013,850  | 68.5       | 66.5        | 64.6 | 75.3  | 2.6   |     | 2.4    | 1.23 | 2.59   | 2.27 |
| 2          | 715,175    | 93.7       | 2,812,785  | 84.3       | 3,686,700  | 23.2       | 39,900,130  | 76.2       | 73.8        | 75.1 | 82.9  | 3.3   |     | 2.6    | 1.21 | 2.59   | 2.26 |
| 3          | 772,655    | 81.7       | 3,078,223  | 63.9       | 4,098,780  | 12.2       | 45,677,310  | 75.5       | 80.6        | 78.6 | 85.9  | 3.1   |     | 2.6    | 1.22 | 2.82   | 2.34 |
| 4          | 772,863    | 63.8       | 3,029,147  | 51.0       | 4,159,930  | 27.1       | 43,246,140  | 80.1       | 83.1        | 81.4 | 86.8  | 3.0   |     | 2.6    | 1.22 | 2.51   | 2.21 |
| 5          | 798,810    | 59.4       | 3,042,217  | 53.4       | 4,133,730  | 14.6       | 44,156,130  | 74.7       | 78.5        | 77.3 | 83.6  | 3.2   |     | 2.6    | 1.20 | 2.49   | 2.20 |
| 6          | 812,686    | 47.1       | 3,092,941  | 45.4       | 4,067,410  | 21.0       | 41,574,070  | 75.8       | 75.9        | 79.0 | 83.9  | 2.4   |     | 2.5    | 1.19 | 2.56   | 2.25 |
| 7          | 831,042    | 38.2       | 3,225,712  | 36.6       | 4,462,200  | 19.9       | 45,893,370  | 76.1       | 79.1        | 77.1 | 83.7  | 2.9   |     | 2.7    | 1.19 | 2.56   | 2.24 |
| 8          | 762,633    | 28.9       | 2,905,796  | 28.0       | 4,402,240  | 7.0        | 51,547,240  | 73.2       | 76.6        | 71.8 | 80.0  | 3.2   |     | 2.5    | 1.19 | 2.52   | 2.30 |
| 9          | 738,393    | 24.8       | 2,858,624  | 27.1       | 3,981,930  | 4.6        | 43,642,170  | 74.2       | 79.2        | 73.4 | 82.6  | 2.8   |     | 2.4    | 1.20 | 2.59   | 2.20 |
| 10         | 829,350    | 26.5       | 3,290,904  | 27.9       | 4,547,190  | 7.4        | 48,137,620  | 82.5       | 86.3        | 78.0 | 88.4  | 2.8   |     | 2.5    | 1.22 | 2.57   | 2.25 |
| 11         | 838,505    | 26.3       | 3,192,755  | 27.5       | 4,410,730  | 5.9        | 47,084,390  | 82.2       | 87.0        | 81.6 | 88.6  | 2.7   |     | 2.5    | 1.21 | 2.59   | 2.25 |
| 12         | 885,400    | 22.7       | 3,485,544  | 25.3       | 4,387,540  | 3.7        | 45,563,270  | 81.3       | 83.4        | 77.9 | 86.3  | 2.3   |     | 2.4    | 1.22 | 2.70   | 2.27 |

資料：法務省入国管理局「出入国管理統計」、国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」、総務省統計局「労働力調査」、厚生労働省「一般職業紹介状況」。  
(注) 従業者数10人以上の施設

表4 生産（工業指数、所定外労働時間）

| 区 分<br>年 月 | 生 産 指 数  |                 |          |           |                  |                   |                   |          |                 |       |                 | 生産者出荷指数          |                        |       |       | 生産者製品在庫指数 |                          |                          |             | 所定外労働時間指数 |            |       |
|------------|----------|-----------------|----------|-----------|------------------|-------------------|-------------------|----------|-----------------|-------|-----------------|------------------|------------------------|-------|-------|-----------|--------------------------|--------------------------|-------------|-----------|------------|-------|
|            | 大 阪 府    |                 |          |           |                  |                   |                   |          |                 |       |                 | 全 国              | 大 阪 府                  | 全 国   | 大 阪 府 | 全 国       | 大 阪 府                    | 全 国                      | 大 阪 府       |           |            |       |
|            | 製造工<br>業 | 鉄鋼・<br>非鉄金<br>属 | 金属製<br>品 | 生産用<br>機械 | 汎用・<br>業務用<br>機械 | 電子部<br>品・デ<br>バイス | 電気・<br>情報通<br>信機械 | 輸送機<br>械 | 窯業・<br>土石製<br>品 | 化学    | 石油・<br>石炭製<br>品 | プラス<br>チック<br>製品 | パル<br>プ・紙<br>・紙<br>加工品 | 食料品   | その他   | 鉱工業       | 製<br>造<br>工<br>業<br>(平均) | 製<br>造<br>工<br>業<br>(平均) | 鉱工業<br>(平均) | 製造業       | 前年比<br>(%) |       |
| 2020年      | 100.0    | 100.0           | 100.0    | 100.0     | 100.0            | 100.0             | 100.0             | 100.0    | 100.0           | 100.0 | 100.0           | 100.0            | 100.0                  | 100.0 | 100.0 | 100.0     | 100.0                    | 100.0                    | 100.0       | 100.0     | -19.8      |       |
| 2021       | 103.9    | 112.3           | 98.5     | 111.9     | 113.8            | 181.1             | 118.4             | 81.5     | 113.9           | 98.0  | 81.5            | 103.2            | 101.9                  | 101.0 | 103.2 | 105.4     | 104.3                    | 95.0                     | 96.1        | 100.7     | 0.6        |       |
| 2022       | 99.4     | 103.6           | 90.4     | 110.5     | 112.9            | 85.2              | 114.7             | 74.1     | 89.5            | 98.0  | 95.6            | 97.3             | 102.5                  | 97.0  | 100.4 | 105.3     | 100.6                    | 103.9                    | 102.6       | 116.2     | 15.4       |       |
| 2023       | 96.0     | 92.6            | 98.0     | 100.8     | 105.4            | 75.7              | 103.1             | 75.2     | 98.6            | 106.9 | 73.1            | 92.5             | 100.6                  | 99.7  | 95.2  | 103.9     | 97.7                     | 103.2                    | 99.6        | 101.9     | -12.3      |       |
| 2024       | 92.6     | 86.8            | 104.5    | 94.1      | 98.9             | 76.3              | 97.6              | 55.9     | 80.9            | 100.8 | 96.9            | 89.6             | 97.7                   | 102.0 | 90.9  | 101.2     | 93.3                     | 99.9                     | 96.7        | 102.2     | -4.4       |       |
| 22年1～3月    | 101.9    | 107.2           | 90.6     | 113.2     | 113.3            | 116.4             | 116.7             | 80.9     | 106.9           | 99.9  | 92.3            | 101.8            | 102.1                  | 98.7  | 102.4 | 105.4     | 102.5                    | 104.0                    | 101.9       | 101.1     | 114.5      | 20.6  |
| 4～6        | 98.3     | 105.1           | 85.8     | 100.2     | 110.5            | 100.6             | 112.3             | 75.1     | 102.7           | 98.5  | 98.5            | 96.7             | 103.6                  | 94.8  | 103.0 | 103.9     | 99.0                     | 103.4                    | 100.3       | 98.7      | 117.5      | 19.6  |
| 7～9        | 99.3     | 102.7           | 94.4     | 115.8     | 116.8            | 65.4              | 112.5             | 69.6     | 69.8            | 95.7  | 101.5           | 96.7             | 103.2                  | 98.6  | 98.3  | 107.1     | 101.0                    | 105.2                    | 104.7       | 101.9     | 114.5      | 15.0  |
| 10～12      | 98.4     | 100.1           | 90.9     | 112.0     | 111.0            | 65.3              | 117.9             | 69.7     | 79.4            | 98.5  | 90.6            | 94.0             | 101.4                  | 96.6  | 98.5  | 105.3     | 100.2                    | 103.7                    | 103.4       | 103.2     | 118.3      | 7.6   |
| 23年1～3月    | 94.7     | 93.0            | 94.3     | 100.3     | 99.1             | 71.1              | 111.1             | 64.2     | 84.6            | 105.0 | 86.4            | 90.7             | 99.7                   | 96.7  | 95.5  | 103.5     | 97.7                     | 102.7                    | 100.2       | 103.3     | 107.9      | -5.7  |
| 4～6        | 95.0     | 94.5            | 90.8     | 106.7     | 107.5            | 77.2              | 103.1             | 77.4     | 98.3            | 95.7  | 68.5            | 92.1             | 100.3                  | 102.0 | 96.5  | 104.8     | 96.8                     | 103.9                    | 99.6        | 105.3     | 100.8      | -14.2 |
| 7～9        | 97.4     | 93.0            | 94.1     | 101.9     | 105.0            | 88.0              | 100.7             | 87.8     | 108.9           | 118.5 | 46.6            | 92.6             | 99.6                   | 102.6 | 95.3  | 103.3     | 99.1                     | 103.0                    | 98.9        | 104.6     | 96.4       | -15.8 |
| 10～12      | 96.4     | 90.0            | 110.6    | 97.2      | 109.4            | 60.6              | 97.9              | 73.6     | 100.9           | 106.2 | 83.4            | 94.2             | 102.8                  | 97.5  | 93.7  | 104.4     | 97.3                     | 103.6                    | 99.7        | 103.3     | 102.2      | -13.6 |
| 24年1～3月    | 95.3     | 87.0            | 95.0     | 96.5      | 102.4            | 130.8             | 94.9              | 78.0     | 101.7           | 105.6 | 90.1            | 87.1             | 98.8                   | 102.2 | 89.4  | 99.0      | 93.6                     | 97.5                     | 97.9        | 102.4     | 97.3       | -9.9  |
| 4～6        | 93.5     | 89.0            | 101.1    | 102.5     | 97.5             | 86.0              | 94.3              | 62.4     | 94.9            | 93.7  | 104.0           | 90.5             | 96.8                   | 104.1 | 92.8  | 101.1     | 93.2                     | 100.7                    | 96.6        | 102.5     | 98.9       | -1.9  |
| 7～9        | 91.2     | 86.4            | 119.7    | 86.8      | 96.9             | 64.6              | 103.7             | 50.0     | 68.2            | 87.5  | 105.8           | 91.4             | 97.4                   | 99.6  | 90.7  | 101.4     | 94.5                     | 100.0                    | 94.3        | 102.3     | 95.6       | -0.8  |
| 10～12      | 89.6     | 83.9            | 102.5    | 89.2      | 98.9             | 33.1              | 98.7              | 35.0     | 55.4            | 112.9 | 91.6            | 89.1             | 97.2                   | 101.1 | 89.6  | 101.8     | 90.8                     | 100.0                    | 97.7        | 101.6     | 105.5      | 3.2   |
| 24年1月      | 96.0     | 88.2            | 101.9    | 99.2      | 104.2            | 135.2             | 92.6              | 74.4     | 99.2            | 100.7 | 97.3            | 88.0             | 100.2                  | 97.7  | 90.1  | 97.7      | 93.9                     | 96.5                     | 98.0        | 102.0     | 86.9       | -15.9 |
| 2          | 94.0     | 85.6            | 95.4     | 87.0      | 100.8            | 106.3             | 99.0              | 73.8     | 101.7           | 100.2 | 91.0            | 87.7             | 98.6                   | 104.1 | 90.9  | 98.0      | 93.2                     | 96.1                     | 98.2        | 102.3     | 100.0      | -11.6 |
| 3          | 95.8     | 87.3            | 87.6     | 103.2     | 102.3            | 151.0             | 93.2              | 85.8     | 104.2           | 116.0 | 82.0            | 85.6             | 97.5                   | 104.8 | 87.1  | 101.4     | 93.7                     | 100.0                    | 97.6        | 102.9     | 104.9      | -6.6  |
| 4          | 93.2     | 85.9            | 134.3    | 99.3      | 94.2             | 96.6              | 92.2              | 40.8     | 99.0            | 99.0  | 87.8            | 89.0             | 96.3                   | 101.4 | 91.4  | 100.8     | 93.6                     | 99.7                     | 98.2        | 102.4     | 104.1      | -6.6  |
| 5          | 94.2     | 91.8            | 84.5     | 115.5     | 100.9            | 83.6              | 96.0              | 67.5     | 94.7            | 94.2  | 96.0            | 92.8             | 97.5                   | 104.4 | 93.9  | 101.9     | 93.8                     | 102.8                    | 95.4        | 102.7     | 94.3       | -1.7  |
| 6          | 93.1     | 89.3            | 84.5     | 92.8      | 97.3             | 77.9              | 94.8              | 78.9     | 91.0            | 87.8  | 128.1           | 89.8             | 96.5                   | 106.6 | 93.1  | 100.7     | 92.2                     | 99.5                     | 96.2        | 102.4     | 98.4       | -4.0  |
| 7          | 96.8     | 87.2            | 169.0    | 87.5      | 96.9             | 73.9              | 96.7              | 66.2     | 93.9            | 83.2  | 105.8           | 91.0             | 100.1                  | 97.3  | 89.7  | 102.5     | 101.0                    | 101.0                    | 95.5        | 102.5     | 96.7       | -4.1  |
| 8          | 87.3     | 86.2            | 96.6     | 85.3      | 99.2             | 57.0              | 106.6             | 46.0     | 53.5            | 77.8  | 105.7           | 92.2             | 95.4                   | 101.4 | 89.7  | 100.5     | 88.5                     | 99.1                     | 94.0        | 102.1     | 92.6       | -2.6  |
| 9          | 89.4     | 85.9            | 93.4     | 87.5      | 94.6             | 62.9              | 107.7             | 37.8     | 57.2            | 101.6 | 106.0           | 90.9             | 96.8                   | 100.2 | 92.8  | 101.2     | 93.9                     | 99.9                     | 93.5        | 102.3     | 97.5       | -2.5  |
| 10         | 91.4     | 84.1            | 121.7    | 90.5      | 94.3             | 34.2              | 99.4              | 38.6     | 56.1            | 105.1 | 99.3            | 93.8             | 96.3                   | 100.4 | 90.9  | 103.0     | 91.6                     | 101.1                    | 97.1        | 102.2     | 107.4      | 0.0   |
| 11         | 87.4     | 81.9            | 92.0     | 89.4      | 96.6             | 32.0              | 97.8              | 29.2     | 55.6            | 116.5 | 81.0            | 86.3             | 96.4                   | 103.0 | 89.0  | 101.3     | 88.9                     | 99.5                     | 98.2        | 101.4     | 104.9      | 0.8   |
| 12         | 90.0     | 85.7            | 93.7     | 87.7      | 105.8            | 33.1              | 98.8              | 37.2     | 54.4            | 117.0 | 94.6            | 87.1             | 98.8                   | 99.8  | 88.8  | 101.0     | 91.9                     | 99.5                     | 97.9        | 101.1     | 104.1      | 3.3   |

資料：大阪府統計課「大阪府工業指数」。経済産業省「鉱工業指数」。大阪府統計課「毎月勤労統計調査地方調査」。

(注) 1.工業指数と鉱工業指数は2020年＝100。年の数値は原指数、その他は季節調整指数。生産者製品在庫指数の年及び四半期の数値は各月末値の平均値。

2.大阪の2024年分は年間補正前の数値。

3.所定外労働時間指数は2020年＝100。事業所規模30人以上分。

表5 物価（消費者物価、企業物価）、企業倒産

| 区分<br>年月 | 消費者物価指数          |      |       |       |                |            |       |           |       |       | 企業物価指数           |                        |          |           | 企業倒産       |               |            |           |            |               |            |           |            |               |
|----------|------------------|------|-------|-------|----------------|------------|-------|-----------|-------|-------|------------------|------------------------|----------|-----------|------------|---------------|------------|-----------|------------|---------------|------------|-----------|------------|---------------|
|          | 大阪市              |      |       |       |                |            |       |           |       |       | 全国               |                        |          |           | 大阪府        |               |            |           | 全国         |               |            |           |            |               |
|          | 総合<br>前年比<br>(%) | 食料   | 住居    | 水道    | 光熱・<br>家具・家事用品 | 被服及び<br>履物 | 保健医療  | 交通・<br>通信 | 教育    | 娯楽    | 総合<br>前年比<br>(%) | 国内<br>企業<br>前年比<br>(%) | 輸入<br>輸出 | 件数<br>(件) | 前年比<br>(%) | 負債金額<br>(百万円) | 前年比<br>(%) | 件数<br>(件) | 前年比<br>(%) | 負債金額<br>(百万円) | 前年比<br>(%) | 件数<br>(件) | 前年比<br>(%) | 負債金額<br>(百万円) |
| 2020年    | 100.0            | -0.1 | 100.0 | 100.0 | 100.0          | 100.0      | 100.0 | 100.0     | 100.0 | 100.0 | 100.0            | 0.0                    | 100.0    | 100.0     | 1,132      | -3.8          | 177,606    | -21.6     | 7,773      | -7.3          | 1,220,046  | -14.3     | 1,220,046  | -14.3         |
| 2021     | 99.4             | -0.6 | 99.1  | 101.2 | 101.3          | 102.2      | 100.1 | 99.5      | 91.1  | 100.0 | 101.8            | -0.2                   | 104.6    | 121.6     | 847        | -25.2         | 82,070     | -53.8     | 6,030      | -22.4         | 1,150,703  | -5.7      | 1,150,703  | -5.7          |
| 2022     | 101.9            | 2.5  | 103.8 | 102.1 | 113.1          | 108.1      | 101.8 | 99.8      | 87.5  | 100.5 | 102.4            | 2.5                    | 114.9    | 169.1     | 845        | -0.2          | 93,609     | 14.1      | 6,428      | 6.6           | 2,331,443  | 102.6     | 2,331,443  | 102.6         |
| 2023     | 105.3            | 3.4  | 112.8 | 103.3 | 101.6          | 116.8      | 105.2 | 102.1     | 90.2  | 101.9 | 107.2            | 3.2                    | 119.9    | 161.2     | 1,080      | 27.8          | 104,799    | 12.0      | 8,690      | 35.2          | 2,402,645  | 3.1       | 2,402,645  | 3.1           |
| 2024     | 108.3            | 2.8  | 117.3 | 104.1 | 108.7          | 121.8      | 107.1 | 103.6     | 91.0  | 103.4 | 112.2            | 2.7                    | 122.6    | 165.7     | 1,362      | 26.1          | 196,912    | 87.9      | 10,006     | 15.1          | 2,343,538  | -2.5      | 2,343,538  | -2.5          |
| 22年1～3月  | 100.2            | 0.5  | 100.9 | 101.7 | 110.4          | 102.5      | 99.6  | 99.4      | 86.4  | 100.2 | 101.9            | 0.9                    | 110.5    | 143.2     | 214        | -4.5          | 19,134     | 16.5      | 1,504      | -3.2          | 307,602    | 5.9       | 307,602    | 5.9           |
| 4～6      | 101.2            | 2.2  | 102.4 | 101.8 | 113.8          | 106.2      | 101.9 | 99.4      | 86.5  | 100.6 | 102.8            | 2.4                    | 113.8    | 170.1     | 185        | -9.8          | 18,872     | 8.0       | 1,556      | 4.4           | 1,401,216  | 336.1     | 1,401,216  | 336.1         |
| 7～9      | 102.2            | 2.9  | 104.2 | 102.1 | 110.9          | 110.8      | 101.2 | 99.9      | 88.6  | 100.6 | 103.8            | 2.9                    | 116.1    | 184.0     | 199        | -0.5          | 32,332     | -8.6      | 1,585      | 9.5           | 340,869    | 34.6      | 340,869    | 34.6          |
| 10～12    | 103.8            | 4.3  | 107.7 | 103.0 | 117.4          | 112.8      | 104.4 | 100.5     | 88.7  | 100.6 | 101.1            | 3.9                    | 119.1    | 179.1     | 247        | 13.3          | 23,271     | 81.7      | 1,783      | 15.9          | 281,756    | -1.4      | 281,756    | -1.4          |
| 23年1～3月  | 104.4            | 4.2  | 109.5 | 103.1 | 114.0          | 113.6      | 103.6 | 101.0     | 88.8  | 100.9 | 103.4            | 3.6                    | 119.8    | 162.8     | 242        | 13.1          | 23,211     | 21.3      | 1,956      | 30.1          | 300,538    | -2.3      | 300,538    | -2.3          |
| 4～6      | 104.9            | 3.7  | 112.0 | 103.2 | 103.0          | 116.6      | 105.7 | 102.0     | 89.1  | 102.3 | 106.3            | 3.4                    | 119.9    | 158.1     | 256        | 38.4          | 23,320     | 23.6      | 2,086      | 34.1          | 633,542    | -54.8     | 633,542    | -54.8         |
| 7～9      | 105.6            | 3.4  | 114.1 | 103.4 | 95.8           | 117.5      | 104.5 | 102.2     | 91.3  | 102.2 | 109.5            | 3.1                    | 119.8    | 159.0     | 261        | 31.2          | 31,676     | -2.0      | 2,238      | 41.2          | 962,456    | 182.4     | 962,456    | 182.4         |
| 10～12    | 106.2            | 2.3  | 115.6 | 103.6 | 93.7           | 119.5      | 106.8 | 103.0     | 91.5  | 102.2 | 109.5            | 2.9                    | 119.9    | 165.0     | 321        | 30.0          | 26,592     | 14.3      | 2,410      | 35.2          | 506,109    | 79.6      | 506,109    | 79.6          |
| 24年1～3月  | 106.7            | 2.2  | 115.1 | 103.9 | 103.0          | 118.9      | 105.4 | 103.0     | 90.8  | 102.4 | 110.3            | 2.5                    | 120.6    | 163.9     | 284        | 17.4          | 30,975     | 33.4      | 2,319      | 18.6          | 360,971    | 20.1      | 360,971    | 20.1          |
| 4～6      | 107.7            | 2.6  | 115.9 | 104.1 | 108.4          | 121.6      | 107.1 | 103.2     | 90.7  | 103.7 | 111.5            | 2.7                    | 122.2    | 170.6     | 368        | 43.8          | 46,767     | 100.5     | 2,612      | 25.2          | 360,071    | -43.2     | 360,071    | -43.2         |
| 7～9      | 108.7            | 2.9  | 117.3 | 103.9 | 112.6          | 123.4      | 106.4 | 103.8     | 91.2  | 103.7 | 113.3            | 2.8                    | 123.3    | 164.5     | 326        | 24.9          | 40,615     | 28.2      | 2,483      | 10.9          | 1,015,330  | 5.5       | 1,015,330  | 5.5           |
| 10～12    | 110.0            | 3.6  | 121.0 | 104.6 | 110.7          | 123.2      | 109.5 | 104.3     | 91.4  | 103.7 | 113.6            | 2.9                    | 124.4    | 163.8     | 384        | 19.6          | 78,555     | 195.4     | 2,592      | 7.6           | 607,166    | 20.0      | 607,166    | 20.0          |
| 24年1月    | 106.6            | 1.7  | 115.2 | 103.7 | 102.5          | 119.8      | 104.5 | 102.9     | 90.9  | 102.2 | 109.0            | 2.2                    | 120.3    | 162.6     | 93         | 20.8          | 4,034      | -33.7     | 701        | 23.0          | 79,123     | 40.0      | 79,123     | 40.0          |
| 2        | 106.7            | 2.6  | 115.1 | 103.9 | 102.9          | 117.7      | 105.4 | 103.1     | 90.7  | 102.5 | 110.3            | 2.8                    | 120.5    | 164.7     | 77         | 16.7          | 5,323      | -4.5      | 712        | 23.4          | 139,596    | 44.5      | 139,596    | 44.5          |
| 3        | 106.9            | 2.4  | 115.1 | 104.0 | 103.7          | 119.3      | 106.2 | 103.1     | 90.7  | 102.6 | 111.5            | 2.7                    | 120.9    | 164.3     | 114        | 15.2          | 21,618     | 87.1      | 906        | 12.0          | 142,252    | -3.5      | 142,252    | -3.5          |
| 4        | 107.3            | 2.2  | 115.9 | 104.1 | 104.2          | 120.0      | 107.3 | 102.6     | 90.8  | 103.7 | 111.8            | 2.5                    | 121.5    | 167.7     | 101        | 38.4          | 9,323      | 8.1       | 783        | 28.4          | 113,423    | -44.4     | 113,423    | -44.4         |
| 5        | 107.8            | 2.7  | 116.2 | 104.1 | 108.5          | 122.3      | 107.4 | 103.1     | 90.5  | 103.7 | 111.9            | 2.8                    | 122.4    | 171.5     | 156        | 88.0          | 17,884     | 128.4     | 1,009      | 42.9          | 136,769    | -50.9     | 136,769    | -50.9         |
| 6        | 107.9            | 3.0  | 115.7 | 104.0 | 112.6          | 122.5      | 106.7 | 103.8     | 90.8  | 103.7 | 110.7            | 2.8                    | 122.7    | 172.5     | 111        | 11.0          | 19,560     | 184.8     | 820        | 6.5           | 109,879    | -27.2     | 109,879    | -27.2         |
| 7        | 108.4            | 2.9  | 116.0 | 103.9 | 116.4          | 122.8      | 106.0 | 103.8     | 91.1  | 103.7 | 112.0            | 2.8                    | 123.4    | 173.2     | 134        | 48.9          | 18,606     | 208.1     | 953        | 25.7          | 781,206    | 381.8     | 781,206    | 381.8         |
| 8        | 109.1            | 3.3  | 117.3 | 103.9 | 115.9          | 123.8      | 105.1 | 103.6     | 91.5  | 103.7 | 115.3            | 3.0                    | 123.1    | 162.5     | 88         | 1.1           | 8,978      | 85.1      | 723        | -4.9          | 101,370    | -6.5      | 101,370    | -6.5          |
| 9        | 108.5            | 2.6  | 118.5 | 104.0 | 105.5          | 123.5      | 108.0 | 104.1     | 91.0  | 103.7 | 112.6            | 2.5                    | 123.5    | 157.8     | 104        | 23.8          | 13,031     | -37.3     | 807        | 12.1          | 132,754    | -80.8     | 132,754    | -80.8         |
| 10       | 109.4            | 2.9  | 120.1 | 104.5 | 105.9          | 123.1      | 108.8 | 104.5     | 91.2  | 103.7 | 113.7            | 2.3                    | 124.0    | 162.3     | 125        | 35.9          | 57,297     | 1032.8    | 909        | 14.6          | 252,913    | -17.9     | 252,913    | -17.9         |
| 11       | 110.0            | 3.5  | 121.0 | 104.6 | 110.1          | 123.5      | 109.6 | 104.4     | 91.3  | 103.7 | 113.6            | 2.9                    | 124.4    | 165.0     | 127        | 13.4          | 9,523      | 5.7       | 841        | 4.2           | 160,223    | 68.9      | 160,223    | 68.9          |
| 12       | 110.6            | 4.3  | 121.9 | 104.7 | 116.1          | 122.9      | 110.1 | 104.1     | 91.7  | 103.7 | 113.6            | 3.6                    | 124.9    | 164.0     | 132        | 12.8          | 11,735     | -6.3      | 842        | 4.0           | 194,030    | 88.0      | 194,030    | 88.0          |

資料：大阪府統計課「大阪市消費者物価指数」。総務省「消費者物価指数」。日本銀行「企業物価指数」。(株)東京商工リサーチ調べ。

(注) 1. 消費者物価指数は2020年＝100。費目別指数(大阪市)のうち、「諸雑費」は省略。

2. 企業物価指数は2020年＝100。

3. 企業倒産は負債総額1,000万円以上分。小数第2位以下を切り捨て。



大阪府

商工労働部商工労働総務課  
大阪産業経済リサーチセンター

〒559-8555 大阪市住之江区南港北 1-14-16 大阪府咲洲庁舎（さきしまコスモタワー）24 階  
TEL 06(6210)9937 / FAX 06(6210)9940

メールアドレス [shorosomu-g06@mbx.pref.osaka.lg.jp](mailto:shorosomu-g06@mbx.pref.osaka.lg.jp)

ホームページ <https://www.pref.osaka.lg.jp/aid/sangyou/index.html>

令和7年6月発行